

主体的に読書をしようとする子どもの育成をめざして

- 学校教育のすべての活動の中で取り組む読書活動年間計画の開発 -

近年，子どもたちの「読書離れ」が指摘される中，本に親しむ子どもを育てるために，様々な取組がすすめられている。しかし，子どもたちの読書の活動は，まだ十分だとはいえない状況である。そこで読書活動をすすめていくためには，子どもたちと本とが出会える読書環境を充実していくことが大切であると考え，本研究では，小学校全学年の読書活動年間計画と，それをもとにすすめた第1学年から第4学年までの実践例を提示する。

目 次

はじめに	1	第3章 読書活動の実際	
第1章 今、なぜ読書活動が必要なのか		第1節 低学年および 中学年における実証授業	
第1節 子どもたちのおかれている 読書の現状		(1) 低学年での読書活動	16
(1) 子どもの読書実態	1	(2) 中学年での読書活動	20
(2) 家庭における読書環境	3	第2節 子どもたちの主体的な 読書活動をめざして	
第2節 学校教育の中での読書の現状		(1) 読書活動の必要性	22
(1) 小学校における読書環境	4	(2) 読書活動の広がり求めて	24
(2) 読書活動年間計画の必要性	6	おわりに	25
第2章 読書活動年間計画の開発		付 表 1	
第1節 読書活動年間計画の開発		(1) 第1学年 読書活動年間計画	26
(1) 読書活動の内容と指導方法	7	(2) 第2学年 読書活動年間計画	28
(2) 読書活動年間計画の作成	11	(3) 第3学年 読書活動年間計画	30
第2節 単元指導計画と読書活動案		(4) 第4学年 読書活動年間計画	32
(1) 単元指導計画の作成	13	(5) 第5学年 読書活動年間計画	34
(2) 読書活動案の作成	15	(6) 第6学年 読書活動年間計画	36
		付 表 2	
		読書の指導方法と内容一覧表	38

< 研究担当 > 寺 島 三矢子 (京都市総合教育センター研究課研究員)

< 研究指導 > 外 川 正 明 (京都市総合教育センター研究課指導主事)

< 研究協力員 > 草 木 祐 子 (京都市立川岡小学校教諭)

藤 本 鈴 香 (京都市立東山小学校教諭)

土江田 郁 子 (京都市立花園小学校教諭)

山 岡 美 樹 (京都市立明德小学校教諭)

はじめに

テレビやコンピュータ、テレビゲームなどの情報メディアが発達し、子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化してきた。その結果、全国学校図書館協議会が毎年行っている読書調査をはじめ、様々な調査からも明らかになっているように、子どもたちの「読書離れ」・「活字離れ」がすすんできている。

これらの現状から、子どもたちの読書活動を充実していくために、「子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることをかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が促進されなければならない。（第2条）」(1)という基本理念をもとに『子どもの読書活動の推進に関する法律』が公布された。また文部科学省も、子どもたちの豊かな人間性をはぐくむためには、道徳教育の推進、多様な体験活動の促進、教育相談体制の充実等と合わせて「読書活動の充実」を積極的に推進するように求めている。(2)このように、読書に親しみ、将来にわたって本からの恩恵を受けることのできる子の育成をめざして、本と子ども・本と授業をつなぐ読書活動の重要性が大きくクローズ・アップされている。

しかし、現在多くの学校で取り組まれている「朝の読書」(全校一斉読書)や読み聞かせなどの活動以外にも、読書活動の充実を図るためには、子どもたちが本と出会う機会をさらに多くもつ必要があると考えた。「読書をする」という行為には「学習のための読書」と「楽しみのための読書」、この2つの働きがある。これらは自己形成を達成させる行為であるといわれており、言い換えれば、読書は子どもたちの成長に大きく影響を及ぼす。(3)そのために、学校教育のすべての活動において、特に学習活動の中で読書活動の場を設けることが必要である。

そこで本研究では、国語科の目標「読むこと」を手がかりにして、各学年でつきたい読書の力(以後読書力と記す)を明らかにするとともに、それぞれの学習内容に位置づけた読書活動年間計画を作成することを目的とする。また、これをもとに展開した小学校第1～4学年の実践例を提示していく。

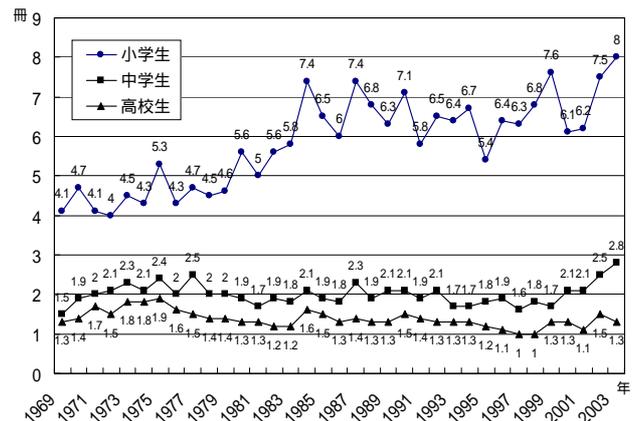
第1章 今、なぜ読書活動が必要なのか

第1節 子どもたちのおかれている読書の現状

(1) 子どもの読書実態

下記の図1-1は、全国学校図書館協議会(以後「全国SLA」と記す)が調査した、過去35年間の5月1ヶ月間の平均読書冊数を表したものである。(4)

図1-1 過去35回分の5月1ヶ月間の平均読書冊数



第49回読書調査報告(全国SLA)『学校図書館2003.11月号』

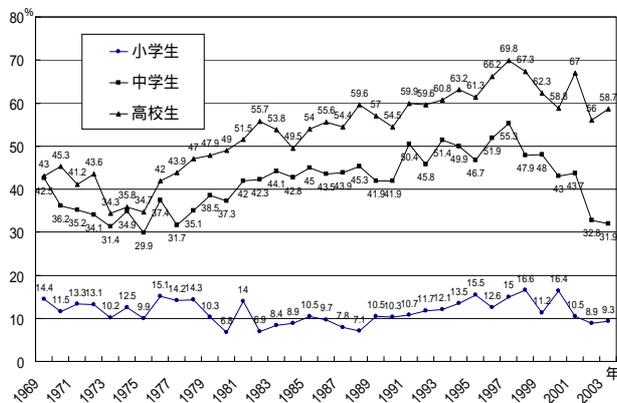
この図をみると、35年前と比べ2003年の平均読書冊数は、高校生ではあまり変化がみられないが、小・中学生においては約2倍の本が読まれるようになり、2000年以降の読書冊数については、急激に増加していることがわかる。これは、2001年12月に『子どもの読書活動の推進に関する法律』(5)が公布され、それに伴って「朝の読書」(全校一斉読書)や読み聞かせなどの読書活動が、数多く取り組まれるようになった結果であると考えられる。

近年、子どもたちの「読書離れ」・「活字離れ」が問題になっているが、35年前と比べると子どもたちの読書冊数は増えているといえる。

しかし一方では、小学生から中学生、そして高校生へと学年が進むにつれ、読書冊数の大幅な減少がみられる。2003年の調査結果をみると、小学生の平均読書冊数は8冊であるのに対し、中学生では2.8冊、高校生になると1.3冊と、学年が進むにつれ読書冊数の減少がみられる。学年が進むにつれ、本の難易度や1冊を読み終えるためにかかる時間などに違いがあるため、一概にはいえないが、子どもたちの読書習慣が定着したものとはなっていないということが考えられる。

下記の図1 - 2は、同じ全国SLAの調査による過去35年間の不読者数(5月1ヶ月間に読んだ本が0冊と答えた人数)の推移である。(6)

図1 - 2 過去35回分の不読者の推移

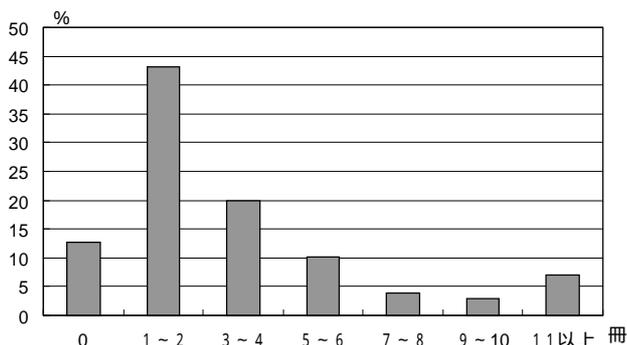


第49回読書調査報告(全国SLA)『学校図書館2003.11月号』

2001年に読書活動の推進に関する法律が公布されて以降、一時的に各校種とも不読者数の減少がみられた。しかし、翌2002年と、2003年を比べると小学生と高校生においては、不読者数の増加がみられる。現在、小学生では全体の約10%、中学生では約30%、高校生では約60%の子どもたちが1ヶ月に1冊も本を読んでいない、いわゆる不読者である。

下記の図1 - 3は、京都市子ども読書活動振興市民会議が行ったアンケート調査の結果(7)を示したものである。

図1 - 3 子どもたちの1ヶ月の読書量



『子どもの読書活動振興のためのアピール』

京都市子ども読書活動振興市民会議 2003.11

この図をみると、京都市の小、中学生の1ヶ月間の読書量は、全体の80%以上が1冊以上本を読んでいるということがわかる。しかし、読書冊数ごとの子どもたちの割合をみると、1~2冊とい

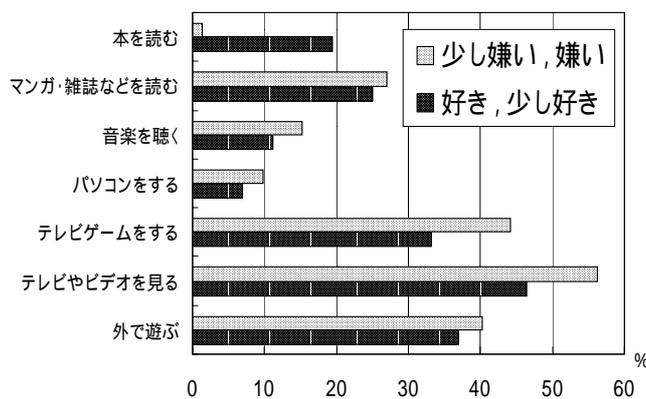
う答えが全体の約44%と最も多く、次いで3~4冊という答えが約20%、0冊という答えが約13%、11冊以上という答えが約8%と続く。このように、同じ年齢の子どもたちの中でも読書冊数の違いがみられる。

以上、三種類の調査結果から、子どもたちの読書活動には三点の問題点が考えられる。一点目は、学年が進むにつれ読書冊数が減少することから、読書の習慣が定着していないのではないかと危惧されること。二点目は、読書冊数の多い子どもと少ない子どもとがあり、同じ学年の中でもその違いがみられるということ。三点目は、様々な取組がすすめられているにもかかわらず1ヶ月間に読んだ本の冊数が0冊と答えている不読の子どもがいるということである。

こうした読書への取組の違いは、休日の子どもの姿にも表れている。

下記の図1 - 4は、子どもたちの休日の過ごし方と読書について調べた結果である。(8)

図1 - 4 読書好き、嫌い別 休日の生活実態



『子どもの読書活動振興のためのアピール』京都市子ども読書活動振興市民会議 2003.11のデータをもとに作成

この図からは、「読書が好き」または「少し好き」と答えている子どもたちも、「嫌い」または「少し嫌い」と答えている子どもたちも、休日の過ごし方にあまり違いはみられない。しかし「本を読む」という活動については、双方に大きな違いがみられる。「読書が好き」または「少し好き」と答えている子どもたちの20%近くが本を読んで過ごしているのに対し、「嫌い」または「少し嫌い」と答えている子どもたちは、わずか1%ほどしか本を読んでいない。

笹倉剛は著書の中で「戸外での遊びや読書、テレビなどに費やす時間が自分自身でバランスよくコントロールできる年齢になるまでは、やはり周

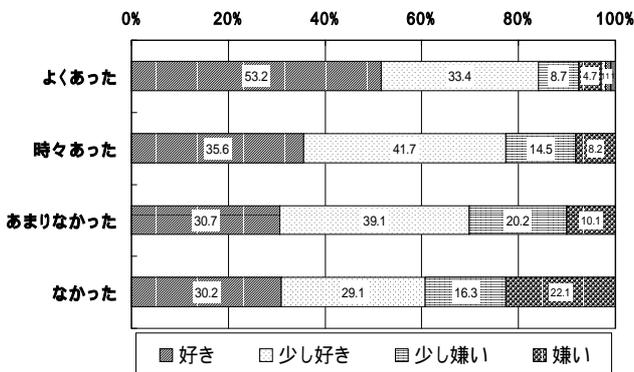
困にいる大人がその環境に気を配る必要がある」(9)と述べているように、子どもたちが自分で考え、バランスよく生活をコントロールできるように、読書や映像文化など、様々な出会いの場をバランスよく作ることが求められる。

今後、子どもたちの読書活動をすすめていく上において、これらの問題点を解決していくことが必要である。そこで、この読書量の個人差はどのようにして生まれてくるのかを考えていくことにした。原因の一つとして考えられることは、子どもたちを取り巻く読書環境が大きく影響しているのではないかと考えられる。そこで、子どもたちの生活の場である、家庭や学校での読書環境について調べていくことにする。

(2) 家庭における読書環境

下記の図1-5は京都市子ども読書活動振興市民会議が行った「読み聞かせの有無」と「読書が好きか嫌いか」というアンケート調査の結果を示したものである。(10)

図1-5 読み聞かせをしてもらった経験と読書の好き嫌い



『子どもの読書活動振興のためのアピール』京都市子ども読書活動振興市民会議 2003.11 のデータをもとに作成

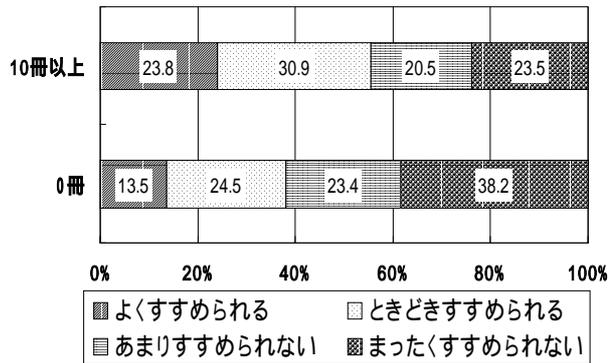
この図からは、幼児期に読み聞かせをしてもらった経験がよくあった子どもほど、小学校以降で「読書が好き」と答えている割合が多く、読み聞かせの経験がなかった子どもほど、「読書が好き」と答えている割合が少なくなる傾向があることがわかる。反対に読み聞かせの経験がない子どもほど「読書が嫌い」と答えている割合が増えている。

この結果から、幼児期の読み聞かせが、小学校以降の読書活動に大きく影響を及ぼし、読書量の個人差にもつながっているのではないかと考えることができる。つまり、斎藤惇夫が、幼い子ども

には「本の読み手、水先案内人が必要なのです。」(11)と著書の中で述べているように、子どもたちは、自分の一番身近な存在である父親や母親などからの読み聞かせを通して、安心して本の世界を楽しむことができ、そこから楽しかった体験と本を読むという行為とが結びつき、自ら読書を始めるきっかけになるのだと考えられるのである。

下記の図1-6は、家の人からの読書のすすめと子どもたちの読書量について全国SLAが調査した結果である。(12)

図1-6 家の人からの読書のすすめと読書量



第49回読書調査報告(全国SLA)

『学校図書館2003.11月号』のデータをもとに作成

この図によると、家族からの読書のすすめと読書量との関係がわかる。1ヶ月に10冊以上本を読んでいる子どもでは、「よく」と「ときどき」を合わせて、家の人から積極的に読書をすすめられている割合は50%を超える。これは、1ヶ月に1冊も本を読んでいないその38%よりもはるかに多い。このことから、家族による読書のすすめが、子どもたちの読書活動に大きく影響していることが考えられる。

しかし、1ヶ月に本を1冊も読めなかった子どものうち約60%は、家族から何らかの読書のすすめを受けている。それにもかかわらず、読めなかったのは、子どもたちの個人差にもよるだろうが、すすめられた本について「読みたい」と興味をもてなかったからではないだろうか。

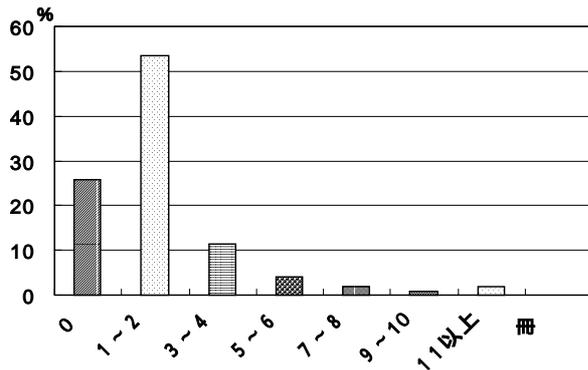
長崎青海は、子どもたちは「自分が興味をもった本については、よく読むのです。そのことについて知りたいという欲求が、積極的に読もうという姿勢になるのです」(13)と述べている。もしすすめられた本が、子どもたちの興味に即したものであったならば、おそらくその本を読んでいたであろう。このことから、読書のすすめをする場合、子どもたちが何に興味をもっているのかを知るこ

と、あるいは興味をもつように工夫することが大切である。

また、子どもたちの読書活動の身近なモデルとなる保護者の読書活動の有無や読書冊数も、子どもたちに影響するのではないだろうか。

下記の図1-7は、2頁の図1-3で調査した子どもたちの保護者を対象に1ヶ月間の読書量について調査した結果である。(14)

図1-7 保護者の1ヶ月間の読書量

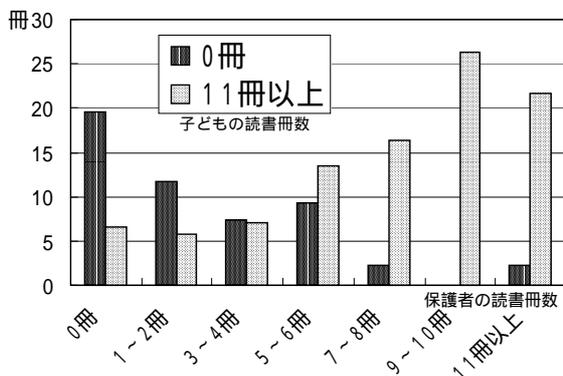


『子どもの読書活動振興のためのアピール』京都市子ども読書活動振興市民会議 2003.11のデータをもとに作成

この図から保護者の1ヶ月間の読書量をみると、全体の約70%が1ヶ月に1冊以上本を読んでいるということがわかる。また、読んでいる本の冊数の割合を個々にみると、1~2冊と答えている保護者が全体の約50%以上と最も多く、次いで0冊と答えている保護者の割合が25%以上である。この結果、保護者の読書量は、全体的にみて少ないのではないかということがいえる。

下記の図1-8は、保護者の1ヶ月の読書量と子どもの1ヶ月の読書量との関係を示したものである。(15)

図1-8 保護者の1ヶ月間の読書量と子どもの読書量



『子どもの読書活動振興のためのアピール』京都市子ども読書活動振興市民会議 2003.11のデータをもとに作成

この図からは、保護者の1ヶ月間の読書量が0冊である場合には、子どもの読書量も0冊である割合が増え、反対に保護者の読書量が9冊以上ある場合には、子どもの読書量も11冊以上である割合が増える。この結果、保護者の読書量と子どもの読書量は関連しているということが考えられる。長崎も著書の中で述べているように「親自身が読書に興味をもっていると(中略)子どもも自然に読書への興味が生まれてくる」(16)のである。また保護者の読書量が多いと本についての情報量も多くなるため、子どもたちへの読書のすすめが多くなることも考えられる。

このように、各家庭での読書環境の違いは、子どもたちの読書の活動に、大きく影響していることが考えられる。この違いを無くすためには、各家庭での働きかけが大変重要である。しかし、現在家庭により、その働きかけに違いがある以上、すべての子どもたちが、同じように学べる学校教育の場で、まずは十分な読書活動を行っていくことが必要である。

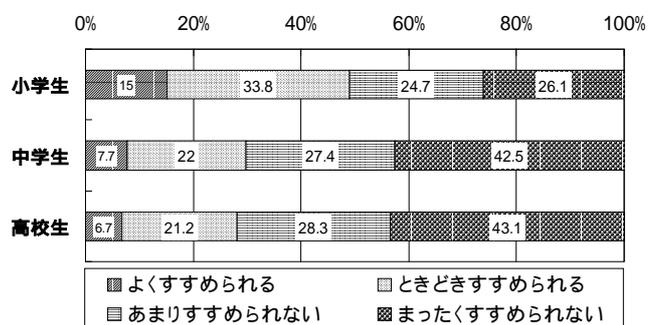
第2節 学校教育の中での読書の現状

(1) 小学校における読書環境

読書活動の重要性が伝えられる中、前項では、家庭での読書環境が子どもたちの読書の活動に大きく影響することを述べてきた。ここでは子どもたちのもう一つの生活場所である、学校での読書環境について述べていく。

下記の図1-9は、学校の先生からの読書のすすめについて調べた結果である。(17)

図1-9 学校の先生からの読書のすすめ



第49回読書調査報告(全国SLA)

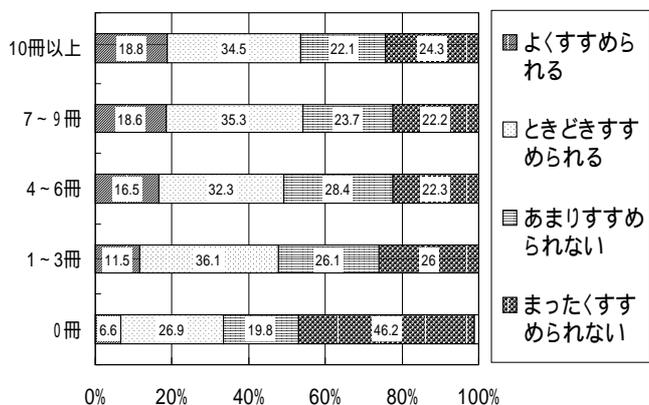
『学校図書館2003.11月号』のデータをもとに作成

この図をみると、読書を「よくすすめられる」と答えている割合は、小学生で全体の15%と少なく、「ときどきすすめられる」を合わせても、50%

に満たないことがわかる。中学生，高校生になると，さらにすすめられている割合は減少し，逆に「まったくすすめられない」と答えている割合が40%を超えている。この結果から，家庭と同様に学校でも子どもたちに読書をすすめる機会が少ないのではないかと考えられる。

次に学校の先生からの読書のすすめが子どもたちの読書の活動にどのように影響しているのかを調べてみることにする。下記の図1 - 10は，学校の先生からの読書のすすめと子どもたちの読書量を表したものである。(18)

図1 - 10 学校の先生からの読書のすすめと読書量



第49回読書調査報告(全国SLA)

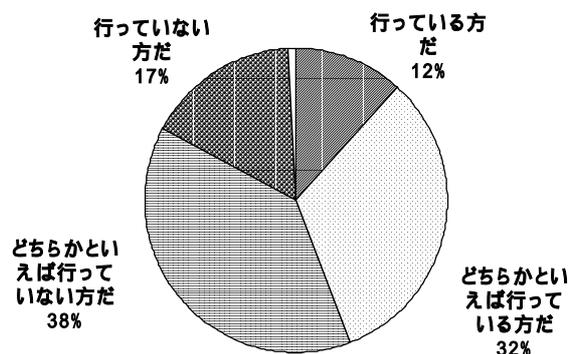
『学校図書館2003.11月号』のデータをもとに作成

この図からは，1ヶ月に7冊以上本を読んだと答えている子どもたちの50%以上が，学校の先生から読書を「よくすすめられる」または「ときどきすすめられる」と答えている。それに対し，読んだ本が0冊であると答えている子どもたちは，全体の約30%しか「よくすすめられる」または「ときどきすすめられる」と答えていない。逆に読書は「まったくすすめられていない」と答えている割合が多くなり，全体の50%近くを占めている。この結果から，家庭同様，学校でも読書をすすめられると，子どもたちの読書量が増すことが考えられる。「本来，本がきれいな子どもはひとりもない。本がきれいな子どもは，本に親しめるような環境が与えられなかっただけである。」(19)と笹倉も述べているように，子どもたちが「この本，読みたい」という思いをもち，自ら本を手にすることができるように働きかけることが必要なのである。

同時に，子どもたちが読みたいという思いを継続させて，読み続ける力を育てていくことも大切である。

ところが，下記の図1 - 11の国立教育政策研究所による「子どもたちの読書を習慣化させる取組を行っているか」という教員に対する質問紙調査の結果(20)をみると「取組を行っている方だ」と答えている教員の割合は全体の12%と大変少なく，「どちらかといえば行っている方だ」と答えている教員の割合の32%を含めても過半数に満たないという結果である。

図1 - 11 読書を習慣化させる取組を行っているか



『平成13年度 教育課程実施状況調査質問紙調査集計結果』
国立教育政策研究所教育課程研究センターのデータをもとに作成

以上，三種類の調査結果から考えて，家庭の読書環境と同様，各学校や指導者によって，読書を促す取組に違いがあるのではないかといえる。

長崎が「家庭と同じように担任の先生の読書への関心度によっても大きく違いがでてきます」(21)と述べているように，子どもたちとかかわる教員が読書活動に関心をもち，読書環境を整え，積極的に働きかけを行っていくことが，子どもたちの読書を支える大きな力となるのである。このためにも子どもたちが自ら本を読みたいと思うような働きかけを学校でも行うことが不可欠なのである。

このような状況の中，京都市においても各学校で様々な取組が報告されるようになってきた。中でも手軽に始めることができ，その有効性が伝えられている「朝の読書」(全校一斉読書)に取り組んでいるところが多いと思われる。京都市子ども読書活動振興市民会議の調査の結果によると，6頁の表1 - 1で示したように，「朝の読書」(全校一斉読書)に取り組んでいる学校が昨年に比べ増えており，小学校で100%，中学校で54.5%の実施率であるという結果が報告されている。

表 1 - 1 京都市立学校の朝の読書実施率の推移

	14年度	15年度
小学校	96.6%	100%
中学校	38.5%	54.5%

『子どもの読書活動振興のためのアピール』

京都市子ども読書活動振興市民会議 2003.11

しかし、2頁の図1 - 3からもわかるように、読書量に個人差があり、1ヶ月の不読者数が全体の10%を超えているという現状がある。

このことから考えて、現実には、「朝の読書」(全校一斉読書)が行われている学校でも、林公が提唱する「朝の読書」の四原則に基づいて取り組んでいる学校は少ないのではないかと危惧される。

この「朝の読書」(全校一斉読書)は、今から15年前に林公の提唱によりスタートしたものである。その後、全国に広がりを見せ、多くの著書によりその有効性が伝えられるようになってきた。この取組

資料1 - 1 「朝の読書」四原則

みんなでやる 毎日やる 好きな本でよい ただ読むだけ

『すぐできる朝の読書実践
マニュアル「小学校編」』林公/編

の中心となるのが上記の資料1 - 1で示した四原則(22)である。林が著書の中で「それなりに効果はあるでしょう。しかし、『朝の読書』がめざす効果はほとんどないでしょう」(23)と述べているように、この原則の上にたった取組でないと、その効果は薄いと考えられる。

しかし現実には、それぞれの学校の実態から、取組の日数に違いがみられたり、教職員の打ち合わせの時間に合わせて行うため、子どもたちと一緒に読書することができなかつたりすることが考えられ、学校間での取組の状況に違いが予想される。また、四原則の上にたった取組を行っているとしても、校内で十分に共通理解されておらず、指導者による読書活動の取組に違いが生まれることも考えられる。

林は、「本を選ぼうにもほとんどの子は、どんな本があるのか全然知らないだろう。また、子どもが自分で選ぶためには、すぐそばに選べる本の実物が豊富にあるかどうかの問題である」(24)と述べているように、ただ「好きな本を読みなさい」という指示だけで本を選ぶことは、それまでの生

活経験の中で読書に親しんできた子どもたちにとっては、あまり苦にはならないことであっても、読書の経験の少ない子どもたちにとっては大変難しい作業になる。そこで、自ら好きな本を選び、読むことができるように読書環境を整え、読書のすすめを行ったり、自分で本を選ぶための方法を指導したりすることが重要になってくるのである。このように、子どもたちの読書をすすめていくためには、学校間や指導者間で取組の違いをなくし、読書の活動をサポートしていく計画が必要である。

(2) 読書活動年間計画の必要性

このようにすべての学校で、すべての指導者が共通理解し、継続して読書活動を行っていくためには、学校での全教育活動の中に、読書活動を位置づけて行っていくことが大切である。

その読書活動を通して、楽しみや学習のための読書をすすめ、子どもたちの自己形成を促していくためには、「本を読むための指導である読書指導」と「本を利用するための知識を伝える利用指導」、この二つの指導内容を盛り込んでいくことが大切である。そして、このような内容を含めた、読書活動の年間計画を作成していくことが必要であると考える。

なぜならば、年間計画があることによって、各学年において系統立てて指導していくことで、今まで、指導者により違いがみられた読書活動の内容も、統一され、学年の系統性を踏まえて行うことができるようになる。またそれをもとに、必要な本を計画的に準備することもでき、子どもたちの読書環境を整えていく上でも大変有効であると考える。

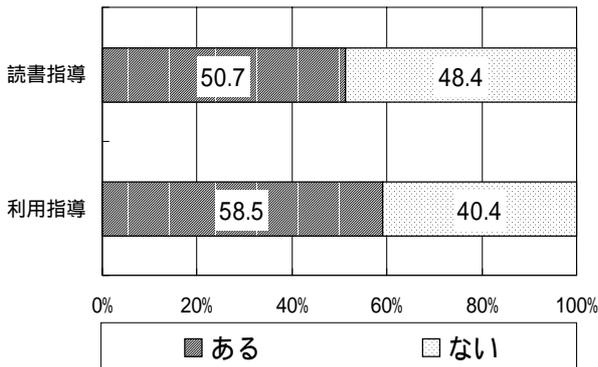
しかし、この読書指導や学校図書館の利用指導(以下、利用指導と記す)の年間計画を作成している学校は、まだまだ少ないのが現状である。

7頁の図1 - 12は全国SLAが小学校において読書指導、利用指導の年間計画があるかどうかを調査した結果である。(25)

この図からは、小学校での読書指導年間計画の作成率はおよそ50%であるということがわかる。また利用指導年間計画の作成率については、全体のおよそ60%であることがわかる。

この結果から、読書指導の年間計画よりも利用指導の年間計画の方が、作成率が高いことがわかるが、これは、総合的な学習の時間において、調べ学習を行う機会が増えたことが、その要因の一つとして考えられる。

図 1 - 12 読書指導，利用指導の年間計画はあるか



第 49 回読書調査報告 (全国 SLA)

『学校図書館 2003.11 月号』のデータをもとに作成

利用指導については、昭和 34 年に旧文部省が制定した『学校図書館基準』の中に「図書館の利用指導」(26)の指導事項が挙げられており、それをもとに作成された『資料・情報を活用する学び方の指導体系表』(いわゆる利用指導体系表)(27)を活用して、各学校などで利用指導の年間計画を作成し、指導されていることが多いと思われる。

しかし、学習指導要領が改訂になり、全面实施されてからは、上記の内容を指導することが時間的に難しくなっている。そのため、利用指導の時間が「本を利用するための知識を指導したり学校図書館の利活用についての指導を行ったりする」よりも調べ学習の時間として当てられている学校もあるのではないかと危惧される。

ただ「本を読みなさい」「本を利用して調べなさい」というだけでは、子どもたちはどのように読書をすすめたらよいのか、どのように本を活用すればよいのかわからず、読書活動の広がりには、あまり期待できない。

そこで、読書指導や利用指導ごとの年間計画ではなく、読書の指導や学校図書館の利活用に関する指導のどちらの内容も含んだ読書活動の場を計画的に設定するために、読書活動年間計画の作成が必要になってくるのである。

- (1) 文部法令研究会/監 『文部法令要覧平成 15 年版』ぎょうせい 2003.1 pp. 3269 ~ 3270
- (2) 文部科学省/編 『14 年度文部科学白書』2003.2 p. 45
- (3) 室伏武「読書技術の指導内容」『新読書指導辞典』第一法規 1981.7 p. 188
- (4) 社団法人全国学校図書館協議会『学校図書館』全国 SLA 研究・調査部「第 49 回読書調査報告」No.637 2003.11 p.13
- (5) 前掲 注(1)

- (6) 前掲 注(4) p.14
- (7) 京都市子ども読書活動振興市民会議『子どもの読書活動振興のためのアピール』2003.11 p.3
- (8) 前掲 注(7) p.30
- (9) 笹倉 剛 『心の扉をひらく本との出会い』北大路書房 2002.10 pp. 132 ~ 133
- (10) 前掲 注(7) p.29
- (11) 斎藤惇夫『現在(いま)、子どもたちが求めているもの子どもの成長と物語』キッズメイト 2001.5 p.91
- (12) 前掲 注(4) p.26 小学生
- (13) 長崎青海『読書と豊かな人間性』東方出版 1999.9 p.39
- (14) 前掲 注(7) p.28
- (15) 前掲 注(7) p.28
- (16) 前掲 注(13) pp. 48 ~ 49
- (17) 前掲 注(4) p.25
- (18) 前掲 注(4) p.25
- (19) 前掲 注(9) p.xi
- (20) 国立教育政策研究所教育課程研究センター 『平成 13 年度小中学校教育課程実施状況調査質問紙調査集計結果 国語』設問 2 (8)「読書を習慣化させるための特別な取組をおこなっていますか」(全校) 2003.5
- (21) 前掲 注(13) pp. 50 ~ 51
- (22) 林 公『すぐできる 朝の読書 実践マニュアル [小学校編]』小学館 2003.5 pp. 12 ~ 17
- (23) 前掲 注(22) p.24
- (24) 前掲 注(22) p.27
- (25) 社団法人全国学校図書館協議会『学校図書館』全国 SLA 研究・調査部 No.637 2003.11 「2003 年度学校図書館調査報告」 p.48
- (26) 図書館教育研究会『新学校図書館通論』学芸図書株式会社『学校図書館基準』「1 図書館の利用指導」1999.5 p.236
- (27) 社団法人全国図書館協議会『学校図書館』全国 SLA 笠原良郎「資料・情報を活用する学び方の指導」No.501 1992.7 pp. 12 ~ 13

第 2 章 読書活動年間計画の開発

第 1 節 読書活動年間計画の開発

(1) 読書活動の内容と指導方法

『小学校学習指導要領解説 総則編』の第 1 章第 5 の 2 (9)には、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」(28)と明記されている。そして、その解説の中には「各教科等において学校図書館を計画的に活用した教育活動の展開に一層努めることが大切である」(29)と述べられている。具体的には「各教科において

も、国語科及び社会科で学校図書館を利活用することを示すとともに、特別活動の学級活動で学校図書館の利用を指導事項として示している」(30)と述べられている。このように『総則』では、学校教育のすべての活動において、学校図書館の活用を図り、読書活動を推進していくことが求められているのである。

しかし、増田信一は「読書指導計画立案の条件」の中で、「各教科をはじめ、道徳、学級活動、学校行事などでばらばらに行われるのではなく、学校として全体計画の中に位置づけられていなければならない」と述べている。(31)

このことを踏まえると、読書活動について校内で共通理解した上で、読書活動の目標や内容および指導方法と各学年の発達段階や学習内容を考え、学校教育のすべての活動の中で行うことができる読書活動年間計画を作成していく必要がある。

この目標や内容、指導方法については、様々な意味があるが、ここでは『新学校図書館通論』の中での記述を参考に、米谷茂則が述べている読書の指導方法(32) a～e を下記の資料2-1で示した。また、増田が述べている読書指導の内容(33)～を「つけたい読書力」と位置づけて合わせて示した。

資料2-1 読書の指導方法とつけたい読書力

<p>1. 読書の指導方法</p> <p>a. 楽しみ読みの指導 b. 調べ読みの指導 c. 考え読みの指導 d. 集団読書の指導 e. 読書集会の指導</p> <p>2. つけたい読書力</p> <p>目的に応じた読みの技能 読書興味や読書習慣 資料の使い方 図書を選択する力 読書したことを適用させる力</p>

図書館教育研究会『新学校図書館通論』
学芸図書株式会社 1999

まず、米谷が示す「読書の指導方法」については、a～eの5項目にそって、様々な手法が考えられる。

次に、増田がいう「つけたい読書力」については、主に国語科の学習の中でも求められている力ではあるが、『総則』でも述べられているように、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、および学校教育活動のす

べてにおいて育てていきたい力である。そこで、「指導方法の具体例」と「つけたい読書力」との関係性を右記の表2-1にまとめた。

この表では、例えば「a. 楽しみ読みの指導」については、読書興味や読書習慣、図書の選択、読書したことを適用させる力を「つけたい読書力」として考えることができるが、この指導では、主にの読書興味や読書習慣の力をつけた

いと考えている。「b. 調べ読みの指導」では、主にの資料の使い方、「c. 考え読みの指導」では、主に目的に応じた読みの技能、「d. 集団読書の指導」では、の読書したことを適用させる力、「e. 読書集会の指導」では、dと同じく、の読書したことを適用させる力を、それぞれ主につけたい力として考えた。

このように、「読書の指導方法」と「つけたい読書力」とを関連づけることにより、どのような読書力をつけることをねらいとして、読書活動を行っていくのかということをはっきりと示すことができる。また、学校教育のすべての活動の中で、読書活動を行う場合の共通したねらいとして活用することができるのではないかと考えた。

表2-1 読書の指導方法とつけたい読書力の関連図

1. 指導方法とその具体例	2. つけたい読書力
<p>a. 楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトーク ・読み聞かせ ・ストーリーテリング ・音読による文章の鑑賞 ・読書新聞等でのお知らせなど 	<p>読書興味や読書習慣 図書を選択する力 読書したことを適用させる力</p>
<p>b. 調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書資料の利用、活用 ・いろいろな調べ方など 	<p>資料の使い方 図書を選択する力 読書したことを適用させる力</p>
<p>c. 考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像力を働かせて本を読む ・図書資料を通して、自分なりに結論を出す ・読書感想文 ・読書感想画など 	<p>目的に応じた読みの技能 読書興味や読書習慣 資料の使い方 図書を選択する力 読書したことを適用させる力</p>
<p>d. 集団読書の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論会 ・発表会 ・パネルディスカッション ・読書会 ・輪読会など 	<p>目的に応じた読みの技能 読書興味や読書習慣 資料の使い方 図書を選択する力 読書したことを適用させる力</p>
<p>e. 読書集会の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペープサート ・紙芝居 ・エプロンシアター ・パネルシアター ・詩の朗読 ・実技を交えた本の紹介 ・本の内容の劇化 ・同じ作者の本を読む ・同じタイトルの本を読むなど 	<p>目的に応じた読みの技能 読書興味や読書習慣 図書を選択する力 読書したことを適用させる力</p>

8頁の表2-1をベースに、読書活動年間計画を作成していくのであるが、増田が「学年の進行に従って、どのように組み立てていったらよいのか、バランスのとれた全体計画を立てる必要がある」(34)と述べているように、各学年で具体的にどのような読書活動を行っていくとバランスのとれた活動になるのかを考えていく必要がある。そのため、学年の系統性を踏まえた、具体的な目標と指導内容が必要である。

その際、『小学校学習指導要領国語編』の指導計画作成上の配慮事項(6)には「『C読むこと』に関する指導において、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと」(35)と述べられていることから、特に国語科は、学習内容の中に、読書力の要素が数多く盛り込まれていることからわかるように、子どもたちの読書の活動に密接に関連する教科である。

中でも、「C読むこと」の態度に関する指導の目標として、第1,2学年では「楽しんで読書しようとする態度」、第3,4学年では「幅広く読書しようとする態度」、第5,6学年では「読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度」というように、読書活動に関する目標がそれぞれ示され、その内容にも盛り込まれている。上記の表2-2はそれを一覧表にまとめたものである。

そこで読書活動とつながりの深い国語科の「C読むこと」の目標や学習内容を中心に、「A聞くこと・話すこと」「B書くこと」「言語活動」の学習内容と読書の指導方法を結びつけることで、各学年の系統性を生かした読書活動年間計画を作成することができる考えた。そして、それをもとに学校教育のすべての活動の中で読書活動を行うことにより、読書活動が広がり、今以上に、子どもたちの読書の活動は豊かになると考えられる。

表2-2 「C読むこと」目標および内容一覧

1年	2年	3年	4年	5年	6年
「C読むこと」目標 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	「C読むこと」目標 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	「C読むこと」目標 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。			
ア：読書的な読むことに関する指導事項 易しい読み物に興味をもち、読むこと。	ア：読書的な読むことに関する指導事項 いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。	ア：読書的な読むことに関する指導事項 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。			
イ：叙述内容に即した読むことに関する指導事項 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。	イ：叙述内容に即した読むことに関する指導事項 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。	イ：叙述内容に即した読むことに関する指導事項 目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。			
ウ：想像的な読むことに関する指導事項 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。	ウ：想像的な読むことに関する指導事項 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。	ウ：想像的な読むことに関する指導事項 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。			
	エ：事象と感想、意見にかかわる読むことに関する指導事項 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	エ：事象と感想、意見にかかわる読むことに関する指導事項 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。			
	オ：目的的な読むことに関する指導事項 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要などころは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。	オ：目的的な読むことに関する指導事項 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。			
カ：声に出しての読むことに関する指導事項 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。	カ：声に出しての読むことに関する指導事項 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。				

(『学習指導要領』では、低学年「エ・声に出して読むことに関する指導事項」となっているが、中学年と比較しやすくするために、本稿では「カ・声に出して読むことに関する指導事項」として扱うことにする。)

また、子どもたちと本との出会いの機会が増え、読書の習慣化を図ることも期待される。それが子どもたちの読書冊数の増加や不読者数の減少にもつながるのではないかと考えた。

国語科の学習内容と読書の指導方法とを結びつける場合、各学年の発達段階や学習内容に応じた読書活動の内容や指導方法を考えていく必要がある。

そのため、各学年の国語科の具体的な学習内容を知る必要がある。そこで、京都市教育委員会作成の『京都市立小学校教育課程指導計画 第1～6学年 国語科』を参考にすることにした。

まずその中から、読書の要素が含まれている学習内容を挙げ、読書の指導内容とした。

次に、どのような読書の指導方法を用いると、この学習内容を習得させるのに有効であるかを考えて、具体的な読書の指導方法を挙げていった。それをまとめたものが、下記の資料2-2である。また、本稿での用語の扱いについての説明も付け加えた。

これらの指導方法については、8頁の表2-1をもとにすると、〔読み聞かせ〕〔ブックトーク〕〔通読〕〔ひとり読み〕〔図書の選択〕〔音読〕〔学校図書館のしくみと利用法〕は、a. 楽しみ読みの指導に含まれる。また、〔体験〕〔みつけ読み〕〔図書やその他の資料、情報の利用法〕〔視聴覚機器の利用〕〔国語辞典の使い方〕〔漢字辞典の使い方〕は、b. 調べ読みの指導〔想像読み〕〔まとめり読み〕〔感想文の書き方〕は、c. 考え読みの指導〔話

し合い〕〔発表会〕は、d. 集団読書の指導〔表現〕〔テーマ読み〕〔シリーズ読み〕は、e. 読書集会の指導に、それぞれ含まれる。

上記で挙げた指導方法については、各学年共通の指導方法としている。なぜならば、内容は異なるが方法に異なりはないからである。

したがって、各学年の発達段階に応じ、読書の要素が含まれている具体的な学習内容を『京都市立小学校教育課程指導計画 第1～6学年 国語科』から挙げていった。

その方法の一例を挙げると、第1学年での国語科の学習内容〔音読〕については、指導計画の中で、その工夫として、「声の大きさ、発音」が挙げられている。そこで、a. 楽しみ読みの指導の〔音読〕の具体的な指導内容として、「声の大きさや発音を工夫する」ことを挙げた。また、第2学年の学習内容では、〔音読〕については、「声の大きさ、発音、読む速さ、微音読」が挙げられている。そこで、a. 楽しみ読みの指導の〔音読〕の具体的な指導内容としては、「声の大きさ、発音、読む速さ、微音読を工夫する」ことを挙げた。

このように、各学年の国語科の学習内容から読書の要素を含む具体的な指導内容を挙げ、それと読書の指導方法を関連づけて作成したものが、付表2で示した「読書の指導方法と内容一覧表」である。

この一覧表は、各学年の学習内容に即したものであるため、これをもとに読書活動をすすめていくことにより、学年に応じた読書活動を行うことが可能である。また、指導方法が各学年共通であるため、学年間のつながりをもみることが可能になり、学年をみ通した指導をすることができるのではないかと考える。

また、学校教育のすべての活動において、継続的な読書活動を行っていく上でも、この一覧表で示した「読書の内容やその指導方法は有効である」と考える。

資料2-2 具体的な指導方法とその用語説明

- 〔読み聞かせ〕・本を読んでもらうこと
- 〔ブックトーク〕・テーマに沿って本を紹介してもらうこと
 - 〔通読〕・文章を始めから終わりまで読み通すこと
 - 〔ひとり読み〕・自分で本を読むこと
 - 〔図書の選択〕・自分で読みたい、または必要な本を選ぶこと
 - 〔音読〕・声に出して文章を読むこと
- 〔学校図書館のしくみと利用〕・きまりやしきみ、利用の仕方を知ること
 - 〔体験〕・文章理解を深めるために体験すること、また体験したことを本で確かめること
 - 〔みつけ読み〕・調べたいことや課題を探しながら読むこと
- 〔図書や資料の利活用〕・図書や資料の活用や利用の仕方について学ぶこと
- 〔視聴覚機器の利用〕・視聴覚機器の利用の仕方について学ぶこと
- 〔国語辞典の使い方〕・国語辞典の使い方について学ぶこと
- 〔漢字辞典の使い方〕・漢字辞典の使い方について学ぶこと
 - 〔想像読み〕・想像力を働かせて読むこと
 - 〔まとめり読み〕・段落などのまとめりに気をつけて読むこと
 - 〔テーマ読み〕・同じタイトルやテーマの本を読むこと
 - 〔シリーズ読み〕・同じ作者や同じシリーズの本を読むこと
- 〔感想文の書き方〕・感想文の書き方について学ぶこと
 - 〔話し合い〕・本の内容にかかわることについての意見交流をすること
 - 〔発表会〕・学習したことについて発表すること
 - 〔表現〕・本を読んだり調べたりしたことをいろいろな形でまとめたり、表現したりすること

(2) 読書活動年間計画の作成

本稿でいう読書活動とは、“本を読む”という行為だけでなく、読み聞かせなどを聞き、本の世界を楽しんだり、本を選ぶ手がかりや方法、その活用方法を学んだり、自分で本を選んだり、読んだり、本の内容についての意見交流をしたりなど、今まで読書指導、利用指導といわれていた内容も含む、図書を扱ったすべての活動のことを指している。

第1章で子どもたちの読書の実態について述べてきたが、読書活動の経験の少ない子どもたちにとって、読みたい本を選んで読むことは簡単なようで難しい活動である。そのため、本を利用したり、本を読むきっかけをもらったり、本の楽しさを味わったり、自分で読んだりするなど、数多くの読書活動を経験することは、必要不可欠な活動である。これらの活動は、今後、自ら読書をしていく上で価値のあることである。

本項では、作成した付表2の「読書の指導方法と内容一覧表」と各学年の学習内容とを組み合わせ、読書活動年間計画を作成してきた手順について述べていく。(文中の丸数字は、表2-3のものである)

まず『京都市立小学校教育課程指導計画 国語科』の各学年の学習内容から、読書の要素を含む内容を挙げた。(表2-3)

次にその学習内容は、どの読書の指導方法を用いると、学習内容の習得に有効かを考え、付表2

をもとに関連づけていった。(表2-3)

さらに、子どもたちの読書の活動を広げたり、継続したりするために、この具体的な読書の指導方法を学校教育のすべての活動の中で生かしたいと考えた。

そこで、国語科の学習と同じ時期に、同じ読書の指導方法を用いたり、同じ内容の図書を活用したりして学習をすすめていくことができる他教科、道徳、特別活動等について、『京都市立小学校教育課程指導計画』から探っていくことにした。

(表2-3)ここで挙げた以外にも同じ時期に読書活動を行うことができる教科などはある。しかし、ここでは、国語科から広げて、継続して読書活動を展開していくことを考えたため、同じ指導方法を活用できる、または同じテーマの図書を活用できる教科等を挙げた。

また合わせて、読書活動の中で、発展図書や参考図書として活用できるのではないかとと思われる図書について、京都市小学校図書館研究会発行の『子どもに読ませたい図書資料』を参考しながら、現在購入可能な図書を挙げた。(表2-3)

ここで挙げたものは、あくまでも参考であり、これがすべてではないが、読書活動を行っていく上で参考になると考えて取り上げた。ただし、この他にも活用することのできる図書は多数考えられる。そのため、学習内容や進め方、そして目の前の子どもたちに合わせた選書をしていく必要がある。

表2-3 第1学年 読書活動年間計画 (一部抜粋)

月	② 指導方法	① 教科・道徳・特別活動③			④ 参考図書
10月	考え読みの指導 ・想像読み ・楽しみ読みの指導 ・読み聞かせ ・ブックトーク ・ひとり読み ・図書の選択 ・音読 調べ読みの指導 ・体験	国語(ア)(ウ)(カ) 「くじらぐも」 場面の様子について想像を広げながら読む。雲に関する本を読んだり、今までに見た雲を思い出したりしながら、雲と話したいことを想像する。会話文の調子の違いに気づきながら工夫して音読する。	図画工作科 「おはなしいすき」 お話を聞いたり読んだりして思いをふくらませ、絵や立体に表すようにする。	学級活動 「なかがわりえこさんの本をよもう」 易しい読み物に興味をもち、読む。作者を手がかりにした本の探し方について知り、読みたい本を探することができる。	雲に関連する図書 「ちいさなぐも」 エリック・カール/作 偕成社 「雲のてらんん会」 いせひでこ/作 講談社 「ひつじぐものむこうに」 あまんきみこ/作 文研出版 中川李枝子の著書 「ぐりとぐら」シリーズ 福音館書店
	楽しみ読みの指導 ・読み聞かせ ・図書の選択 ・ひとり読み	国語(ア) 「わたしの好きな本」 自分で好きな本を選ぶ。			
11月	考え読みの指導 ・想像読み	国語(ウ) 「ぼくちのゴリ」 ゴリの体の特徴や動作、書き手の気持ちなどを想像しながら読む。	生活科 「いえのめいじんをさがそう」 家族のことに関心をもつ。	道徳 「くつあらい」 家族の一員であることに気づき、自分にでき仕事について考える。	犬に関する図書 家族とのふれあいに関する図書 「トレパー、がんばって」 ロブ・ルイス/作 ほるぶ出版 「オーバルひとりぼっち」 オーバル・ウイットリー/作 ほるぶ出版 「おじいちゃん」ジョン・パーニンガム/作 ほるぶ出版
⑤ 他学年とのつながり		(ア)読み聞かせは、上の学年でも興味関心を喚起し、読書に親しませる有効な手段となる。 (イ)内容の大体をとらえ、時間的な順序に重点を置いた学習は、第3、4学年の内容の中心をとらえたり段落相互の関係を把握したりする学習と関連する。また「要点」の把握や「段落」意識の形成にもつながる。 (ウ)登場人物の気持ちの読み取りは第5、6学年で重点指導する。			

最後に他学年とのつながりを挙げた。これは『小学校学習指導要領解説 国語編』の「C読むこと」の解説から、他学年とのかかわりについての必要な部分を挙げている。なお、文章始めの(ア)～(カ)については、10頁の表2-2の「C読むこと」の内容、ア～カと対応している。このように、他学年とのつながりを挙げておくことで、それぞれの学年では、どのような内容をしっかり押さえておかなければいけないのかということがわかる。また、前学年では、どのような内容を学び、それが当該学年でどのように生かされ、次の学年にどのようにつながるのかということもわかり、指導する内容がはっきりすると考えた。(11頁の表2-3)

11頁の表2-3は、第1学年の読書活動年間計画の一部である。ここで示した教材『くじらぐも』について、前頁で示した読書活動年間計画作成の流れにそって具体的に述べていく。

まず、下記の資料2-3については、この教材の学習活動の中から、読書活動にかかわると思われる学習内容を三点挙げた。一点目は、「場面の様子について想像を広げながら読む」二点目は、「雲に関する本を読んだり、今までにみた雲を思い出したりしながら、雲と話したいことを想像する」三点目は「会話文の調子の違いに気づきながら工夫して音読する」である。これらはそれぞれ「C読むこと」の(ア)読書的な読むことに関する指導事項(ウ)想像的な読むことに関する指導事項(カ)声に出して読むことに関する指導事項にかかわるものである。

次に下記の資料2-4では、この三点を指導す

資料2-3 読書活動にかかわる学習活動

国語(ア)(ウ)(カ)

「くじらぐも」

場面の様子について想像を広げながら読む。

雲に関する本を読んだり、今までに見た雲を思い出したりしながら、雲と話したいことを想像する。

会話文の調子の違いに気づきながら工夫して音読する。

資料2-4

読書の指導方法

考え読みの指導

- ・想像読み
- ・楽しみ読みの指導
- ・読み聞かせ
- ・ブックトーク
- ・ひとり読み
- ・図書の選択
- ・音読
- ・調べ読みの指導
- ・体験

る上で、活用することがきる読書の指導方法を3種類6方法挙げた。一種類目は、考え読みの指導としての想像読みである。これは「場面の様子について想像を広げながら読む」また「雲と話したいことを想像する」という学習内容について指導することができる。二種類目は、楽しみ読みの指導としての音読である。これは、「会話文の調子の違いに気づきながら工夫して音読する」という学習内容について指導することができる。また、読み聞かせ、ブックトーク、図書の選択、ひとり読みについては「雲に関する本を読んだり」する中に、雲に関する本の読み聞かせやブックトークをすることがきっかけになり、自分で雲に関する本を選んだり、ひとりで読んだりする指導につながっていくと考えた。三種類目は、調べ読みの指導としての体験である。これは、「雲と話したいことを想像する」ために、実際に雲をみて体験し、そこから雲について想像を広げ、学習に生かすことができるのではないかと考えた。また興味をもち、雲に関する図書を読んだりすることにつながるのではないかと考えた。

また、下記の資料2-5では、ブックトークや読み聞かせなどに活用できるように参考図書としていくつかの図書を挙げた。

最後に、同じ時期に同じ読書の指導方法や同じ図書を活用して学習をすすめることができる教科、道徳、特別活動とその学習内容を挙げた。ここでは、下記の資料2-6で示すように、国語科の『くじらぐも』の学習に合わせて図画工作科の『おはなしだいすき』を挙げた。この学習内容「お話を聞いたり読んだりして思いをふくらませ、絵や立体に表すようにする」は考え読みの指導として想像読みの指導が合わせてできる学習である。

資料2-5 参考図書

雲に関連する図書

- 「ちいさなくも」
エリック・カール/作 偕成社
- 「雲のてらん会」いせひでこ/作 講談社
- 「ひつじぐものむこうに」
あまんきみこ/作 文研出版
- 中川李枝子の著書
- 「ぐりとぐら」シリーズ 福音館書店

資料2-6 国語科以外での読書活動1

学級活動

「なかがわりえこさんの本をよもう」

易しい読み物に興味をもち、読む。

作者を手がかりにした本の探し方について知り、読みたい本を探することができる。

また下記の資料2 - 7で示すもう一つの読書活動として、学級活動を挙げている。これは特設で

資料2 - 7 国語科以外での読書活動

図画工作科
「おはなしだいすき」
お話を聞いたり読んだりして思いをふくらませ、絵や立体に表すようにする。

はあるが、特別活動の中にも学校図書館の利用が挙げられていること

から、このような活動もできるという例として設定した。この学習内容「易しい読み物に興味をもち、読む」は国語科の学習と合わせて、楽しみ読みの指導として読み聞かせやブックトークの指導方法が活用できる。また「作者を手がかりにした本の探し方について知り、読みたい本を探ることができる」は、同じく楽しみ読みの指導の中の図書を選択にかかわる指導である。読み聞かせやブックトークを行い、作者について知ったり、興

味づけをしたりすることで、子どもたちは自ら本を手にするだろうと予想される。そうすると教材文から読書活動が広がっていくことが考えられる。このように教科などの学習にかかわる読書活動を行うことで、その機会を増やしていくことも可能である。

このような流れにそって、第1学年から第6学年までの読書活動年間計画を作成し、付表1の(1)～(6)として示している。

第2節 単元指導計画と読書活動案

(1) 単元指導計画の作成

前節では、作成した読書活動年間計画について述べてきた。左下記の表2 - 4は、それに基づいて作成した、第1学年 国語科教材『くじらぐも』の全12時間+学級活動全1時間の単元指導計画の一部を抜粋したものである。

表2 - 4 第1学年 国語科 単元指導計画(一部抜粋)

第1学年 国語科『くじらぐも』 中川李枝子・作、柿本幸造・絵 (光村図書) 国語12時間+学級活動1時間					
単元の目標 ①					
・場面の様子を想像しながら読み、音読や動作などを工夫して、お話を楽しむことができるようにする。					
単元の評価規準 ②					
・関心・意欲・態度 … 想像を広げてお話を楽しんでいる。(「読むこと」の目標 楽しんで読書しようとする態度を育てると関連) ・書く能力 … 相手や目的を考えながら、手紙を書いている。(書ア) ・読む能力 … 相手を押さえながら場面を想像豊かに思い描いて読んでいる。(読ウ) 語や文としてまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えながら声に出して読んでいる。(読カ) ・知識・理解・技能 … くじらぐもへの手紙や書に話しかける言葉で、自分が感じたことを書いている。(書エ) (言語活動例) 絵に言葉を入れる。					
学習指導計画					
時	学習活動	読むこと的能力を育てるための指導事項	③ つけたい読書力	④ 留意点	⑤ 他とのつながり
1	『くじらぐも』のあらすじをつかみ、好きな場面やおもしろいところを想像しながら楽しむ(読む)。	ウ。易しい読み物に興味をもち、読むこと。	楽しんで読書する。	「易しい読み物」を通して読書に興味をもてるようにする。 読み聞かせの内容や方法を工夫する。	上の学年でも興味や関心を喚起し、読書に親しませる有効な手段となる。 読書意欲、表現意欲へと発展
3	子どもたちが『くじらぐも』と出会い飛び乗ることになった様子を読む。	ウ。場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。 カ。語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読む。	それぞれの場면을想像豊かに思い描く。はっきりとした発音で文章を読む。 意味内容が明瞭になるように、ひとまとまりの語や文として読む。	「想像を広げる」ためには、1.教材を自由に想像する。 2.読み取り方の異なる部分については、話し合いをもつ。 内容理解がねらいであるため、必要以上に感情を込めて表現する必要はない。	言語事項(1)のア「発音・発声に関する事項」(ア)姿勢、口形などに注意して、はっきりとした発音で話すことと関連を図る。
4	『くじらぐも』に飛び乗ろうとする子どもたちの様子とそれを応答する『くじらぐも』のようすを動作化を入れながら読む。	ウ。場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。	それぞれの場면을想像豊かに思い描く。	「想像を広げる」ために、自由に想像する。	言語事項(1)のア「発音・発声に関する事項」(ア)姿勢、口形などに注意して、はっきりとした発音で話すことと関連を図る。
9	『くじらぐも』の音読会をする。	カ。語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読む。	はっきりとした発音で文章を読む。 意味内容が明瞭になるように、ひとまとまりの語や文として読む。	内容理解がねらいであるため、必要以上に感情を込めて表現する必要はない。	言語事項(1)のア「発音・発声に関する事項」(ア)姿勢、口形などに注意して、はっきりとした発音で話すことと関連を図る。
11	自分が見つけた雲の形から想像したものを話す。	ウ。場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。	それぞれの場면을想像豊かに思い描く。	「想像を広げる」ために、自由に想像する。	11/12時 自分が見つけた雲の形から想像したものを話す。 想像を助け広げるために書に関する本の読み聞かせや本の紹介を聞く。
12	書と話したいことをふき出しに書き、発表する。				

本項では、読書活動年間計画をもとに、単元指導計画を作成してきた手順について述べていく。(文中の丸数字は、表2 - 4のものである)

下記の資料2 - 8(表2 - 4)の単元の目標は、『京都市小学校教育課程指導計画第1学年国語科』(平成14年度)から抜粋引用したものである。

資料2 - 8 単元の目標

単元の目標
・場面の様子を想像しながら読み、音読や動作などを工夫して、お話を楽しむことができるようにする。

14頁の資料2 - 9(表2 - 4)の単元評価規準については、『京都市小学校教育課程指導計画第1学年国語科』(平成14年度)と光村図書ホームページ上の『小学校「国語」一年 年間指導計画資料』(36)(平成14年度版)を参考にして作成していった。

またそれぞれの評価規準は、学習指導要領のどの内容の、どの指導事項を表しているのかがわかるようにした。

本稿上では、(書ア)(書エ)(読ウ)(読カ)と表記している。(書ア)(書エ)は「B書くこと」の内容の「ア」「エ」の指導事項にかかわる内容である。(書エ)については、言語活動例

の「絵に言葉を入れる」ともかかわっている。(読ウ)(読力)は「C読むこと」の内容の「ウ」「力」にかかわる内容である。また、関心・意欲・態度の「想像を広げお話を楽しんでいる。」は、第1、2学年の「C読むこと」の目標である「楽しんで読書しようとする態度を育てる」や「ア」「ウ」の指導事項とも関連する内容である。

資料2-9 単元の評価規準

単元の評価規準
関心・意欲・態度 想像を広げお話を楽しんでいる。
書く能力
 ・相手や目的を考えながら、手紙を書いている。(書ア)
読む能力
 ・筋筋を押さえながら場面を想像豊かに思い描いて読んでいる。(読ウ)
 ・語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えながら声に出して読んでいる。(読力)
知識・理解・技能 くじらぐもへの手紙や雲に話しかける言葉で、自分が感じたことを書いている。(書工)
言語活動 絵に言葉を入れる。

学習活動の内容については、『京都市小学校教育課程指導計画 第1学年国語科』(平成14年度)から抜粋引用した。そうすることにより、国語科の学習の中でスムーズに読書活動が行えると考えた。そこへ読むこと的能力を育てるための指導事項(『小学校学習指導要領 国語編』の「C読むこと」の内容)と、つきたい読書力(「C読むこと」の目標)とを関連づけていった。

つきたい読書力については、8頁の表2-1で示したものを具体化するために、第1、2学年の「C読むこと」の目標である「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようになる」とともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」をもとに、上記の資料2-10(13頁表2-4)で示した四項目を、『くじらぐも』の学習活動の中で、上記項目の読書力をつけることができるのかということを考えて、その活動と関連づけた。

資料2-10 つきたい読書力

1. 楽しんで読書する。
2. それぞれの場面を想像豊かに思い描く
3. 意味内容が明瞭になるように、ひとまとまりの語や文として読む。
4. はっきりとした発音で文章を読む。

留意点および他とのつながりについては、それぞれの学習活動に関連すると思われる内容を『小学校学習指導要領解説 国語編』の「C読むこと」の内容の説明、言語活動、言語事項から必要な部分を抜粋して掲載した。この指導計画では留意点

として、下記の資料2-11(13頁表2-4)で示した四項目を挙げた。

資料2-11 留意点

1. 「易しい読み物」を通して読書に興味をもてるようにする。
2. 読み聞かせの内容や方法を工夫する。
3. 「想像を広げる」ためには、
 ・教材を読んで自由に想像する。
 ・読み取り方の異なる部分については、話し合いをもつ。
4. 内容理解がねらいであるため、必要以上に感情を込めて表現する必要はない。

また、他とのつながりについては、下記の資料2-12(13頁表2-4)で示した三項目を挙げた。で示した項目は、他の学年へと発展する内容である。で示した項目は、関連する言語事項を挙げている。

資料2-12 他とのつながり

(読み聞かせは)上の学年でも興味や関心を喚起し、読書に親しませる有効な手段となる。
 (想像力を広げることは)読書意欲、表現意欲へと発展する。
 言語事項(1)のア「発音・発声に関する事項」と関連

最後に、この単元学習計画の中で、教材文以外の図書を活用できる学習内容を探り、関連する読書活動として位置づけた。それが第1時の学習活動と関連する学級活動(読書活動)と、第11時の学習活動の中で行う読書活動である。

第1時では、読むこと的能力を育てるための指導事項として、「ア・易しい読み物に興味をもち、読むこと」また、つきたい読書力として、「楽しんで読書すること」がそれぞれ挙げられている。

この学習の中に読書活動を取り入れることも可能であるが、本の世界をたっぷりと味わわせたいと考え、学級活動の時間に読書活動を設定した。『くじらぐも』第1時と関連づけたこの学級活動では、「易しい読み物に興味をもち、読む」と「作者を手がかりにした本の探し方について知り、読みたい本を探すことができる」という学習内容を設定した。このことを11頁の表2-3で示した読書の指導方法の楽しみ読みの指導として、読み聞かせ、ブックトーク、ひとり読み、図書の選択の指導方法をもって読書活動を行うことができるようにした。また、第11時では、読むこと的能力を育てるための指導事項として、「場面の様子などについて想像を広げながら読むこと」つきたい読書

力として「それぞれの場面を想像豊かに思い描くこと」がそれぞれ挙げられている。この学習では、「想像を広げるために雲に関する本の読み聞かせや本の紹介を聞く」という学習内容であるため、同じく11頁の表2-3で示した「楽しみ読みの指導」として、読み聞かせ、ブックトーク、ひとり読み、図書の選択の指導方法をもって行うことができるようにした。

第3, 4, 9時については、読書活動とも関連する内容であるが、教材以外の図書は活用しにくく、読書活動としての広がりが少ないと思われる。そのため、国語科の学習の中で行うことが妥当だと考え、読書活動とは結びつけていない。

このような手順と考え方で、読書活動年間計画をもとに学習活動と読書活動を結びつけた第1学年から第4学年までの各1単元分の指導計画を作成した。

資料2-13 第1学年『くじらぐも』読書活動案(一部抜粋)

なかがわ りえこさんの本を読もう！～第1学年 国語科教材『くじらぐも』の発展～

目標とその関連

1 作者を手がかりにした本の探し方について知り、読みたい本を探することができる。
2 易しい読み物に興味をもち、読むことができる。

1. 作者に注目した読書活動を行うことで、「作者」を意識した図書の探し方がわかる。

2. 作者名や書名を記した読書記録カードを手がかりに、同じ作者の本を選んで読んだり、学校図書館などで作者を手がかりにして本を選んで読んだりすることで読書活動の拡大を図る。

1, 2. 今後の自分の読書生活に生かす。

司書教諭又は学校図書館担当教員と連携を図り、児童の読書活動を支援することも考えられる。

単元のねらい

楽しんで『ぐりとぐら』の読み聞かせを聞くことができる。(読み聞かせ) 1
作者名を手がかりにして、読みたい本を選ぶことができる。(図書の選択) 2
中川李枝子さんの作品を自分で読むことができる。(ひとり読み) 1

読書活動内容(全1時間)

主な活動	指導上の留意点	準備物	評価(B規準)
1. 読み聞かせ聞く 『ぐりとぐら』の読み聞かせを聞く。	・全員が読み聞かせを楽しめるように、子どもたちの座る位置の工夫や教師の立つ(座る)位置の工夫、子どもたちの反応に合わせた声の大きさや読む速さの工夫をする。 ・必ず表紙から読み始め、表紙を見せて読み終わる。	準 『ぐりとぐら』 中川李枝子作 福音館書店	読み聞かせを最後まで聞くことができる。1 (行動観察)
2. 作者を知る 『ぐりとぐら』の作者名が表紙に書かれていることを知る。 『くじらぐも』の作者と同じ作者であることに気づく。 中川李枝子さんの写真を見る。	・挿絵に着目する児童がいる場合は、『ぐりとぐら』は山脇百合子さん、『くじらぐも』は柿本幸造さんがそれぞれ絵を描いていることを伝える。 ・『くじらぐも』の学習の中で、作者名を意識しておく。 ・子どもたちから『くじらぐも』の作者が出ない場合は、教科書を振り返る。	準 中川李枝子さんの写真 準 『ぐりとぐら』シリーズ他	
『ぐりとぐら』には他に仲間(シリーズ)があることを知る。	・『ぐりとぐら』のシリーズについては、他の本も読んでいる児童がいると思われるため、児童の意見を聞くようにする。		

(2) 読書活動案の作成

下記の資料2-13は、第1学年『くじらぐも』第1時に関連する学級活動での読書活動案の一部である。本項では、前項の単元指導計画を受けて作成した読書活動案の内容について述べる。

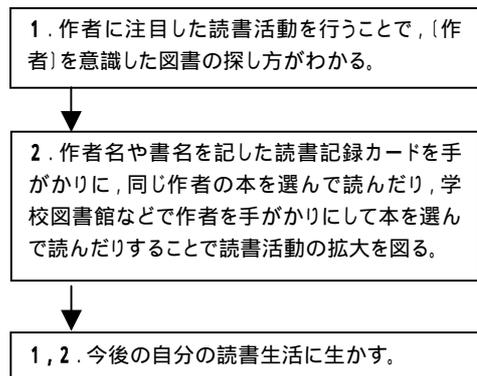
はじめに読書活動案の内容として、1. 目標とその関連、2. 単元のねらい、3. 読書活動の内容、4. 事後の読書活動、以上の四点を挙げた。

一点目の目標とその関連については、この『くじらぐも』の活動案では、13頁の表2-4の単元指導計画で挙げた学習内容「易しい読み物に興味をもち、読む」と「作者を手がかりにした本の探し方について知り、読みたい本を探す」を受け、目標を「1. 作者を手がかりにした本の探し方について知り、読みたい本を探すことができる」「2. 易しい読み物に興味をもち、読むことができる」とした。また、この二つの目標がどのように関連し、今後の読書活動に発展していくのかを下記の資料2-14のように図で表した。

資料2-14 のように図で表した。

資料2-14

国語科の目標と読書活動の目標との関連



それを受けて、二点目の単元のねらいについては、単元の目標を受け、「楽しんで『ぐりとぐら』の読み聞かせを聞くことができる(読み聞かせ)1」「作者名を手がかりにして、読みたい本を選ぶことができる(図書の選択)2」「中川李枝子さんの作品を自分で読むことができる(ひとり読み)1」の三点を挙げた。また、どの指導方法で読書活動を行うのかということがわかるように、かっこ書きで記述した。二つの目標のうち、どちらをめざしているものかがわかるように目標につけた番号の1または2を記述した。

三点目の読書活動の内容については、単元のねらいに到達するために、(読み聞

かせ)(図書を選択)(ひとり読み)の指導方法を用い、読書活動がすすめられるように、下記の資料2-15のような流れを考えて、15頁の資料2-13の読書活動案を作成した。

資料2-15 読書活動の内容

1. 読み聞かせを聞く
2. 作者を知る
3. 『ぐりとぐら』シリーズの題名当てクイズをする
4. 同じ作者の著書を他にも知る
5. 同じ作者の本を読む

- (28) 文部省『小学校学習指導要領解説 総則編』
東京書籍 1999.11 pp.89~90
- (29) 前掲 注(28)
- (30) 前掲 注(28)
- (31) 図書館教育研究会『新学校図書館通論』学芸図書株式会社 増田信一 1999.11 p.162
- (32) 前掲 注(31) 米谷茂則「読書の指導方法」pp.175~182
- (33) 前掲 注(31) 増田信一「読書の年間指導計画」p.164
- (34) 前掲 注(31) p.163
- (35) 文部省『小学校学習指導要領解説 国語編』
東洋館出版社 1999.11 p.135
- (36) 光村図書『平成14年度版 小学校「国語」1年 年間指導計画資料』教材名『くじらぐも』

第3章 読書活動の実際

第1節 低学年および中学年における実証授業

低学年では、楽しんで読書をするということをはねらいとして、「いろいろな本との出会い」を求めた読書活動を設定した。読み聞かせやブックトークを聞いたり、子ども同士互いに本を紹介し合ったりする読書活動を取り入れることで、多くの本と出会うことができると考えた。

ここでは、前章で述べた計画に基づいて行った実証授業から、その出会いが子どもたちの本に対する意識や行動にどのように影響したのか、またその後の読書活動にどのような変化をもたらしたのかについて述べる。

(1) 低学年での読書活動

第1学年の実証授業

第1学年では、国語科の10月教材『くじらぐも』に関連した読書活動を2時間分設定した。その読書活動の内容が資料3-1で示したものである。

資料3-1- 第1学年 読書活動

「なかがわりえこさんの本をよもう」

1. 『ぐりとぐら』の読み聞かせを聞く
2. 作者を知る
3. 『ぐりとぐら』シリーズの題名当てクイズをする
4. 同じ作者の著書を他にも知る
5. 同じ作者の本を読む

読み聞かせを聞く様子



読み聞かせの様子

資料3-1- 第1学年 読書活動

「くもとおはなしをしよう」

1. 『ちいさなくも』の読み聞かせを聞く
2. 雲の形を想像する
3. くもの絵を描き、交流する
4. 「雲」をテーマにしたブックトークを聞く



この時期の子どもたちは、ひらがなを習得し、自分自身で自由に本が読めるようになってくる。そのため自分で本を選んだり、読んだりするための手がかりとなる読書活動を設定した。

資料3-1- の読書活動「なかがわりえこさんのほんをよもう」では、国語科で学習する『くじらぐも』の作者である中川李枝子を知るという活動を取り入れたものである。中川は絵本から易しい物語まで、幅広い作品を発表しており、数多くの著作があるため、読書活動を広げやすい。そのため、作者に着目することは、教材文以外の本を探したり読んだりするための方法として有効であると考えられる。

まずはじめに、中川の著作である『ぐりとぐら』(37)の読み聞かせを行った。この絵本は、1学期教材として国語の教科書に紹介されているものであるため、子どもたちからは「知っている」「読んだことがある」という声が聞かれた。読み聞かせが始まると静かな時間が流れ、どの子どもも集中して聞く姿がみられた。

この『ぐりとぐら』のシリーズ(38)は、全7巻発行されており、これに加えて『ぐりとぐらの1ねんかん』『ぐりとぐらのあいうえお』『ぐりとぐらのうたうた12つき』(39)の3巻がある。このシリーズはストーリーが易しく、絵本であるため、挿絵とストーリーがほどよく合っているため、挿絵をもとに、話の内容を想像ししやすい。そこで、これらの挿絵を使って題名当てクイズをするという読書活動を考えて。

資料3 - 2 『ぐりとぐらとすみれちゃん』表紙絵，挿絵



中川李枝子 福音館書店 2003
『ぐりとぐらとすみれちゃん』

ぐりとぐらとすみれちゃん

資料3 - 3
題名カード

活動内容としては、資料3 - 2のように表紙絵と挿絵を裏表に印刷したものを準備し、シリーズ10種類の挿絵を掲示する。そして挿絵から題名を予想して、資料3 - 3の題名カードを挿絵の下にはっていくというものである。子どもたちが題名を予想して発表するときには、なぜその題名だと考えたのか、その理由も発表するようにした。この活動を入れることで、子どもたちは挿絵の細かい部分までみたり、挿絵からストーリーを想像したりするため、これらの本を読みたいという気持ちにつながったようである。

題名クイズ終了後、資料3 - 2を挿絵から表紙絵に返し答え合わせを行った。また、それと同時に、それぞれの絵本を提示し、紹介を行った。挿絵からいろいろと想像を膨らませていた子どもたちは、本と対面し、さらに読みたい気持ちが増したようである。ここで「読みたい」という気持ちを持続し、その後の読書活動につなげるために、それぞれの表紙絵をカラー印刷した読書記録カード（資料3 - 4）を配布し、読みたいと思う本に丸をつける活動を行った。

資料3 - 4 読書記録カード

『ぐりとぐら』のさくしや なかがりえとすみれのほんをよんでみよう！		1冊目()	2冊目()	3冊目()	4冊目()	5冊目()	6冊目()	7冊目()	8冊目()	9冊目()	10冊目()
挿絵の番号	挿絵のタイトル	挿絵の題名	挿絵の著者	挿絵の出版社	挿絵の読み手						
1		ぐりとぐら	中川李枝子	福音館書店	〇						
2		ぐりとぐらの えんそく	中川李枝子	福音館書店	〇						
3		ぐりとぐらの かいしやく	中川李枝子	福音館書店	〇						
4		ぐりとぐらの おやうき	中川李枝子	福音館書店	〇						
5		ぐりとぐらと おひる	中川李枝子	福音館書店	〇						
6		ぐりとぐらの おもしろい	中川李枝子	福音館書店	〇						
7		ぐりとぐらの おもしろい	中川李枝子	福音館書店	〇						
8		ぐりとぐらと すみれちゃん	中川李枝子	福音館書店	〇						
9		ぐりとぐらの 1冊め	中川李枝子	福音館書店	〇						
10		ぐりとぐらの うた	中川李枝子	福音館書店	〇						

この活動後、『ぐりとぐら』シリーズ以外にも同じ作者の本があることを伝えて紹介した。また資料3 - 4と同じように表紙絵を印

刷した読書記録カードを配布した。

授業の最後には、短い時間ではあったがこれらの本を自由に読む時間も保障した。すると子どもたちは、写真3 - 1のように自分が読みたい本を選択し、読み始めた。また写真3 - 2は、この読書活動終了後の給食の配膳を待つ間の様子である。

写真3 - 1 本の選択



この本を読
みたい
な

どの本を読
もうかな

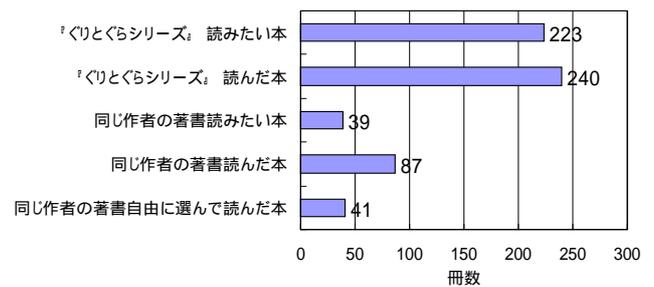
写真3 - 2 授業後の読書活動



授業後も
子どもた
ちの読書
は継続

下記の図3 - 1はこの読書活動での読書記録カードを集計したものである。

図3 - 1 子どもたちが選んだり読んだりした本の総冊数



調査方法：読書記録カードの読書冊数を集計
調査対象：平成15年度 第1学年（33名）

『ぐりとぐら』シリーズの題名当てクイズをした直後に、子どもたちが「読みたい」と選んだ本は223冊であった。その約1ヵ月後には、「読まれた」本は240冊にのぼり、「読みたい」と選んだ冊数を上回った。この結果から、読書活動後も子どもたちの読書はすすみ、継続して取り組まれていることが考えられる。また、同じ作者である中川のその他の著書については、活動の中で十分な紹介ができなかったため、「読みたい」と選ばれた本

は少なかったが、約1ヶ月後には「読んだ」本は、「読みたい」と選ばれた本の約2倍となった。この結果からも、読書活動後に子どもたちの読書はすすみ、継続して取り組まれたことが考えられる。これは、子どもたち同士の情報交換や読書記録カードによる表紙絵の紹介などが影響していると思われる。

さらに、自由に選択して読めるように表紙絵を印刷していない読書記録カードも配布した。その結果、作者名を手がかりに読まれた本も41冊にのぼった。このことから、作者名など、本を選ぶ手がかりを伝えることも、子どもたちの読書の広がりをお手助けする手段となるのではないかと考えられる。

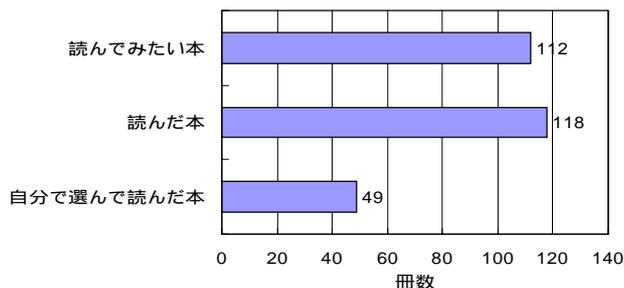
しかし、興味をもち読みたい本を選ぶことはできるが、その後の読書の活動に結びつかない児童がいる場合には、読書活動を取り入れた学習後、日常生活の中で子どもたちの読書の様子や配布している読書記録カードの確認などから、子どもたち一人ひとりの読書の状態を把握し、個別に働きかけていく必要があると考える。

『くじらぐも』に関連したもう一つの読書活動、16頁の資料3-1-の「くもとおはなしをしよう」は、「自分がみつけた雲の形から想像したこと話す」という学習活動に関連づけて、雲の形から想像することへの意欲づけや、想像をお手助けするための読み聞かせを取り入れた読書活動である。

はじめに『ちいさなくも』(40)の読み聞かせを聞き、雲の形が次々に変化する様子を見て、改めて雲の形を意識したようである。読み聞かせ後、自分でみた雲や想像した雲を自由に描く学習に移ると、様々な雲を描く子どもの姿がみられた。また、その後のブックトークでは、雲をテーマにした4冊の本(41)の紹介を行った。

その後、17頁の資料3-4と同じように、紹介した本の表紙絵を印刷した読書記録カードを配布し、その後の読書活動に生かしていった。

図3-2 子どもたちが選んだり読んだりした本の総冊数



調査方法：読書記録カードの読書冊数を集計
調査対象：平成15年度 第1学年 (33名)

左下記の図3-2は、この読書活動での読書記録カードを集計したものである。

このグラフからいえることは、ブックトークでの紹介後、読みたいと選ばれた本は112冊、読んだ本は116冊であった。ここでも前時の読書活動同様、「読みたい」より「読んだ」本の冊数が上回っている。また、紹介した本以外の雲に関する本を選んで読んだ冊数は49冊にのぼり、ここでも読書活動を取り入れた学習の後、子どもたちの読書が、「雲」というテーマで広がりをみせていることがわかった。

第2学年の実証授業

第2学年では、国語科の1月教材『いるか』に関連した読書活動を2時間分設定した。その読書活動の内容が、下記の資料3-5で示したものである。

資料3-5- 第2学年 読書活動

「言葉のおもしろい詩をみつけよう」1

- 『ことばあそび』の中から、いくつかの詩の読み聞かせを聞く
- 詩の本のブックトークを聞く
- 読みたい本を選ぶ
- 好きな詩を選んで試写する
- 詩の音読練習をする

ブックトークの様子



資料3-5- 第2学年 読書活動

「言葉のおもしろい詩をみつけよう」2

- 自分が選んだ詩を紹介する
- 読みたい詩の本を選ぶ
- 読みたい詩の本を読む
- 学習を振り返り、詩の本を読んだ感想を話し合う

第2学年では、読み聞かせやブックトークに加えて、互いに自分の選んだ本を紹介する読書活動を設定した。この活動を取り入れることで、指導者からの本の紹介冊数よりも、多くの本の紹介を聞くことができ、本の幅が広がると考えたからだ。

資料3-5-と資料3-5-は、2時間続きの読書活動である。

資料3-5-の読書活動「言葉のおもしろい詩をみつけよう1」では、国語科で学習する『いるか』という詩の発展として、はじめに同じ作者である谷川俊太郎の著書『ことばあそび』から言葉の使い方のおもしろい詩の読み聞かせを行った。この活動は、詩への興味づけと、これから選ぶ詩のイメージ作りに有効であった。

次はブックトークによる本の紹介である。この活動は、これから子どもたちが、自分の読みたい本を選ぶための手がかりとなる活動である。今回のブックトークは、その後、たくさんの本を配布し、その中から、子どもたちが読みたい本を選ぶという活動を予定していたため、少し冊数が多かったが紹介した本が1冊ずつ配布できるように、グループ数と同じく7種類の本を用いた。

読みたい本が選びにくい子どもたちにとっては、紹介された本は、その印象が心に残り、読みたい本として選びやすかったようである。

ブックトークの後、それ以外の本も含め各グループに人数の2倍(約10冊)の本を配布し、自分の読みたい本をそこから選ぶ活動を行った。そして、選んだ本の中から言葉のおもしろい詩を選び、それを視写していった。最後に友達に聞いてもらうという目的意識をもって音読練習をした。子どもたちは、声に出して詩を読むことで、言葉や言い回しのおもしろさを、さらに味わうことができた。この音読については、次時に発表するため、家庭学習の課題とした。家庭へも活動の場を広げたり、働きかけをしたりすることは、家庭読書の充実にもつながっていくのではないかと考える。

19頁の資料3-5-の読書活動は、資料3-5-の活動の続きである。この読書活動では、各グループの中で、前時に視写した詩の紹介と合わせて、それを選んだ理由と載っていた本とを発表する活動を行った。写真3-3は、その活動の後、子どもたちが読みたい本を選び、読みすすめているところである。

写真3-3



読みたい本を選んで読んでいるところ

ここでは「読みたい」という気持ちを持続し、本を選ぶ手がかりとなるように、またその後の読書活動につなげるために、グループごとに、子どもたちが選んだ詩の題名と、それが載っていた本の書名、紹介した児童名を書いた読書記録カード(右上記、資料3-6)を配布した。

資料 3-6 グループごとの読書記録カード

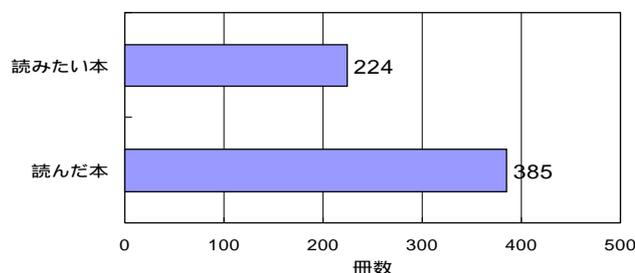
No.		読みたい本 書名	しょうがいし人	本の種類(表紙色) / 著いた人(作り手)	読んだ日	読んだ本 冊数
1				さるが ふねを かきました	月	日
				まど・みちお		
2				「いちばんぼし」 まど・みちお	月	日
				のぼらうた (4)		
3				くどう なおこ	月	日
				「たたたん びよん」 くどう なおこ		
4				さるが ふねを かきました	月	日
				まど・みちお		
5				「うきぎ」 まど・みちお	月	日
				元気がでる し 1年生		
6				「いたい」 新ざわ としひこ	月	日
				いとう えいじ		
7				ことばあそびうた また	月	日
				谷川 しゅんたろう		
8				「かって かった」 谷川 しゅんたろう	月	日

子どもたちは、このカードを手がかりに読書活動をすすめていった。

このカードは、グループごとに色を変えて印刷したことにより、子どもたちからは「他のグループの読書記録カードもほしい」という声が聞かれた。またそれに伴い、「読みたい」と他のグループに配布された本にも興味を示した。

グループごとの発表だったため、他のグループでの紹介内容は聞けなかったが、読書記録カードに記入されている紹介者や題名、書名を手がかりにして、活動後の読書に生かしていくことができた。

図3-3 子どもたちが選んだり読んだりした本の総冊数



調査方法：読書記録カードの読書冊数を集計

調査対象：平成15年度 第2学年 (38名)

上記の図3-3は、子どもたちが読みたいと選んだり、実際に読んだりした本の総冊数である。

詩の本(詩集)は、子どもたちが普段手にしにくい分野のものである。しかし、学習内容に関連して、多くの詩の本(詩集)を用い、互いに紹介し合う読書活動を行うことで、図3-3でも示すように、多くの本に興味をもち、読みたいと思ったり、実際に読みすすめたりしたことがわかる。

また、第1学年の読書活動同様、「読みたい」よりも「読んだ」本の冊数が上回っている。

このことから、学習後、子どもたちの読書活動が広がりをみせたといえる。また、この学年では、18頁の資料3-5-の読書活動後、読書

の時間を別に設ける取組や、冬季休業中での家庭読書への働きかけを行ったため、子どもたちの詩の本（詩集）への興味が持続し、より多くの本が読まれたのではないかと考えられる。

（２）中学年での読書活動

中学年では、幅広く読書をするということをねらいとして、「調べ学習を取り入れた学習」の中に読書活動を設定した。

中学年になると、図書を活用して調べたり、まとめたり、発表したりする調べ学習の機会が増えてくる。そこでは図書を選択し、活用する力が求められる。しかし、その反面、読み聞かせやブックトークなどの読書活動が減り、本の紹介を受ける機会が減少することが予想される。

そこで、子どもたち自身が調べ学習で活用した図書や資料を、互いに紹介し合う読書活動を設定することにした。このような活動を取り入れることで、指導者からの本の紹介冊数よりも、多くの図書の紹介を受けることができ、読書の幅が広がると考えたからである。また、子どもたちは同じテーマで調べ学習をすすめることが多いため、互いに活用した図書には興味を示すであろうし、子どもたち同士が図書の紹介をし合ったり、それを読み合ったりすることは、調べ学習の内容の深まりにもつながるのではないかと考えられる。

さらに、「学校図書館の利用の仕方」や「図書や資料などの利活用」の方法などを読書活動の中に取り入れることで、図書の選択や活用についての知識の深まりが期待される。

第3学年の実証授業

第3学年では、国語科の11月教材『動物とくらす』に関連した読書活動を設定した。この読書活動は、調べ学習に活用した図書を互いに紹介するという内容である。

また、「学校図書館のしくみと利用」や「図書や資料の利活用」についての指導も、この単元指導計画の中に読書活動として取り入れた。その読書活動の内容は、右上記の資料3-7-1で示したものである。

国語科の教材『動物とくらす』は、全14時間扱いの学習である。この学習の第6時から第13時までの8時間が、「動物と人間とのかかわりについて」というテーマでの調べ学習に当てられる。

この学習のまとめとして、パンフレットを作成し、それを互いに提示して、感想を交流するという内容の学習活動である。この活動の発表時に、

出来上がった作品の紹介だけではなく、活用した図書や資料も紹介するという読書活動を行った。その活動内容を示したものが下記の資料3-7-2である。

資料3-7-1 第3学年 読書活動

「パンフレットを紹介しよう」

1. パンフレットの紹介をする
2. 意見交流をする
3. 読みたい本を選ぶ
4. 学習のまとめをする。



パンフレット紹介と合わせて、本の紹介をしているところ

資料3-7-2 第3学年 読書活動(利用指導)

学校図書館のしくみと利用

図書や資料の利活用

4. 図書館の本の分け方、並べ方（本の分類）
5. 目次、索引の利用
6. メモの書き方

子どもたちは同じ「動物と人間とのかかわり」というテーマで調べ学習をしてきたため、互いに興味をもち、自分が調べた動物と他の子どもたちが調べた動物との違いなどに気づきながら発表を聞くことができた。（資料3-8）

資料3-8 子どもたちの感想より

『ゆめをくれた盲導犬ミントといっしょに生きる』を読んで、盲導犬は、人間の目になってすごいと思った。

さんの発表を聞いて、「車椅子に乗っているのに、犬や猫を助けた人間もいるなんてすごいと思った。

『めざせ！犬の訓練士』を読んで、犬の訓練士はとても大変だなと思った。さんの発表を聞いて、3本足のタローは、大変だなと思った。

『小鳥の先生 ただいま診療中』を読んで、小鳥を治していくことはいいなと思った。さんの発表を聞いて、盲導犬と話をするのもいいなと思った。

資料3-8のように、自分が読んだ本の内容と他の子どもたちが読んだ本の内容とを比較をすることができ、自分が調べてきたことが生かされたのではないかと考えられる。

その後の読みたい本を選ぶ活動では、他の子どもたちの発表を聞いて、ある程度内容を把握しているため、積極的に本を選ぶ姿がみられた。21頁の写真3-4は、その選書の様子である。

写真3 - 4 読みたい本を選んでるところ



また、実際の調べ学習に入る前に、国語科で学習する『本の探し方』（6月教材）と『動物とくらす』の中で学習する「目次と索引」「調べるときのメモ」と関連した読書活動（20頁の資料3 - 7 - ）を取り入れ、作業プリント（資料3 - 9 - ）を活用して、もう少し詳しく学習した。この学習は、調べ学習をするときの選書にも生かすことができた。

資料3 - 9 作業プリント（3種類 一部抜粋）

本と友だち 読みたい本をさがそう！
年 組 ()

図書館の本の分け方、並べ方(本の分類)

図書館の本は、さかすかしくすいように本のくにならぶようになっています。この「本の分類」(NDC)というきまりです。日本のほとんどの図書館が、このきまりを使っています。

本と友だち 目次、さく引を利用しよう！
年 組 ()

目次、さく引ってなんだろう？ さく引...

本と友だち カードメモを作ろう！
年 組 ()

自分の知りたいことや調べて分かったことをカードに書いていこう。

読みどりカード 「もっと知りたいな。」「これについて、調べたいな。」と思ったことを書きましょう。

黄色カード 調べたり学んだ本、教えてもらった人の名前などを記述しておきましょう。

オレンジカード 「調べてわかったよ。」「こんなことが書いてあったよ。」ということを書きましょう。

これは、パンフレットを作るために大切なカードです。このカードがしっかり書けたら、パンフレット作りはかんたんだよ！

読みどりカードを書こう。

『動物とくらす』では、人間とともにくらしている動物について学習してきました。このカードには、人間とともにくらしている動物の中から、調べたい動物を選び、その動物について、もっと知りたいこと、調べたいことを書きましょう。

調べたい動物 調べた日付(月 日)

もっと知りたいこと

調べたいこと

黄色カードを書こう。

このカードには、調べたり学んだ本(題名)や、教えてもらった人の名前などを書きましょう。

調べた日付(月 日)

本の題名(題名) 教えてもらった人の名前

作者名(本を書いた人の名前) 教えてもらったこと

出版社名(本の会社の名前) 教えてもらったこと

思ったことや考えたこと(ひと言感想)

この指導を行った後、子どもたちからは下記のような感想が聞かれた。

資料3 - 10 子どもたちの感想より

(本の分類について学習して)自分がどんな分類の本をよく読んでいるのかわかった。
本を探すときに、どの書架(分類)のところへ行けばよいか、わかるようになってよかった。
本を探しやすくなった。 など

この子どもたちの感想から考えると、調べ学習の中で図書館の活用や選択をする場合には、「学校図書館のしくみと利用」や「図書や資料の利活用」について指導することは、有効であるといえる。

第4学年の実証授業

第4学年では、国語科の2月単元『手と心で読む』に関連した読書活動を設定した。この読書活動は、調べ学習に活用した図書や資料を互いに紹介するという内容である。

また、第3学年で既に学習している内容であるが、もう一度「学校図書館のしくみとその利用」や「図書や資料の利活用」についての指導もこの読書活動に取り入れた。その読書活動の内容が資料3 - 11 - で示したものである。

資料3 - 11 - 第4学年 読書活動

「伝え合いの会をしよう」

1. 自分のテーマに沿ってまとめたことを発表する
2. 意見交流をする
3. 読みたい本を選ぶ
4. 学習のまとめをする



発表と合わせて、本の紹介をしているところ

学校図書館のしくみと利用 図書や資料の利活用

1. 図書館の本の分け方、並べ方(本の分類)
2. 目次、索引の利用
3. メモの書き方

資料3 - 11 - 第4学年 読書活動 (利用指導)

国語科の単元『手と心で読む』は、全24時間扱いの学習である。この学習の第11時から第24時までの9時間が、「自分のテーマ(伝え合い)に沿ってまとめたことを発表する」という調べ学習に当てられる。この学習で調べたり、学んだりしたことを、パンフレットや新聞、本にするなど、様々な方法で工夫してまとめ、それを互いに提示し、感想を交流するという内容の学習活動である。

この活動の発表時に、出来上がった作品の紹介だけではなく、活用した図書や資料の紹介もするという読書活動を行った。その活動内容を示したものが、資料3 - 11 - である。

第4学年では、子どもたちが普段手にすることが少ない分野の本を調べ学習に活用することから、子どもたちに興味をもってほしいと考え、『手と心で読む』の学習を始めると同時に、教室の中

にバリアフリーに関する本をいろいろと集め、展示した。またこの中から、その日の学習に関連する本を、授業の中で1、2冊紹介した。

このような活動をすることで、子どもたちの多くは、バリアフリーに関する本に興味をもち、調べ学習のテーマを決めたり、本を探したりするときなどに、スムーズに活動することができた。

調べ学習の発表時には、それぞれが同じ「伝え合い」というテーマで調べ学習を行ってきたので、互いの発表に興味をもち、自分が調べた内容と他の子どもたちが調べた内容との違いなどに気づきながら発表を聞くことができた。(資料3-12)

資料3-12 子どもたちの感想より

ぼくは点字の歴史を調べたけど、さんは手話の歴史を調べていて、手話の歴史もわかってよかったです。

君はインターネットで調べて、わたしは本で調べた。同じ内容だけれどもいろいろな調べ方があっていいと思った。

手話について調べたけど、点字のことも調べてみたい。

さんはとぼくは、同じテーマ(手話は国によって違うのか)で調べていたけど、調べ方も内容も違った。同じことを調べるのに、調べ方次第でわかることが違うんだな。

上記の資料3-12のような自分が調べた内容と他の子どもたちが調べた内容との比較をする感想が聞かれたことで、調べ学習をしたことが生かされたのではないかと考えられる。

また、その後の読みたい本を選ぶ活動では、指導者からの本の紹介と他の子どもたちからの発表時の紹介とから、ある程度本の内容を把握していたため、積極的に本を選ぶ姿がみられた。写真3-5、6は、選書をしたり、子どもたち同士で本を読み合ったりしているところである。

写真3-5
読みたい本を探しているところ



写真3-6
選んだ本を読み合ったり、一人で読んでいたりしているところ

また、21頁の資料3-11-の読書活動を行った後、子どもたちからは、下記の資料3-13のような感想が聞かれた。

資料3-13 子どもたちの感想より

今まで図書館で本を探すのが大変だったが、これからはすぐに探せます。

本がいっぱいあるときに、分類番号を見ると簡単に探せるとおもう。

本の題名がわからないときに、分類番号で探すことができる。

上記の子どもたちの感想から考えると、前に学習した内容であっても、定着を図るためには、繰り返し学習することが必要であるといえる。

また、学習に関連する図書を教室にそろえたり、学習の中で紹介したりすることは、学習内容を習得していく上で、有効であると考えられる。

第2節 子どもたちの主体的な

読書活動をめざして

(1) 読書活動の必要性

第1学年から第4学年までの実証授業を通して、読書活動年間計画の必要性、および学習活動の中に読書活動を取り入れていくことの有効性について、子どもたちの活動の様子から検証していく。

本研究では、第1学年から第4学年までのそれぞれの学年において、国語科の学習内容に関連した読書活動の実証授業を行ってきた。

国語科の学習で学んだ内容は、クラスの子供たちすべてに共通する知識となるため、それまでの読書経験の有無にかかわらず、この学習で取り上げたり、紹介したりした図書については、子どもたちにとって親しみやすい内容であった。その上、一斉に読書活動を行うことができ、子どもたちへの読書の興味づけをする活動としては、大変有効な手段だといえる。

第1学年の読書活動に取り上げた本については、絵本中心だった子どもたちの読書の活動に、「同じ作者」というテーマで物語の紹介をすることで、絵本から物語への広がり考えた。

第2学年では、普段子どもたちが手に取りにくい、詩集を活用することで、この分野への広がりを期待した。

その結果は、3章1節1項で示した、第1学年の図3-1「子どもたちが選んだり読んだりした本の総冊数」や18頁の図3-2「子どもたちが選んだり読んだりした本の総冊数」をみてもわかるように、読書活動の中で出会った図書については

「読みたい」と興味を示し、その後の読書活動の中で「読んだ」冊数にも表れている。

第3学年では、「動物と人間とのかかわり」をテーマにした本を取り上げた。この分野の本も、普段はなかなか子どもたちが手にしない分野の本であるが、授業から1ヶ月以上たった現在もその読書活動は継続されており、保護者からも「今まで読まなかった内容の本が読めるようになった」と喜びの声が寄せられているそうである。

第4学年では、バリアフリーにかかわるテーマの本を取り上げた。この分野の本も、子どもたちが手にする機会が少ないと思われるが、今回の読書活動を通して、この分野にも読書の広がりがみられるようになった。

このように学習活動と関連した読書活動は、子どもたちに読書の興味づけを行うだけでなく、今まで読んでいた分野の本から新しい分野の本へと読書を広げる活動として、大変有効であると思われる。しかも、クラスで共通した内容の読書活動を行っているために、そこで活用した本の紹介だけにとどまらず、子ども同士の情報の交換も相まって、子どもたちの読書活動がよりすすめられていくという効果もあった。

このような実証授業の結果から、学習活動に関連して行う読書活動は、子どもたちの興味・関心に触れ、その後の読書活動に大きく影響を及ぼすといっても過言ではない。また、関連した教材や単元の学習を行っている間、長期にわたって継続して読書への働きかけをすることができるため、子どもたちの興味を持続することができた。このことも読書冊数の伸びに影響を及ぼしたものと考えられる。

合わせて、子どもたち自身の興味・関心でのみ選書しているときに比べ、多岐にわたった分野の図書を知り、それを読むことができた。しかし、学習活動の中で関連した読書活動を行う場合、活動内容について考えなければならないことが二点ある。

一点目は、本の内容を伝える活動を読書活動の中に取り入れることである。ただ本をみせて、「こんな本がありますよ」というだけでは、子どもたちに本の印象が残らず、以後の読書活動に生かすにくい。本の内容を具体的に紹介することで、表紙などの装丁と一致し、それが子どもたちの印象に残り、本を選ぶのとき目安となるのである。

右上記の写真3-7~10は実証授業の中で、内容に合わせて、本の表紙をみせる活動を行っているところである。

写真3-7 第1学年



写真3-8 第2学年



写真3-9 第3学年



写真3-10 第4学年



二点目は、クラスの子どもの数に合うだけの図書を準備するという点である。今回の実証授業でも、公共図書館からの学校貸出制度を利用し、その協力のもと、各学校の図書館にある本と合わせて、それぞれのクラス人数よりも多い図書の準備をした。この準備を十分に行わないと、子どもたちが、「本を読みたい」と思っても、手にする本がないという状況が生まれ、興味や関心が損なわれてしまい、以後の読書活動には発展していかないということも考えられる。

このことは、第1学年の実証授業からもいえることであるが、本稿17頁の第1学年の図3-1と18頁の図3-2の「読んだ本」についての結果を比較すると、図3-1では240冊読まれているのに対し、図3-2では118冊と、半分程度にとどまっている。これは読書活動で扱う本のテーマの違いも影響したと考えられるが、図3-1の活動では、子どもたちの人数に合った図書の準備ができたが、図3-2の活動では、「雲」というテーマの本が少なく、クラス人数の3分の1ほどの本しか準備できなかった。その結果、読まれた本の冊数に大幅な違いがでたのではないかと考えられる。

前もって読書活動に必要な図書の準備をしていくためにも、年間を通して、いつ、どの学習活動と関連して、どのような方法で読書活動を行っていくのかということについて計画を立てておくことが重要である。

おそらく、同じテーマの本について、クラスの人数に合うだけの冊数を揃えている学校図書館は少ないと思われる。そのために必要な図書の準備については、あらかじめ、司書教諭や学校図書館担当教員(図書主任)と相談の上、購入計画を立てて準備するか、公共図書館や近隣の学校図書館から貸出の協力を得て、準備しなければならない。

このように、必要な図書を準備し、活用するためには、全体のみ通しをもって取り組むことが重要である。このことから考えても、各校で読書活動の年間計画を作成することが必要なのではないかと考えられる。

(2) 読書活動の広がり求めて

本研究では子どもたちと本との出会いの場を多くもつことが、子どもたちの読書推進につながると考え、学校教育のすべての活動の中で読書活動を行うことができるように、読書活動年間計画の作成と、それを活用した読書活動の実際について研究をすすめてきた。

今回の実証授業については、国語科の学習活動の中で行ってきたが、ここで紹介した読書活動の方法は、学校教育のすべての活動の中に取り入れることができるものである。特に様々な学習の中で、子どもたちが自ら課題をもって調べ学習をし、そこで調べたことをいろいろな方法でまとめ、発表するという学習は国語科をはじめ、社会、総合的な学習の時間など数多くの学習の中で行われている活動である。その中に、今回行ったように、「活用した図書の紹介」を入れることにより、それが契機となって、違う図書へと子どもたちの読書活動は広がりを見せることが予想される。

本研究で示した読書活動年間計画では、国語科で取り入れられる読書活動を中心に考え、そこから発展して、「国語科で行った読書活動と、同じ読書の指導方法を用いることができる」「同じテーマの図書を取り扱った学習をすることができる」という視点をもって、他教科や道徳、特別活動の中で読書の要素を含む単元や教材を考えて年間計画を立てていったため、国語科以外での読書活動の計画が少ない。

しかし、計画を参考に、工夫によっては、授業の中で関連した内容の図書を紹介するなどの読書活動を少し入れるだけでも、子どもたちが本に興味を示すことが考えられる。

例えば、理科で星や星座についての学習をする中で、4分類の星や宇宙についての本や0分類の宇宙や星の図鑑、星座に関連させて、1分類のギ

リシャ神話などを紹介する読書活動を取り入れることにより、そこから読書活動に広がっていくことも予想されるのである。

また、それと同時に、子どもたちの読書への意識が続くような、継続的な取組を工夫することも必要である。

写真3-11 第3学年 本の展示



写真3-12 第4学年 本の展示



その工夫の一つとして、上記の写真3-11, 12は学習と関連した読書活動に合わせて、教室のロッカーの上に、表紙がみえるように本を展示している様子である。

ここで展示されている本の多くは、読書活動の中で、その内容の紹介を受けるときに、合わせて表紙も提示してもらっていた本であるため、子どもたちには、表紙と本の内容が結びついており、自分が読んでみたい本をはっきりと意識していたようである。そのため、授業後の読書活動では、表紙を手がかりにして、目的をもって本を選び、読みすすめている姿がみられた。

このように、読書活動の中での本の提示の仕方やその活動前後の本の展示の仕方を工夫するだけでも、子どもたちの継続した読書への働きかけになるのである。

第1章で述べたように、子どもたちの読書は、環境によって大きく左右される。そのため、学習の中に読書活動を取り入れたたり、本の展示を工夫したりするなど、いつも身近に本がある環境を作

っていくことが、読書活動を支える大きな柱となり、読書活動を広げていくための大切な取組であると考えます。

- (37) 中川李枝子『ぐりとぐら』福音館書店 1980
- (38) 中川李枝子『ぐりとぐらのかいすいよく』福音館書店 1978
中川李枝子『ぐりとぐらのおきゃくさま』福音館書店 1980
中川李枝子『ぐりとぐらのえんそく』福音館書店 1983
中川李枝子『ぐりとぐらとくるりくら』福音館書店 1992
中川李枝子『ぐりとぐらのおおそうじ』福音館書店 2002
中川李枝子『ぐりとぐらとすみれちゃん』福音館書店 2003
前掲 注(37)
- (39) 中川李枝子『ぐりとぐらの1ねんかん』福音館書店 1997
中川李枝子『ぐりとぐらのあいうえお』福音館書店 2002
中川李枝子『ぐりとぐらのうたうた12つき』福音館書店 2003
- (40) エリック・カール『ちいさなくも』偕成社 1976
- (41) いとうひろし『くもくん』ポプラ社 1998
いせひでこ『雲のてんらん会』講談社 1998
あまんきみこ『ひつじぐものむこうに』文研出版 1995
ジョン・バーニンガム『くものこどもたち』ほるぷ出版 1997

おわりに

この研究のはじめに、読書環境が大切であると述べてきたが、子どもたちの読書をすすめていくためには、私たち大人が、その環境を整え、多くの本に関する情報を得たり、多くの本を準備したりすることが大切であることを改めて感じた。子どもたちの身近に、すぐに手に取ることができる本があり、その本に興味をもつ活動や読書のすすめがあることによって、子どもたちの読書の活動が生き生きとしたものになるということがわかった。

読書活動は、一回限りの活動ではなく、継続して行うことにより、その楽しさがわかり、本を読むための読書力もついてくる。また様々な本との出会いが、子どもたちのこれからの生き方をも左右するかもしれないのである。その本と子どもたちの出会いの場を求めるために本研究を行ってきた。

しかし、学習と関連した読書活動を行うために、多くの本を活用することは、図書の選定や準備など、指導者一人の力では難しい面もある。

現在、多くの学校図書館では、その蔵書数が、全国学校図書館協議会から出された『学校図書館数量基準』(42)や旧文部省から出された『学校図書館図書標準』(43)に達していないことが、諸調

査からも明らかになっている。このような状況では、学校図書館の中だけで、読書活動に必要な図書を準備することは難しい。そこで、司書教諭や学校図書館担当教員の協力を得て、地域の公共図書館とも連携し、読書活動の準備をすすめることも考えていく必要がある。

折りしも、京都市では、平成14年4月に「京都市子ども読書活動振興市民会議」が発足し、昨年には、そこから『子どもの読書活動振興のためのアピール』が作成された。それをもとに作成されたパンフレット(44)には、「子どもたちに本と出会うきっかけをつくること、本とふれあう機会をたくさんつくること、本の楽しさを伝え、読書を好きになるよう積極的に関わっていくことが、なにより大人に求められる責務であり、このことにより、子どもの豊かな読書生活が始まる」のたとえられている。

子どもたちの読書の活動は、指導者や周りにいる大人たちの働きかけで大きく左右される。読書活動がすすみ、「読書が好き」という子どもたちの育成をめざして、今後、様々な取組がなされていくことを切に願うものである。

最後に付表として、小学校第1学年から第6学年までの読書活動年間計画を提示した。この年間計画を一つの例として受け止めていただき、それぞれの学校や子どもたちの実態に合わせた読書活動年間計画作成の手がかりとして活用していただけたらと考える。

本研究は、川岡小学校、東山小学校、花園小学校、明德小学校の研究協力員の皆さんとの共同作業の結果であることを伝え、この場を借りて感謝の意を表したい。

- (42) 図書館教育研究会『新学校図書館通論』学芸図書株式会社「B資料 2.学校図書館数量基準(昭和52年全国学校図書館協議会)」1999.5 p.236~237
- (43) 前掲 注(42)「B資料 2.学校図書館数量基準(平成5年 文部省)」p.238
- (44) 京都市子ども読書活動振興市民会議『みんなで読もう！大きくなあれ 読書の輪』(子ども読書活動振興のためのアピールより)京都市教育委員会 2004

本稿では、次の言葉を下記のように使い分けて使用した
〔図書〕…色々な分野やテーマを含んでいる場合
〔本〕…一つ分野やテーマの場合

〔付表1〕(1) 第1学年 読書活動年間計画

月	指導方法	教科・道徳・特別活動	参考図書	
4月	楽しみ読みの指導 ・読み聞かせ	国語(ア) 「おはなしよんで」 先生が読むお話を興味をもって聞く。	動物の出でくる図書 【絵本、民話、4分類の本など】 「三びきのこぶた」 瀬田貞二/訳 福音館書店 「ブレーメンのおんがくたい」 角野栄子/文 講談社 「さるかに」松谷みよ子/文 フレーベル館 「うらしまたろう」 時田史郎/再話 福音館書店	
	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(カ) 「うたにあわせて あいうえお」 楽しく声に出して読み、「あいうえお」に親しむ。	あいうえおに関連する図書 「高畠純のあいうえお」高畠純/作 絵本館 「くりとぐらのあいうえお」 中川李枝子/作 福音館書店	
	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(カ) 「かきとかぎ」 濁音のある言葉を読む。		
5月	楽しみ読みの指導 ・音読 ・読み聞かせ	国語(カ) 「ともだち」 声の大きさや読み方を変えて、楽しく元気に読む。	あいさつに関する図書 「ごあいさつ ごあいさつ」 渡辺一/作 あかね書房 「こんにちは」中川ひろたか/作 偕成社 「あいさつはすこいぞ」木村裕一/作 国土社	
	考え読みの指導 ・想像読み 楽しみ読みの指導 ・読み聞かせ 読書集会の指導 ・表現	国語(ウ) 「はなのみち」 絵を見て、想像を広げながら、楽しく読む。 紙芝居の発表会をする。	生活科 「たねをまこう」 草花の栽培に関心をもつ。	生き物が登場する楽しい絵本種に関する図書 「ことりのくるひ」岩崎ひろし/作 至光社 「ぶたためききつねこ」 馬場のぼる/作 ぐくま社 「コックモーモ」 ジェリエットダラス/作 徳間書店 種に関する図書 「たねのずかん とぶ・はじける・くつつく」 古矢一穂/文 福音館書店 「たねがとぶ」甲斐信枝/作 福音館書店
	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(カ) 「ねことねっこ」 促音の発音に気をつけ、楽しくリズムカルに音読する。		
6月	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(カ) 「あいうえおのうた」 調子よく、リズムカルに「あいうえおのうた」を音読する。	あいうえおに関する図書 「あいうえおうさま」寺村輝夫/作 理論社 「しりとりのあいうえお」 石津ちひろ/作 偕成社 「あそぼうあそぼうあいうえお」 村上勉/作 あかね書房	
	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(カ) 「おばさんとおばあさん」 長音の表記に気をつけながら読む。		
	楽しみ読みの指導 ・読み聞かせ 調べ読みの指導 ・体験 考え読みの指導 ・想像読み	国語(ア)(イ) 「だれだかわかるかな」 昆虫や生き物などについて書かれた易しい読み物に興味をもって読む。 写真を見て想像を膨らませ、問いと答えのまとまりを考えて読む。	生活科 「くさばなやむしとあそぼうよ」 いろいろな感覚を働かせて、草花や虫などの自然と触れ合う。	昆虫に関する図書 「カブトムシ・セミ」 矢島裕/監修 すずき出版 「カタツムリ」松浦宏/監修 すずき出版 「科学のアルバム 昆虫のふしぎ」 大谷剛/文 あかね書房
	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(カ) 「は、を、へをつかつかこう」 助詞の使い方を理解し、「は、を」の発音に気をつけながら読む。		
7月	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(カ) 「おもちゃとおもちゃ」 拗音の表記に気をつけて読む。		
	考え読みの指導 ・想像読み 楽しみ読みの指導 ・音読 読み聞かせ 読書集会の指導 ・表現	国語(ア)(ウ)(カ) 「おむすびころりん」 場面の様子を想像しながら読む。 言葉のリズムに気をつけながら、ひとまとまりの語や文として声に出して読む。 日本の民話を楽しんで聞く。 登場人物の様子を動作化し、音読と合わせて発表する。	日本の民話 「ももたろう」松谷みよ子/文 童心社 「いっすんぼうし」大川悦生/文 ポプラ社 「かもとりごんべえ」 斎藤君子/文 ほるぷ出版	
	楽しみ読みの指導 ・読み聞かせ ひとり読み 図書の選択 学校図書館のしくみとその利用	国語(ア) 「こんなほんをみつけたよ」 図書館や学級文庫などから好きな本を探し、挿絵や写真、話の内容を楽しんで読む。 本の借り方や返し方がわかる。	道徳 「お田うえじぞう」 (醍醐の民話) いろいろな地方や国に民話があることを知り、昔話に関心をもつ。	京都に関する図書 「京都の童話」 日本児童文学者協会 「栗別ふるさと童話館」編集委員会/編 リブリオ出版
9月	考え読みの指導 ・想像読み 楽しみ読みの指導 ・音読 読み聞かせ 読書集会の指導 ・表現	国語(ア)(ウ)(カ) 「大きなかぶ」 場面の様子を想像しながら読み、お話を楽しむ。 ひとまとまりの語や文としてリズムカルに読む。 外国の民話を楽しんで聞く。 登場人物の様子を動作化し、音読と合わせて発表する。	道徳 「ソリちゃんのチュソク」 韓国・朝鮮に関心をもつ。	世界の民話 「ヌ・チェの水おけ」 神沢利子/文 ポプラ社 「3びきのくま」トルストイ/作 偕成社 「おばけリンゴ」 ヤーノシュ/作 福音館書店 「三びきのやぎのがらがらどん」 マーシャ・ブラウン/絵 福音館書店 「てぶくろ」ラチョフ/絵 福音館書店 「おどりトラ 韓国・朝鮮の昔話」 金森襄作/再話 福音館書店 韓国・朝鮮に関する図書 「韓国の友だち大韓民国」 伊地知英信/著 学校図書
	楽しみ読みの指導 ・読み聞かせ ブックトーク ひとり読み 調べ読みの指導 見つけ読み 図書の選択・活用	国語(ア)(イ) 「じどう車くらべ」 いろいろなじどう車の仕事とつくりの關係に興味をもって読む。 じどう車の仕事とつくりの關係を見つけてながら読む。 自分の好きなじどう車の「しごと」や「つくり」について調べる。	道徳 「みんなののりもの」 乗り物に乗ったときの様子や気持ちについて話し合う。	自動車に関する図書 「はたらくじどうしゃ」1～4 山本忠敬/作 福音館書店 「まちではたらくじどうしゃ」 関口猪一郎/作 小峰書店 「はたらくじどうしゃ」1～3 城谷英男/作 岩崎書店

10月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像読み 楽しみ読みの指導 読み聞かせ ブックトーク ひとり読み 図書の選択 音読 調べ読みの指導 体験 	<p>国語(ア)(ウ)(カ)</p> <p>「くじらぐも」 場面の様子について想像を広げながら読む。 雲に関する本を読んだり、今までに見た雲を思い出したりしながら、雲と話したいことを想像する。 会話文の調子の違いに気づきながら工夫して音読する。</p>	<p>図画工作</p> <p>「おはなしたいすき」 お話を聞いたり読んだりして思いをふくらませ、絵や立体に表すようにする。</p> <p>学級活動</p> <p>「なかがわりえこさんの本をよもう」 「くじらぐも」の作者、中川李枝子さんの本の読み聞かせを楽しむ。 作者を手がかりにして、本を選ぶ方法を知る。 中川李枝子さんの本を自分で選んだり、読んだりする。</p>	<p>雲に関連する図書</p> <p>「ちいさなぐも」 エリック・カール/作 偕成社 「雲のてんらん会」 いせひでこ/作 講談社 「ひつじぐものむこうに」 あまきみこ/作 文研出版</p> <p>中川李枝子の著書 「くりとぐら」シリーズ 福音館書店</p>
	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ 図書の選択 ひとり読み 	<p>国語(ア)</p> <p>「わたしの すきな本」 自分で好きな本を選ぶ。</p>		
11月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像読み 	<p>国語(ウ)</p> <p>「ぼくちの ゴリ」 ゴリの体の特徴や動作、書き手の気持ちなどを想像しながら読む。</p>	<p>生活科</p> <p>「いえのめいじんをさがそう」 家族のことに関心をもつ。</p> <p>道徳</p> <p>「くつあらい」 家族の一員であることに気づき、自分のできる仕事について考える。</p>	<p>犬に関する図書</p> <p>「のら犬ウィリー」 マーク・シーモント/作 あすなろ書房 「こいぬのジョリーとあそぼうよ」 ダーリ・メッツガー/文 徳間書店</p> <p>家族とのふれあいに関する図書</p> <p>「トレバー、がんばって」 ロブ・ルイス/作 ほるぶ出版 「オーバルひとりぼっち」 オーバル・ウィットリー/作 ほるぶ出版 「おじいちゃん」ジョン・バーニンガム/作 ほるぶ出版</p>
	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験 楽しみ読みの指導 読み聞かせ ブックトーク 考え読みの指導 想像読み 	<p>国語(ウ)</p> <p>「こんなものみつけたよ」 植物、動物、気象、家の中、町の中などの変化に気づき、身近にある秋について想像を広げる。</p>		<p>秋に関する図書</p> <p>「パッタ」「カマキリ」 伊地知英信/文 ポプラ社 「どんぐりころころ」 今津秀雄/文 偕成社 「木の実ともだち」 松岡達英/構成 偕成社</p>
	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読 	<p>国語(カ)</p> <p>「かたかな」 長音、拗音、促音のある片仮名の語を正しく読む。</p>		<p>片仮名に関する図書</p> <p>「カタカナあいうえお」 冬野いちこ/絵 学研 「かたかなえほんアイウエオ」 村上勉/作 あかね書房 「カタカナえほん」とだこうしろう/企画 戸田デザイン研究所</p>
<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像読み まとまり読み 楽しみ読みの指導 読み聞かせ 図書の選択 通読 ひとり読み 集団読書の指導 発表会 	<p>国語(ア)(イ)(ウ)</p> <p>「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 本文と挿絵を比較しながら読んで、物語の粗筋を読み取る。 場面の様子や登場人物の行動などについて想像を広げ読む。 紹介する本を選ぶ。 自分が選んだ本を最後まで読み通す。 友達に好きな本を紹介する。</p>	<p>道徳</p> <p>「ゆっきとやっち」 思いやり、協力、なかよしなど、主題に関連のある本を読む。</p>	<p>ハンス=ウィルヘルムの著書</p> <p>「ぼくたちまたなかよしさ！」 「そんなのするいよ！タイロン」 ハンス=ウィルヘルム/作 評論社</p> <p>動物と人間の交流に関連する図書</p> <p>「おふるだすき」 松岡享子/作 福音館書店 「ふとっちょローザ」ブロンズ新社 クリステル・デズモウノー/作 「ゆきのふるよる」 Nバドワーズ/作 金の星社 「ベルナとなみだのホットケーキ」 ぐんじなえ/作 ハート出版</p>	
12月	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書の選択 ひとり読み 音読 	<p>国語(ア)(カ)</p> <p>「あるけ あるけ」 いろいろな詩を楽しんで読む。 繰り返しの言葉、リズム、言葉の響きなどを考えながら声に出して読む。 いろいろな詩から、好きな詩を選ぶ。</p>		<p>詩集</p> <p>「元気がでる詩1年生」 青戸かいち他/著 理論社 「あいうえおにきり 大きな声で読む詩の絵本」ねじめ正一/作 偕成社 「キリンさん」まどみちお/作 小峰書店</p>
1月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> まとまり読み 	<p>国語(イ)</p> <p>「おみせやさんごっこをしよう」 お店屋さんごっこをするために必要なことについて、本文の大体を読む。</p>		<p>冬の遊び、お店遊びに関する図書</p> <p>「冬の遊び 年末・年始、3学期に役立つ遊びベストセレクション30」 こくらくとんぼクラブ/編 いかだ社 「1月のこども図鑑」フレーベル館</p>
2月	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ 図書の選択 ブックトーク ひとり読み 調べ読みの指導 図書や資料の利活用 考え読みの指導 まとまり読み 	<p>国語(ア)(イ)</p> <p>「どうぶつのおちゃん」 動物図鑑や動物に関する本を読む。 ライオンとしまつまのおちゃんの特徴やその違いなどを考えながら内容を読む。</p>	<p>図画工作</p> <p>「わくわくすいぞくかん」 海の生き物に関する本や図鑑を読み、イメージを広げ、形や色などの特徴を生かして工夫して作る。</p>	<p>動物や動物の親子に関する図書</p> <p>「どうぶつえんのどうぶつあんない」 木村しゅうじ/作 福音館書店 「どうぶつのおっぱい」わしおとしこ/作 「どうぶつのおしがたずかん」 加藤由子/文 岩崎書店 「親と子の写真絵本」全10巻 ポプラ社 「どうぶつのおやこ ライオン」他3巻 オナー・ヘッド/文 小峰書店</p> <p>海の生き物に関する図書</p>
3月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> まとまり読み 想像読み 楽しみ読みの指導 音読 読書集会の指導 表現 	<p>国語(イ)(ウ)(カ)</p> <p>「たぬきの糸車」 場面ごとに簡単な粗筋をつかんで読む。 場面を想像豊かに思い描いて読む。 速さや強さ、声の大きさに気をつけながら音読する。 紙芝居の発表会をする。</p>		<p>日本の民話</p> <p>「なしとりきょうだい」 神沢利子/作 ポプラ社 「だいくとおにろく」 松居直/再話 福音館書店 「からすじぞう」 たじまゆきひこ/作 くもん出版</p>
	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ 図書の選択 ブックトーク ひとり読み 通読 集団読書の指導 発表会 	<p>国語(ア)</p> <p>「この本おすすめします」 紹介する本を選ぶ。 自分が選んだ本を最後まで読み通す。 友達に好きな本を紹介する。 友達の紹介してくれた本に興味をもち読む。</p>		
	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせ 図書の選択 ブックトーク ひとり読み 通読 集団読書の指導 発表会 	<p>国語(ア)</p> <p>「本のコマースをしよう」 読書生活を振り返り、お勧めの本を自分の選んだ方法で分かりやすく紹介する。 友達の紹介してくれた本に興味をもち読む。</p>		
<p>他学年とのつながり</p>		<p>(ア) 読み聞かせは、上の学年でも興味関心を喚起し、読書に親しませる有効な手段となる。 (イ) 内容の大体をとらえ、時間的な順序に重点を置いた学習は、第3、4学年の内容の中心をとらえたり段落相互の関係を把握したりする学習と関連する。また「要点」の把握や「段落」意識の形成にもつながる。 (ウ) 登場人物の気持ちの読み取りは第5、6学年で重点指導する。</p>		

[付表1](2)第2学年 読書活動年間計画

月	指導方法	教科・道徳・特別活動	参考図書	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 考え読みの指導 想像読みの指導 楽しみ読みの指導 音読 	国語(ウ)(カ) 「ふきのとう」 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読む。 リズミカルな表現に気をつけて工夫して音読する。 (声の大きさ、読む速さなど)	図画工作 「こんな花があったら」 花々とかかかわりで驚いたり、発見したりしたことなどをもとに想像をふくらませる。 作品を見せ合い、花の物語を語ったり、友達の話の聞いたりする。	ふきのとうに関する図書 「ふきのとうみつけた」 高橋昭/作 岩崎書店 「ふきまんぷく」 田島征三/文 偕成社 植物の図鑑
5月	<ul style="list-style-type: none"> 調べ読みの指導 図書や資料の利活用 体験 考え読みの指導 まとまり読みの指導 楽しみ読みの指導 音読 集団読書の指導 発表会 	国語(ア)(イ)(カ) 「たんぼぼのちえ」 たんぼぼの不思議さ、おもしろさに興味・関心をもって観察したり、本で調べたりする。 叙述に即してたんぼぼの変化とその原因や理由など内容の大体を読む。 たんぼぼの知恵、知恵のわけを述べている文を読み分けるために、音読の仕方を工夫する。 絵本の発表会をする。	生活科 「ぼっけん、はっけん、町たんけん」 自分がこれまでに知っている家の近くの「おすすめ」「とっておき」を紹介する。 話し合いの中で自分が行ってみたい場所やもっと調べてみたいことなどを見つける。 調べてわかったことをまとめ、交流する。 ・近くの公共図書館について 体育 「花の一生」 グループで簡単なお話を作って踊る。 ・花を育てた経験や国語「たんぼぼのちえ」の学習を振り返り、いろいろな花の成長を思いおこす。	たんぼぼに関する図書 「たんぼぼ」 平山和子/文 福音館書店 「たんぼぼ」 甲斐 信枝/作 金の星社 「みぢかないのち」 生活科のほん 「7タンポポ」 河原 裕子/監 鈴木出版 「えほん・フォトかみしばい 6タンポポ」 清水 清/監 あかね書房 「タンポポ観察事典」 小田 英智/文 偕成社 「つよいぞ! セイヨウタンポポ」 おくやま ひさし/文 大日本図書
	<ul style="list-style-type: none"> 考え読みの指導 想像読みの指導 集団読書の指導 発表会 	国語(ウ) 「えんそくのパンフレットを作ろう」 写真や資料を利用して、遠足の様子を思い出す。 パンフレットの働きを知る。 遠足のパンフレットを作り、紹介し合う。		
6月	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 図書の選択 調べ読みの指導 見つけ読み 	国語(ア) 「ともこさんはどこかな」 絵本「ウォーリーをさがせ」を使って、人物探しゲームをする。		かくれんぼ絵本 「新ウォーリーをさがせ!」 フレーベル館 マーティン・ハンドフォード/作 「ミッケ!」 全8巻 ウォルター・ウィック/文 小学館
	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 読み聞かせ ブックトーク ひとり読み 通読 図書の選択 音読 学校図書館の仕組みと利活用 読書集会の指導 テーマ読み シリーズ読み 表現 集団読書の指導 発表会 考え読みの指導 想像読みの指導 	国語(ア)(ウ)(カ) 「スイミー」 レオ=レオニの本や他の絵本などを読む。 心に残った場面を絵や文章で表現する。 レオ=レオニの本や他の絵本などを紹介し合う。 役割読みをすることにより、音読を工夫する。 挿絵を参考にしながら、場面の様子を想像して読む。		レオ・レオニの作品 「さかなはさかな」 「おんがくねずみジェラルディン」 「ぼくのだ! わたしのよ!」 「コーネリアス」「フレデリック」 「うさぎをつくらう」「びっくりたまご」 「うさぎたちのにわ」「あいうえおのき」 「みどりのしっぽのねずみ」 「ここにいたい! あつちへいきたい!」 「じぶんだけのいる」「ベツツツティーノ」 「アレクサンダとぜんまいねずみ」 「スイミー」「ひとあしひとあし」 「せかいいいちおおきなうち」 レオニ、L.(レオ)/著 谷川俊太郎/訳 好学社 魚が登場する絵本 「にじいろのさかな」 「にじいろのさかなとおおくじら」 「こわくないよ にじいろのさかな」 マーカス・フィスター/作 谷川俊太郎/訳 講談社 「いっしょにいたらたのしいね」 パズ・ロディオ/文 評論社 魚に関する科学読み物 「ねてる、おきてる? うみって、ふしぎ」 ジャック・T.モイヤー/文 フレーベル館
7月	<ul style="list-style-type: none"> 調べ読みの指導 図書や資料の利活用 体験 集団読書の指導 発表会 楽しみ読みの指導 図書の選択 読み聞かせ ひとり読み ブックトーク 	国語(イ) 「生きものかんさつカード」 (生活科と関連づけて) 好きな動植物について観察したり、本で調べたりする。 わかったことや感じたことを文章にして発表し合う。	生活科 「生きものともだち」 飼育方法を図鑑などで調べたり、採集した場所を思いおこしたりする。	動物や植物に関する図書、図鑑 「ザリガニ」「アリ」「カブトムシ」 「ヒマワリ」「アサガオ」 七尾純/構成 国土社 「アブラゼミ」「カエル」「アカトンボ」 七尾純/構成 あかね書房
	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 読み聞かせ ブックトーク 図書の選択 音読 ひとり読み 	国語(ア)(カ) 「おおきなあれ」 詩に興味をもち、自分の好きな詩を見つけて読む。 連のまとまりや擬態語、擬声語などの響きが明瞭になるようにはっきりとした発音で音読する。		詩集 「サッチャー」 阪田寛夫/詩 国土社 「元気がでる詩2年生」 赤岡江里子/[ほか]著 理論社 「ぞうさん」 まどみちお/詩 国土社 「おこつてな」 渋谷清視/編 金の星社
9月	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 読み聞かせ ブックトーク ひとり読み 図書の選択 考え読みの指導 想像読みの指導 集団読書の指導 発表会 	国語(ア) 「あったらいいな、こんなもの」 「ドラえもん」の本やVTRなどを見て、秘密の道具について興味・関心をもつ。 あったらいいなと思うものをたくさん考えたり、集めたりして発表する。	道徳 「あき子さんのなつやすみ」 古くから用いられてきた風物詩の実物や写真などを見て、昔から伝わるものよさを感じる。	ドラえもんに関する図書 「ドラえもん」 全45巻 藤子・F・不二雄/作 小学館 「ドラえもん ひみつ道具大事典」 藤子・F・不二雄/監修 小学館
	<ul style="list-style-type: none"> 考え読みの指導 想像読みの指導 まとまり読みの指導 楽しみ読みの指導 音読 読み聞かせ 図書の選択 ブックトーク ひとり読み 通読 読書集会の指導 テーマ読書 集団読書の指導 発表会 	国語(ア)(イ) 「サンゴの海の生きものたち」 音読をするためにイメージを広げる。 説明の順序に気をつけて文章の大体の内容を読む。 かわかりあいを読み取るのに効果的な読み方を工夫する。 生き物についての読み物に興味をもち、読みたい本を探して読む。 自分が読んだ本の面白かったところや読んでほしいところについての紹介文を書き発表する。	道徳 「みどろが池のミズグモ」 ミズグモの水中での生活に興味をもち、自然を大切にしようとする意欲をもつ。 生活科 「町となかよし」 見つけたことを教え合う。 もっと詳しく知りたいことやものを見つける。 聞いたり、調べたりする。 調べてわかったことを本や絵地図にまとめる。 まとめたことを紹介する。	海の生き物に関する図書 「やどかりのいえさがし」 武田正倫/文 新日本出版社 「かがくたいすき イソギンチャクのちえ」 塚崎慎一郎/文・写真 大日本図書 「さんごしょうの生きもの」 ジェイン・パートン/写真 岩波書店

	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 読み聞かせ 図書の選択 ひとり読み 通読 考え読みの指導 想像読み 感想文の書き方調べ読みの指導 体験 読書集会の指導 表現 	<p>国語(ア)(ウ)</p> <p>「読書感想文を書こう」 学校図書館へ行き、興味のある本を様々な分類の中から選んで読む。 (昔話、童話、科学読み物など)</p> <p>一番心に残ったことを中心にして、自分の体験をまじえて感想を書く。 感想文の交流をする。</p>	<p>図画工作</p> <p>「おはなし大すき」 想像力を働かせ、お話の場面の情景を思い浮かべながら書く。</p> <hr/> <p>算数</p> <p>「たし算とひき算のひっ算」 教科書の挿絵から、お話作りをしてイメージ化を図る。</p>	<p>読書感想文に関する図書</p> <p>「考える読書 青少年読書感想文全国コンクール入選作品 第48回小学校低学年の部」 全国学校図書館協議会/編 毎日新聞社</p>
10月	<ul style="list-style-type: none"> 考え読みの指導 想像読み 楽しみ読みの指導 読み聞かせ 図書の選択 ブックトーク ひとり読み 音読 通読 集団読書の指導 発表会 読書集会の指導 シリーズ読み 	<p>国語(ア)(ウ)</p> <p>「お手紙」 場面の様子などについて想像しながら読む。 セリフの言い方を工夫し、紙人形劇発表会をする。 アーノルド＝ローベルの他の作品を面白さを味わいながら読む。 読んだ本の中から、一番心に残った本の紹介をする。</p>		<p>アーノルド＝ローベルの著書</p> <p>「とうさんおはなしして」 「ぼくのおじさん」 「ローベルおじさんのどうぶつものがたり」 「ふたりはきょうも」「きりぎりすくん」 「ふたりはいっしょ」「ふたりはともだち」 「ふたりはいっしょ」「おはなし ばんざい」 「ふくろうくん」 「やどなしねずみのマーサ」 アーノルド・ローベル/作 三木卓/訳 文化出版局</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 考え読みの指導 想像読み 集団読書の指導 話し合い 発表会 	<p>国語(ウ)</p> <p>「見たこと、かんじたこと」 題を隠した詩を読んで、題名当ての面白さを知る。 詩のどの言葉から題名を考えたのか話し合う。 詩を作り、互いに題名当てを楽しむ。</p>		<p>詩集</p> <p>「みえる詩あそぶ詩きこえる詩」 はせみつこ/編 富山房</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 読み聞かせ 図書の選択 ひとり読み 通読 音読 読書の記録 学校図書館のしくみとその利用 集団読書の指導 話し合い 発表会 考え読みの指導 想像読み 読書集会の指導 テーマ読み 	<p>国語(ア)</p> <p>「三まいのおふだ」 「こんなお話を考えた」 挿絵を見たり、読み聞かせを聞いたりして、お話の楽しさを味わう。 感想を話し合う。 いろいろな昔話を図書館などで読む。 「わたしのおすすめ昔話」を紹介し合う。 三枚の絵から、お話を想像し絵本作りする。 作った絵本を交流する。</p>		<p>日本の昔話</p> <p>「たのきゆう」川端誠/作 クレヨンハウス 「はなたれごろうさま」川崎大治/文 童話館出版 世界の昔話 「12つきのおくりもの」サムイル・マルシャーク/原作 フレーベル館 「きつねとうさぎ」ロシアの昔話 Y.ノルシュテイン/構成 福音館書店</p>
12月	<ul style="list-style-type: none"> 調べ読みの指導 見つけ読み 体験 考え読みの指導 まとめ読み 	<p>国語(イ)</p> <p>「うごくおもちゃを作る」 (生活科と関連づけて) おもちゃの作り方や遊び方の順序などを考えて、書かれている大体を読む。</p>	<p>生活科</p> <p>「ふゆだいすき、ふゆとあそぼう」 みんなで遊ぶと楽しいことに気づく。 遊んだことをあそびの紹介カードに書き、紹介し合う。</p>	<p>動くおもちゃに関する図書</p> <p>「動くおもちゃ工作 走る・まわる・とぶ・ころがる・とびだす・楽しい手作りおもちゃ大集合!」 多田千尋/著 池田書店</p>
1月	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 音読 読み聞かせ 図書の選択 ブックトーク ひとり読み 読書の記録 集団読書の指導 発表会 読書集会の指導 テーマ読み 	<p>国語(ア)(カ)</p> <p>「いるか」 「いるか」という言葉の意味を考えながら、詩を音読する。 いろいろな方法を使って、声の響きあいを楽しむ。・人数を変えて ・声の大きさ・読む速さ 言葉の使い方のおもしろい詩を見つけ、読み方を工夫して音読を楽しむ。 読んだ詩集や詩の題名、詩などをカードに記録する。 選んだ詩を紹介し合う。</p>		<p>詩集</p> <p>「ことばあそびうた」 「またまたことばあそび」 谷川俊太郎/作 福音館書店 「ことばあそび2年生」伊藤英治/編 理論社 「ちんぷいぷい ことばの宝箱」 川崎洋/編 岩崎書店</p>
2月	<ul style="list-style-type: none"> 考え読みの指導 まとめ読み 楽しみ読みの指導 図書の選択 集団読書の指導 発表会 読書集会の指導 テーマ読み 	<p>国語(ア)(イ)</p> <p>「ことばあそび大会」 「ことばあそび大会」について書かれている内容の大体を読んでいる。 「ことばあそび」の本を読み、いろいろな言葉遊びを集める。 「ことばあそび」を紹介し合い、みんなで楽しむ。</p>		<p>言葉遊びに関する図書</p> <p>「ことばあそび2年生」有馬敷/[ほか]著 「だじゃれはだれじゃ」 まどさんとさかたさんのことばあそび 2」 まどみちお/文 小峰書店</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 調べ読みの指導 見つけ読み 図書や資料の利活用 集団読書の指導 発表会 読書集会の指導 テーマ読み 	<p>国語(ア)</p> <p>「なかまのかん字」 仲間の漢字を集める。 文や絵などを加えた漢字新聞を作り紹介し合う。</p>		<p>漢字に関する図書</p> <p>「楽しく覚える漢字の本 2年生」 玉川学園/編 玉川大学出版部 「新・二年生のかん字」 友野一/著 さ・え・ら書房 「漢字のランドセル 2ねん」 清水真知子/文 らくだ出版</p>
3月	<ul style="list-style-type: none"> 考え読みの指導 まとめ読み 想像読み 楽しみ読みの指導 音読 	<p>国語(イ)(ウ)(カ)</p> <p>「スーホの白い馬」 場面の様子などについて、挿絵を手がかりに叙述に即して、内容の大体を読み取る。 場面の様子や登場人物について想像を広げながら読む。 あらすじをとらえ、自分の好きな場面を音読する。</p>	<p>道徳</p> <p>「ソルムンデばあさんのやくそく」 挿絵を見て、資料中の情景をイメージ豊かに想像しながら、登場人物の様子や気持ちを考える。</p>	<p>外国のお話(韓国・朝鮮の話を含む)</p> <p>「トッケピのこんぼう」 チョンチャジュン/文 平凡社 「イングナムのみみ」 ソジョンオ/文 古今社 「ソリちゃんのチュソク」 イオクベ/文 セラー出版 「こいぬのうんち」 クオンジョンセン/文 平凡社 「いしになったかりゅうど」 大塚勇三/再話 福音館書店</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみ読みの指導 読み聞かせ 図書の選択 ひとり読み 通読 集団読書の指導 発表会 読書集会の指導 表現 	<p>国語(ア)</p> <p>「本は友だち」 一年間の読書体験の中から友達に紹介したい本を選び、絵に表したり、実物を見せたりするなど工夫して紹介する。</p>		
他学年とのつながり	<p>(ア)読み聞かせは、上の学年でも興味関心を喚起し、読書に親しませる有効な手段となる。 (イ)内容の大体をとらえ、時間的な順序に重点を置いた学習は、第3,4学年の内容の中心をとらえたり段落相互の関係を把握したりする学習と関連する。また「要点」の把握や「段落」意識の形成にもつながる。 (ウ)登場人物の気持ちの読み取りは第5,6学年で重点指導する。</p>			

[付表1](3)第3学年 読書活動年間計画

月	指導方法	教科・道徳・特別活動	参考図書	
4月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像読み まとまり読み 楽しみ読みの指導 音読 図書の選択 読書の記録 ひとり読み 通読 ブックトーク 読み聞かせ 学校図書館のしくみとその利用 集団読書の指導 発表会 	<p>国語(ア)(イ)(ウ)(カ)</p> <p>「きつつきの商売」 「こんなことしたいな」 森や生き物の写真を見て、聞こえてくる音や動物の会話を想像する。 「きつつきの商売」を読み、登場人物や場面の様子を想像する。 きつつきや野うさぎの気持ちや、場面の情景を叙述に即して読み取る。 「おとやの音」を工夫する。 音読発表会をする。 学校図書館や地域の図書館で好きな本を選んで読む。 読書と記録の意味と方法を知る。</p>	<p>音楽</p> <p>「みんなで楽しく歌おう」 歌詞の表す情景を想像して歌う。</p>	<p>山や森の動物たちが登場人物になっている物語</p> <p>「トガリ山のぼうげん」シリーズ 全8巻 いわむらかずお/作 理論社 「ともだちや」シリーズ 全6巻 内田麟太郎/作 備成社 「わすれられないおくりもの」 スーザン・バーレイ/作 評論社 「ぞうのたまごのたまごやき」 寺村輝夫/作 福音館書店</p>
5月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> まとまり読み 楽しみ読みの指導 図書の選択 ブックトーク 読み聞かせ ひとり読み 通読 読書の記録 調べ読みの指導 図書や資料の利活用 集団読書の指導 発表会 話し合い 読書集会の指導 テーマ読み 	<p>国語(ア)(イ)(ウ)(エ)</p> <p>(オ)</p> <p>「ありの行列」 説明文の読み方について知る。 「疑問」「訳」「段落」などの基本の言葉が定着する。 叙述に即して読み、段落の要点をまとめる。 段落相互の関係や文章の中心をとらえて読む。 叙述に即して、書かれている内容を大まかに理解する。 段落ごとに小見出しをつけ、文章全体の構成をつかむ。 指示語や接続語の役割を理解する。 生き物のことや観察・実験したことを書いた本を探して読む。 グループの友達同士で紹介文を発表し合う。 一人ひとりの感じ方の違いに気づく。 集めた情報について、調べたことを工夫してまとめる。</p>	<p>理科</p> <p>「チョウをそだてよう」 チョウの一生に興味・関心をもち、成長の様子を調べようとする。 「こん虫をしらべよう」 昆虫の成長の変化や餌について調べる。 「植物を育てよう(1)たねまき」 オクラやホウセンカなどの植物についてその様子や育て方について調べる。</p> <p>道徳</p> <p>「ぼたんの川」 ぼたんの生感について調べる。 自然の素晴らしさに感動し、自然環境や生き物を大切にしようとする由美子の気持ちに気づく。</p>	<p>生き物や植物、実験・観察などに関する図書</p> <p>「ありのごちそう」 高家博成/文 新日本出版社 「クロサアリのひみつ」行列するのはなぜ?」 山口進/写真・文 アリス館 「ドキドキいっばい! 虫のくらし写真館」 5 アリ」 高家博成/監 ポプラ社 「科学のアルバム」虫編 アリの世界」 栗林慧/著 あかね書房 「アリに知恵はあるか?」 石井象二郎/文 備成社</p>
	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語辞典の使い方 	<p>国語(ア)</p> <p>「国語辞典たんけん」 国語辞典の使い方について知る。 言葉の配列について知る。 五十音順の配列、濁音、半濁音、拗音、促音などの配列を理解する。 言い切りの形が見出し語になることを理解する。</p>	<p>国語辞典</p>	
	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書や資料の利活用 体験 	<p>国語(工)(オ)</p> <p>「知っている場所を教えます」 取材した物の中から、知らせるために必要な情報や資料を選んで読む。 絵や図、写真などの入ったガイドブックなどを読み、そのよさについて話し合う。</p>	<p>社会</p> <p>「京都のまちのようす」 京都の他の町の様子や土地の使われ方に関心をもち、自分たちの暮らす学区の様子と比べながら調べる。</p> <p>道徳</p> <p>「動くはく物かん(時代祭り)」 地域の行事や祭り、自然の様子がわかる写真などから、地域の良さについて気づき、郷土を大切にしようとする心情を育てる。 「高せ川よえい遠に」 郷土の生活に親しみ、自分たちの町を大切にしようとする心情を育てる。</p>	<p>ガイドブックパンフレットなど</p>
6月	<p>集団読書の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い 考え読みの指導 想像読み 楽しみ読みの指導 図書の選択 ブックトーク 読み聞かせ ひとり読み 通読 学校図書館のしくみとその利用 読書集会の指導 シリーズ読み テーマ読み 表現 集団読書の指導 発表会 	<p>国語(ア)(ウ)(エ)</p> <p>(工)</p> <p>「三年とうけ」 今までに読んだ外国の本について、おもしいかった、楽しかった自分の読書経験を発表し合う。 挿絵を参考に、場面ごとの情景を思い浮かべながら想像豊かに読む。 自分と友達の思いを比べながら聞き、いろいろなおもしきさがあることに気づく。 学校図書館や地域の図書館で、いろいろな国や地域のお話を調べる。 読んだ本に引き続き、関連した読み物を読み進める。 本で読んでわかったことや感じたことを読書カードに書く。 本の帯の役割を知り、工夫して作る。 本の帯を使って、本の紹介をし合う。</p>	<p>道徳</p> <p>「わらってごめん」 日本の学校と外国の学校との違いを知り、互いの違いを認め合う。</p> <p>「マダン」 韓国・朝鮮などの外国の人々や文化に親しむ。</p>	<p>韓国・朝鮮に関連する図書</p> <p>「君にもできる国際交流 韓国」 こどもくらぶ/編・著 備成社 「へらなひ稲たば」李錦玉/作 岩崎書店 「だまされたトッケビ」 神谷丹路/編 福音館書店 「トッケビのこんぼう」 チョンチャジュン/文 平凡社 「ウサギとカメ」 「牛になつ寝太郎」 「ノルブとフン」 田島伸二/文 汐文社 「韓国・朝鮮と出会う」 納村公子/編 国土社 世界のお話・民話 「つるになった少年」 (世界の民族絵本集)河出書房新社 アローン・レイモンド・ミークス/文 「世界のはじまり」 メイヨー/再話 岩波書店 「きつねのホイティ」 シビル・ウェットマン/作 福音館書店 「大どろぼうホツツェンプロッツ」 シリーズ全3巻 「オトフリートープロイスラー/作 備成社 「みんなのペロニカ」 ロジャー・デュボアザン/作 童話館 「エルマーのぼうげん」 ルース・スタイルス・ガネット/作 福音館書店</p>
9月	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読 図書の選択 読み聞かせ 学校図書館のしくみとその利用 考え読みの指導 想像読み 読書集会の指導 テーマ読み シリーズ読み 	<p>国語(ア)(カ)</p> <p>「わたしと小鳥とすずと」 詩の内容や場面の様子が表れるように、情景を想像しながら工夫して音読する。 「金子みすゞ」の詩を集めて、みんなて読み合う。 学校図書館や公共図書館でいろいろな詩を収集して読む。</p>	<p>金子みすゞの詩集</p> <p>「金子みすゞをうたう みんなを好きになりたいな」 吉岡しげ美/著クレヨンハウス 「おひさん、あめさん」「なしのしん」 「ほしとたんぼぼ」矢崎節夫/選 JULA出版局 「ふうちゃん」の詩」 金子みすゞ/詩 JULA出版局 その他の詩集 「詩はつちゅう 3年」 工藤直子ほか/著 ポプラ社 「みんなて読む詩・ひとりて読む詩」全6巻 小海永二/編 ポプラ社</p>	
	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語辞典の使い方 漢字辞典の使い方 	<p>国語(ア)</p> <p>「漢字クイズ[二年生の漢字]」 教科書以外の漢字を漢字辞典などで調べ、クイズを作る。 同じ漢字でもいくつかの意味を表すことがあることを理解し、国語辞典を使って調べる。</p>	<p>国語辞典 漢字辞典</p>	
10月	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけ読み 図書や資料の利活用 集団読書の指導 話し合い 	<p>国語(オ)</p> <p>「みんな、子どもだった」 インタビューの手順について読む。 昔の遊びについて知りたい事を決め、いろいろな方法で調べる。 昔の遊び発表会を開き、感想を話し合う。</p>	<p>社会</p> <p>「わたしたちのくらしとはたらく人々」 スーパーマーケットを見学しているような方法で調べる。</p>	<p>昔の遊びに関する図書</p> <p>「日本の生活100年の記録」 3 こどもの生活の100年」 佐藤能丸/監 ポプラ社 「ゲーム大百科6 にこにこ伝承あそび101」 子どもの遊び研究会/編ポプラ社</p>

10月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像読み ・まとまり読み ・感想文の書き方 ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集会の指導 ・表現 ・楽しみ読みの指導 ・図書の見つけ方 ・ひとり読み ・通読 ・読書の記録 	<p>国語(工)</p> <p>「読書感想文を書こう」</p> <p>読んだ本の中から心に残った言葉や場面を見つけ、自分の思いをもつ。まとまりを考えて感想文を書く。感想文を交流する。</p>	<p>図画工作</p> <p>「ねん土でお話」</p> <p>自分のつくりたい主人公や動物の登場するお話を想像し、粘土でつくってみたい場面を考える。</p>	<p>読書感想文に関する図書</p> <p>「考える読書 青少年読書感想文 全国コンクール入選作品 第46回小学校中学年の部」 全国学校図書館協議会/編 毎日新聞社</p> <p>「読書感想文の書き方おしえてよ 3・4年」 野上眞行/著 KTC中央出版</p>
	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまり読み ・想像読み ・楽しみ読みの指導 ・音読 ・図書の見つけ方 ・ブックトーク ・読み聞かせ ・ひとり読み ・通読 ・読書の記録 ・読書集会の指導 ・テーマ読み ・表現 	<p>国語(ア)(イ)(ウ)(カ)</p> <p>「ちいちゃんのかげおくり」</p> <p>叙述に即して読み、場面ごとに小見出しを作り、粗筋をまとめる。会話文や挿絵を手がかりに登場人物の様子や気持ちを想像豊かに読む。心に残った場面を選び、読み方を工夫して音読する。戦争や平和について書かれた物語を読む。読書カードに記録し、友達に紹介する。地域の人に物語を紹介する。また戦争のことについて教えてもらう。</p>	<p>道徳</p> <p>「明かりが見えた」</p> <p>命を大切に生きていこうとする思いをもつ。</p>	<p>戦争に関連する図書</p> <p>「おかあさんの紙びな」 長崎源之助/作 岩崎書店</p> <p>「かわいそうなぞう」 土家由岐雄/作 金の星社</p> <p>「わたしのヒロシマ」 森本順子/作 金の星社</p> <p>「ななしのごんべん」 田島征彦/作 吉村敬子/童心社</p> <p>「ひろしまのピカ」 丸木俊/え・文 小峰書店</p> <p>「おはじきの木」 あまみきみこ/作 あかね書房</p> <p>「まっ黒なおべんとう」 児玉辰春/作 新日本出版社</p>
11月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまり読み ・想像読み ・調べ読みの指導 ・図書や資料の活用 ・見つけ読み ・楽しみ読みの指導 ・音読 ・ブックトーク ・読み聞かせ ・読書集会の指導 ・表現 ・集団読書の指導 ・発表会 ・話し合い 	<p>国語(ア)(イ)(エ)(オ)</p> <p>「動物とくらす」</p> <p>「パンフレットを作ろう」</p> <p>題名やリード文を読み、自分が動物とかかわった経験と重ねて感想をもつ。教材文を通読し、全体の大きな構成と内容をとらえる。筆者が言いたかったことを考える。パンフレットのよさやわかりやすさを知る。目的に合った資料の探し方やメモの作り方を理解する。学校図書館や地域の図書館へ行き、テーマに沿って情報を集め、整理する。目的に応じ、大切なところの細部に注意して読む。パンフレットを作る。パンフレットを掲示し、感想を交流する。</p>	<p>道徳</p> <p>「わたしの花」</p> <p>植物や生き物の世話をすることで心が明るくなったり、人の心がいやされたりすることに気づく。</p> <p>社会</p> <p>「工場で作られるもの」</p> <p>見学を効果的に進めるために、関連した資料の収集をする。京都の工場について、いろいろな資料を使って調べる。</p> <p>算数</p> <p>「表とグラフ」</p> <p>目的に合わせて資料を集め、進んで表やグラフに表して、結果を分析しようとする。</p>	<p>動物と人間に関連する図書</p> <p>「介助犬ターシャ」 大塚敦子/写真・文 小学館</p> <p>「スマッジがいるから」 ナム・グレゴリー/作 あかね書房</p> <p>「ぼく、目が見えなくても富士山を撮る」 伊志井桃香/著 ポプラ社</p> <p>「盲導犬ミントの子守歌」 星野有史/著 ポプラ社</p> <p>「ニュースアプーン」 物語」 福田秀和/著ポプラ社</p> <p>「イルカにあいたい」 こやま峰子/文 国土社</p>
	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典の使い方 ・漢字辞典の使い方 ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集会の指導 ・表現 ・テーマ読み 	<p>国語(ア)</p> <p>「へんとつくり」</p> <p>いろいろなへんについて知り、それぞれの漢字に共通した意味があることに気づく。漢字に関する本、国語辞典、漢字辞典などの資料に興味をもち、活用する。へんやつくりについて学習して、興味をもったことや調べたことを新聞やクイズにしてまとめ、交流する。</p>		<p>国語辞典</p> <p>漢字に関する図書</p> <p>「絵でおぼえる漢字の本3年生」 石井照/監ポプラ社</p>
1月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像読み ・楽しみ読みの指導 ・音読 ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集会の指導 ・表現 ・集団読書の指導 ・テーマ読書 	<p>国語(ウ)(カ)</p> <p>「りん りん」</p> <p>叙述をもとに情景を想像しながら読む。詩に対して自分の思いが深まるように音読を工夫する。音読発表会をする。</p>	<p>音楽</p> <p>「曲の感じを生かして表現しよう」</p> <p>情景を想像しながら、曲想を感じ取って歌詞唱する。</p>	<p>詩集</p> <p>「見える詩 あそび詩 きこえる詩」 はせみつこ/編 富山房</p> <p>「ことばあそび3年生」 伊藤英治/編 理論社</p> <p>「てつがくのライオン」 工藤直子/著 理論社</p> <p>「たいようのおなら」 灰谷健次郎/編 のら書店</p>
	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像読み ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集会の指導 ・表現 	<p>国語(ウ)</p> <p>「たから物をさがしに」</p> <p>宝島の地図を見て想像したことを話し合い、物語を作る。できた物語を互いに読み合う。</p>		<p>冒険物語</p> <p>「エルマーのぼうげん」</p> <p>「エルマーと16びきのりゅう」</p> <p>「エルマーとりゅう」 ルース・スタイルス・ガネット/作 福音館書店</p>
	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典の使い方 	<p>国語(ア)</p> <p>「漢字の意味」</p> <p>同じ漢字でもいくつかの意味を表すことがあることを理解し、国語辞典を使ってその例を調べる。</p>		<p>国語辞典</p>
	<p>集団読書の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い ・発表会 ・考え読みの指導 ・まとまり読み ・調べ読みの指導 ・見つけ読み ・体験 ・図書や資料の活用 ・楽しみ読みの指導 ・図書の見つけ方 	<p>国語(イ)</p> <p>「標識と言葉」</p> <p>図鑑や写真集を参考にしながら、標識の役割について話し合う。中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む。標識が使われるようになった背景を知り、標識のもつ意味について考える。発表会を開き、感想や意見を交流する。</p>	<p>社会</p> <p>「地いきや生活のうづりかわり」</p> <p>昔の道具の使い方について調べ、発表する。</p>	<p>標識に関する図書</p> <p>「マークのずかん」 鈴木出版企画室/編 すずき出版</p> <p>「マーク標識カード」</p> <p>「マーク標識カード2集」 くもん出版</p> <p>「ひょうしき・マークのえほん」 清原一秀/絵講談社</p>
3月	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書や資料の活用 ・楽しみ読みの指導 ・図書の見つけ方 	<p>国語(オ)</p> <p>「言葉のいろいろ」</p> <p>言葉には、動きや様子、気持ちを表すものがあることを知り、言葉集めをする。</p>		<p>言葉に関する図書</p> <p>「言葉図鑑」全10巻 五味太郎/監 偕成社</p>
	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像読み ・集団読書の指導 ・発表会 ・話し合い ・読書集会の指導 ・表現 	<p>国語(ウ)(カ)</p> <p>「モチモチの木」</p> <p>場面の移り変わりや状況を叙述をもとに想像しながら読む。学習したことをいろいろな方法でまとめ、発表する。</p>		<p>斉藤隆介の著書</p> <p>「半日村」「ソメコとオニ」「ひさの星」「花さき山」 岩崎書店</p> <p>「八郎」 福音館書店</p>
	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとまり読み ・想像読み ・集団読書の指導 ・発表会 ・話し合い ・読書集会の指導 ・表現 	<p>国語(イ)(ウ)</p> <p>「虫のゆりかご」</p> <p>叙述に即して、文章の中心になる語や文をとらえて、段落相互の関係を考えながら正しく読む。場面の移り変わりや状況を叙述をもとに想像しながら読む。学習したことをいろいろな方法でまとめ、発表する。</p>		<p>オトシブミに関する図書</p> <p>「オトシブミ観察事典」 桜井一彦/文 偕成社</p> <p>「知ってるようで知らない近所の虫 子ども昆虫記、沢口たまみ/著 学研</p> <p>「虫のいる場所図鑑4」 海野和男/写真・文 草土文化</p> <p>「ファール昆虫記」 ファール/原作 古川晴男/文 世界文化社</p>
<p>他学年とのつながり</p>		<p>(ア)1,2年では、読書経験を踏まえて、たくさんのお話を読むこと。3,4年では、読書の量的な向上と、読書の分野を広げること。</p> <p>(イ)1,2年では、順序という視点で文章全体を捉えてきた。3,4年では、部分をもとめ、つなげ、比べることなどを通して、全体構造をよく理解することが要求される。</p> <p>(ウ)1,2年では、「想像を広げ」てきた。3,4年では、叙述に即して読むことを大切にする。</p> <p>(カ)1,2年同様、理解を主たる目的とする。登場人物の気持ちの読み取りは、5,6年で重点的に指導する。</p>		

[付表1](4)第4学年 読書活動年間計画

月	指導方法	教科・道徳・特別活動	参考図書	
4月	調べ読みの指導 ・図書や資料の利活用 ・見つけ読み ・考え読みの指導 ・想像読み ・楽しみ読みの指導 ・音読 ・ブックトーク ・通読 ・ひとり読み ・図書の選択 ・学校図書館のしくみとその利用 ・読書の記録 ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集会の指導 ・テーマ読み	国語(ア)(ウ)(エ)(カ) 「三つのお願い」 「こんなこと、したいな」 世界の同年代の子どもの様子を調べ、発表する。 「三つのお願い」とは何か、意識しながら読む。 会話文を中心に「三つのお願い」が実現したときの様子を想像しながら読む。 好きな場面を選び、場面の様子がわかるように音読する。 図書館にはいろいろな読み物があることを知り、物語、詩、自然を観察した読み物など、様々な分野の本を読む。 (通年)	道徳 「十さいのプレゼント」 読書指導などを活用して、ひたむきな愛や真摯な努力にかかわる話、時間を超越し自然と一体となって暮らす遊牧民の話などを读んだり、聞いたりする。	世界の子どもの様子や友情をテーマにした図書 「アディオスばくらの友だち」上条さなえ/作 学習研究社 「つりばしわたれ」長崎源之助/作 岩崎書店 「世界の子どもたちはいま」第1,2,3期 全24巻 学研 「世界の子どもたち」全34巻 偕成社
5月	考え読みの指導 ・想像読み ・楽しみ読みの読書 ・音読 ・読み聞かせ ・ブックトーク ・図書の選択 ・学校図書館のしくみとその利用 ・読書の記録	国語(ア)(ウ)(カ) 「春のうた」 描かれた情景や心情を味わう。 情景や心情が表れるように、言葉のリズムを生かして音読する。 いろいろな詩集を読んで好きな詩を選ぶ。	道徳 「伏見人形」 伏見人形の写真や実物などを見て、感じたことを話し合う。 京都の伝統あるものを守り、育てていくためにはどんなことができるか話し合う。	詩集 「うたにあわせてあいいうお」 工藤直子/著 岩崎書店 「しゃっくりうた」まどみちお/作 理論社 「元気がでる詩4年生」 池田夏子/[ほか]著 理論社詩集
	調べ読みの指導 ・見つけ読み ・体験 ・考え読みの指導 ・まとめ読み	国語(イ)(オ) 「ツバメがすむ町」 文章全体の組み立てについて考える。 筆者の疑問、調査方法、結果、考察など事柄ごとに整理しながら読む。 文章全体の要旨をまとめる。 フィールドワークをする。	道徳 「伏見人形」 伏見人形の写真や実物などを見て、感じたことを話し合う。 京都の伝統あるものを守り、育てていくためにはどんなことができるか話し合う。	同じテーマの科学読み物 森の新聞13「ツバメの街」 川道美枝子/作 フレーベル館 「ツバメのくらし」科学のアルバム 37 菅原光二/著 あかね書房
	調べ読みの指導 ・漢字辞典の使い方	国語(言語事項) 「漢字辞典の使い方」 漢字辞典の使い方を理解し、その便利さとおもしろさに気づく。 ・「音訓引き」「部首別引き」の引き方を理解する。 熟語について理解し、漢字辞典を使って熟語とその意味を調べる。		漢字辞典 熟語に関する図書 「クイズ漢字熟語 まんがで学習」 草野公平/作 あかね書房 「漢字なんでも大研究」全10巻 海城 文也 他 ポプラ社 「おもしろ熟語話」全5巻 木暮正夫/文 岩崎書店
6月	調べ読みの指導 ・図書や資料の利活用(新聞) ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集会の指導 ・表現	国語(エ) 「新聞記者になろう」 いろいろな新聞の内容について調べる。 新聞記事の書き方や写真、絵の使い方がわかる。 新聞を発行し、交流する。		新聞に関連する図書 「社会科資料のよみ方・つくり方」全7巻 次山信男/監 ポプラ社
	調べ読みの指導 ・漢字辞典の使い方	国語(言語事項) 「漢字の組み立て」 漢字の「へん、つくり、かんむり、あし、によつ、たれ、かまえ」などの種類分けを知る。 漢字の組み立てに興味をもち、漢字辞典を利用して調べる。		漢字の組み立てに関する図書 「漢字なんでも大研究」全10巻 海城 文也 他 /著 ポプラ社
	考え読みの指導 ・想像読み ・楽しみ読みの指導 ・ブックトーク ・図書の選択 ・読み聞かせ	国語(イ)(ウ) 「無人島でくらすとしたら」 地図や、冒険物語、写真集を見て想像をふくらませて話し合う。		冒険に関する図書、地図、写真集 「十五少年漂流記」ベルヌ/作 ポプラ社
7月	集団読書の指導 ・話し合い ・考え読みの指導 ・想像読み ・まとめ読み ・楽しみ読みの指導 ・図書も選択 ・読書の記録 ・通読 ・ひとり読み ・集団読書の指導 ・シリーズ読み ・調べ読みの指導 ・見つけ読み	国語(ア)(イ)(ウ)(エ) 「白いぼうし」 全文を読み、感想について話し合う。 情景や様子を叙述をもとに想像しながら読む。 挿絵を利用して、叙述に基づき、粗筋をとらえる。 自分の読書計画を立てる。 シリーズの中から作品を選んで、課題に沿って読み比べる。 ・登場人物について ・表現について		同じ作者の作品 「車のいろは空のいろ」全3巻 あまみきみこ/作 ポプラ社 「雲のピアノ」あまみきみこ/作 講談社 「だあれもいない?」 あまみきみこ/作 講談社
	楽しみ読みの指導 ・学校図書館のしくみとその利用 ・図書の選択 ・ひとり読み ・通読 ・集団読書の指導 ・テーマ読み ・シリーズ読み	国語(ア) 「本のさがし方」 学校図書館や地域の図書館で本の探し方や利用法について知る。 図書館の工夫について気づく。 テーマを決めて読書をする。 いろいろなシリーズの作品を読む。	道徳 「メルヘンを二人の手で」 日本や世界の昔話や民話に進んで読みたい、調べてみたいという意欲や愛情をもつ。 「なしの実」 『昆虫記』を書いたアンリ・ファーブルについて発表する。	色々な物語シリーズ 「カエルの田んぼ」 森の新聞シリーズ 全20巻 長谷川雅美/作 フレーベル館 「あらしのよるに」シリーズ 全6巻 木村裕一/作 講談社 「黒ねこサンゴロウ1旅のはじまり」全10巻 竹下文子/作 偕成社 「クラマ博士のなぜ」山中恒/作 理論社 ファーブルに関する図書 「ファーブル昆虫記の虫たち」全4巻 熊田千佳慕/絵・文 小学館 「子どもの伝記19ファーブル」 砂田弘/文 ポプラ社
	考え読みの指導 ・まとめ読み ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集会の指導 ・表現	国語(エ)(オ) 「ポスターをかくて作品を紹介しよう」 作品の内容を大きくまとめたり、細部に注意して読んだりする。 ポスターをかくて作品を紹介する。 読書発表会をする。	理科 「星や月(1)」 星について興味・関心をもったことについて調べる。	くらしと水に関する図書 「くらしと水」 自分たちのくらしと水について、調べたことをポスターや新聞にまとめる。
9月	考え読みの指導 ・想像読み ・楽しみ読みの指導 ・音読 ・図書の選択 ・集団読書の指導 ・発表会 ・読書集気合の指導 ・テーマ読書	国語(ア)(ウ)(カ) 「アサガオ」 叙述をもとに想像しながら読む。 書かれている内容がよく分かるように言葉に着目して音読する。 好きな詩を選び、紹介し合う。		詩集 「メロンのじかん」まどみちお/著 理論社 「まど・みちお全詩集」 まどみちお/著 理論社 「しかられた神さま 川崎洋少年詩集」 川崎洋/著 理論社 「鈴の鳴る道」星野富弘/著 偕成社
	考え読みの指導 ・感想文の書き方 ・集団読書の指導 ・発表会	国語(ア)(エ) 「読書感想文を書こう」 読んだ本の中から心に残っている本を選ぶ。 書きたいことによって、段落分けをする。 感動の中心を大切に、感想文を書く。 作品を発表し合う。	道徳 「満員電車」 思いやりや親切な行動に関する新聞記事や書物に関心をもつ。	読書感想文に関する図書 「考える読書 青少年読書感想文 全国コンクール入選作品第46回小学校 中学年の部」 全国学校図書館協議会/編 毎日新聞社 「読書感想文の書き方おしえてよ 3・4年」 野上貞行/著 KTC中央出版
10月				

10月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 想像読み 調べ読みの指導 図書や資料の利活用 楽しみ読みの指導 図書の選択 集団読書の指導 話し合い 発表 読書集の指導 テーマ読み 	<p>国語(ウ)(工)(オ)</p> <p>「一つの花」 場面の移り変わりや情景を叙述をもとに想像しながら読む。 全文を読み、感想を交流する。 戦争中の暮らしについて調べ、わかったことや感想を文章にまとめる。 戦争中のことを書いた物語 戦争中の生活についての資料など調べたことや考えたことをまとめ、交流する。</p>	<p>道徳</p> <p>「つるのとぶ日」 原爆や戦争時の広島について、資料の状況を理解することができるようしておく。 「秋の川辺で」 身近な自然の中で感動したことを発表する。</p> <p>図画工作</p> <p>「主人公になって」 物語を聞いて、想像を広げ、物語の世界を十分に楽しむ。 作品を鑑賞し合い、自分や友達の表現のよさや違いに気づく。</p>	<p>戦争を扱った図書</p> <p>「おかあさんの木」 大川悦生/作 ポプラ社 「まちゃんと」 松谷みよ子/作 偕成社 「つるの花」 今西祐行/作 ポプラ社 「チロヌップのきつね」 「チロヌップのじい」 たかはしひろゆき/作 金の星社 「お母ちゃんお母ちゃんむかえにきて」 奥田継夫/作 小峰書店 「おきなわ島のこえ」 丸木俊/作 小峰書店</p>
	<p>調べ学習の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書や資料の利活用 	<p>国語(書くこと)</p> <p>「グラフをもとに」 グラフなどの資料の内容をもとに読み取ったことを整理して文章にまとめる。 グラフの読み取り方がわかる。</p>	<p>算数(7月)</p> <p>「折れ線グラフ」 身のまわりにあるいろいろな折れ線グラフをよむ。</p> <p>社会(7月)</p> <p>「くらしと水」 京都市の給水人口や給水量、使い道などをグラフから調べる。</p> <p>理科(7月)</p> <p>「季節と生きもの(夏)」 栽培している植物の草丈を二週間ごとに記録し、グラフに表す。 「自由研究」 自由研究のテーマを考え、そのテーマにそって本を読んだり、調べたりする。</p>	<p>グラフの利用に関する図書</p> <p>「社会科資料のよみ方・つくり方」 1 関山信男/監 ぽプラ社 「くらしをまもる くらしをささえる」 20 図書館 秋山滋/文 岩崎書店</p>
11月	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめ読み 見つけ読み 調べ読みの指導 図書や資料の利活用 集団読書の指導 発表会 	<p>国語(オ)</p> <p>「体を守る仕組み」 「これが『わたし』です」 目的に応じて内容を大きくまとめたり、細かいところを注意して読んだりする。 接続語の働きに気をつけて、文章の組み立てを考え、筆者の思いや考えをとらえる。 「体を守る仕組み」について、もっと知りたいことや疑問に思ったことを調べる。 図書館などで資料を探し、必要な部分を書き写す。 わかりやすいまとめ方を考え、自分の考えと引用部分のはっきりとわかるように書いて発表する。</p>	<p>体育 保健</p> <p>「育ちゆく体とわたし」 体の発育・発達について、進んで課題を見つけたら、調べたり、わかったことを発表したり、友達の発表を聞いたりする。</p>	<p>体に関する図書</p> <p>「びょうきのほん」 1-3 「きゆうきゆうぼこ」 山田真/文 福音館書店 「ひとのからだ」 毛利子采/作 岩崎書店 「フハ先生のからだの話」 山田真/作 フレーベル館 「生きているわたし-体と心」全10巻 齋藤昌 他/著 文研出版 「からだと病気のほん 9」 鈴木喜代春 他/著 岩崎書店</p>
	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語辞典の使い方 	<p>国語(言語事項)</p> <p>「熟語の意味」 二字熟語を集め、その意味を調べる。</p>		国語辞典
12月	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語辞典の使い方 	<p>国語(言語事項)</p> <p>「いろいろな意味をもつ言葉」 国語辞典を使って、いろいろな意味をもつ言葉を調べる。</p>		国語辞典
	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読 	<p>国語(書くこと)</p> <p>「つぶやきを言葉に」 いろいろな児童詩を読み、好きな詩を選び、音読する。</p>		児童詩集
2月	<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語辞典の使い方 漢字辞典の使い方 	<p>国語(言語事項)</p> <p>「まちがいやすい漢字」 漢字や熟語には読み方が同じでもそれぞれもつ意味の違いがあることを理解する。 同訓の語について知り、国語辞典や漢字辞典で調べる。</p>		国語辞典、漢字辞典
	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめ読み 調べ読みの指導 図書や資料の利活用 	<p>国語(イ)(オ)</p> <p>「手と心で読む」 段落相互の関係を押さえて文章を正しく読む。 点字の歴史やしくみについて知る。</p>	<p>道徳</p> <p>「ラモン君」 目が不自由な人を見た時のラモン君の気持ち、目が不自由な人の手を引いているラモン君を見ていた人たちの気持ちなどを考える。 「笑顔」 相手に対する思いやりの心とともに、相手の立場にたって考えることの大切さについて考える。</p>	<p>点字に関連する図書</p> <p>「点字のれきし」 「点字・はじめの歩」 「点字について話そう」 黒崎恵津子/作 汐文社 「ボランティアに役立つはじめてであう」 点字 4 黒崎恵津子/作 岩崎書店 「これだけ点字 さわってわかるてんじのふしぎ」 これだけはおぼえておきたいな」 「点字であそぼう」 田中ひろし/著 同友館 「点字どうぶつえん」 菊地清/絵 同友館 「ゆかいなどうぶつ」 さわってあそぶ絵あわせカード」 川添泰宏/著 福音館書店</p>
<p>調べ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験 図書や資料の利活用 集団読書の指導 発表会 話し合い 	<p>国語(ア)</p> <p>「『伝え合い』を考える会を開こう」 学習した内容から、テーマに沿って調べたり、体験したりしたことをまとめ、交流する。</p>			
3月	<p>楽しみ読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書の選択 ブックトーク 読み聞かせ 通読 音読 調べ読みの指導 情報や資料の利活用 読書集の指導 表現 集団読書の指導 表現 シリーズ読み テーマ読み 	<p>国語(ア)(工)(カ)</p> <p>「ごんぎつね」 同じ作者の本や動物と人間との交流について書かれた本など、いろいろな読み物に興味をもって読む。 読み取ったことや調べたことをいろいろな方法でまとめ、発表する。 書かれている内容がよくわかるように音読する。</p>	<p>道徳</p> <p>「ヒキガエルとロバ」 身近な動植物にやさしく接し、生命のあるものすべてを慈しむ心を育てる。 ・読書指導などを通して、ビクトル・ユーゴの作品や自然愛護、動植物愛護にかかわる図書を読む。 「もどらない本」 自分でやるべきことに責任をもって行動しようとする態度を養う。 ・学校の図書館や学級文庫の貸出の様子を把握する。</p>	<p>キツネを扱った図書</p> <p>「キツネ山の夏休み」 富安陽子/著 あかね書房 「きつねものがたり」 ヨゼフ・ラダ/作 福音館書店 「目をつぶれば、きつねの世界」 津島節子/作 学習研究社 「ずっとなかよし」 サリー・グリンドリー/作 文溪堂 「ひろったらっぱ」 「木の祭り」 「里の春、山の春」 「うまやのそばのなたね」 新美南吉/作 ちっけい教育出版社 「でんでんむしのかなしみ」 「おじいさんのランプ」 「あかいろうそく」 新美南吉/作 大日本図書</p>
	<p>考え読みの指導</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめ読み 想像読み 楽しみ読みの指導 図書の選択 ブックトーク 読み聞かせ 通読 	<p>国語(ア)(イ)(ウ)</p> <p>「動く絵の不思議」 文章の中心となる語や文をとらえて、段落相互の関係を考え、読む。 叙述に即して場面や様子を想像する。 今までに読んでいた本とは違ったジャンルの本を読む。</p>		<p>同じテーマの図書</p> <p>「はくにも作れるアニメーション」 やべみつひ/作 童心社 「あれ!あれ!目のさかく?」 出沢正徳/作 岩波書店 「だまし絵であそぼう」 杉原厚吉/作 岩波書店</p>
<p>他学年とのつながり</p>		<p>(ア) 1, 2年では、読書経験を踏まえて、たくさんのお話を読むこと。 3, 4年では、読書の量的な向上と、読書分野を広げること。 (イ) 1, 2年では、順序という視点で文章全体を捉えてきた。 3, 4年では、部分をまとめ、つなげ、比べることなどを通して、全体構造をよく理解することが要求される。 (ウ) 1, 2年では、「想像を広げ」てきた。 3, 4年では、叙述に即して読むことを大切にする。 (カ) 1, 2年同様、理解を主たる目的とする。 登場人物の気持ちの読み取りは、5, 6年で重点的に指導する。</p>		

[付表1](5) 第5学年 読書活動年間計画

月	指導方法	教科・道徳・特別活動	参考図書	
4月	集団読書の指導 ・話し合い ・考え読みの指導 ・想像読み	国語(ウ)(エ) 「新しい友達」 「写真を見て話し合い、自分の考えを発表する。」 「新しい友達」を見て、「新しい」という言葉のイメージを話す。 「新しい友達」を読み、登場人物の気持ちや考えを交流する。 作者の伝えたいことについて意見を交流する。	算数 「小数と整数」 「1/10の位までの小数のしくみを振り返り、整数・小数の単位の学習計画を立てる。」 ・橋の写真から、橋の長さに関心をもち、自分の考えを発表する。 図画工作 「自信をもって」 ゴッホの作品を実景や写真と比較しながら鑑賞する。 「心に残ったこと」 自分の生活を振り返って絵に描こうとする場面を思い起こす。	石井睦美の著書 「ちっちゃな家族」 石井睦美/作 ポプラ社 「五月のはじめ 日曜日の朝」 石井睦美/作 岩崎書店 「卵と小麦粉それからマドレーヌ」 石井睦美/作 BL出版 「おめでとがういっばい」 石井睦美/作 岩崎書店
	集団読書の指導 ・話し合い	国語(エ) 「読む」ということ 文章を読むとき、自分は何んことを大切にしているか考える。 今までの読書経験と比べながら、「文章の読み方」について意見を交流する。	社会 「米のふくろから米の産地に迫ろう」 米のふくろから気づいたことを発表する。	ゴッホの画集 「はじめてであらう絵画の本 10」 あすなろ書房 「名画の秘密をさぐる ファン・ゴッホ」 長島良三 他/訳 岩崎書店 「はじめてであらう絵画の本 ゴッホ」 アーネスト・ラポフ/編 あすなろ書房
	楽しみ読みの読書 ・通読 ・ひとり読み ・図書の選択 ・学校図書館のしくみとその利用 ・読書の記録	国語(ア) 「こんなこと、したいな」 好きな作家や興味あるテーマ・分野の本を図書館で探し読み、気に入った言葉や大切だと感じる言葉を記録する。	社会 「米のふくろから米の産地に迫ろう」 稲作について興味・関心をもち、産地の特徴や稲作農家の人々の工夫や努力について調べる。	米づくりに関する図書 「わたしたちの生活と産業 2米をつくる」 飯島博/著 ポプラ社 「ふるさとのからし 日本のまちとむら 米づくりのむら」 小峰書店 「日本の産業シリーズ お米がとどくまで」 岡田まさる/文 岩崎書店 「農林水産業はすてきな仕事 1米をつくる」 山口哲夫 他/著 文研出版
	楽しみ読みの読書 ・音読・朗読 ・図書の選択 ・考え読みの指導 ・想像読み	国語(ア)(ウ)(エ) 「ふるさと」「海雀」 「ガラス窓の向こうで」 「ふるさと」の詩から、文語について理解し、三編の詩を音読して感想をもつ。 情景を想像しながら読む。 読みたい詩を選んで、工夫して朗読をする。	社会 「米のふくろから米の産地に迫ろう」 写真やビデオ、TPシートなど具体的にイメージできる資料から予想をして発表する。	高野辰之に関する図書 「信州ふるさとの歌の風景 県歌「信濃の国」作詞作曲100周年記念」 吉本隆行/監修 ほおずき書籍 北原白秋の詩集 「赤い鳥小鳥 北原白秋童謡詩歌集」 北原白秋/著 岩崎書店 原原道造の詩集 「ソノチホ 原原道造によせて 葉祥明画集」 葉祥明/著 サンリオ
5月	考え読みの指導 ・まとまり読み ・想像読み	国語(イ)(ウ)(エ)(オ) 「海にねむる未来」 書かれている内容について事実や意見の関係を理解して、自分の考えを明確にして読む。 筆者の考えをとらえる。 題名や海のビデオから想像を広げ、全文を通読し、内容を予想する。 事例と事実の書かれている段落を意識し、読み進める。 事例を読み、要旨や要点をまとめる。	社会 「庄内平野の土地と気候と米づくり」 写真やビデオ、TPシートなど具体的にイメージできる資料から予想をして発表する。	海に関する図書 「海 知られざる世界 第4巻」 日本放送出版協会
	調べ読みの指導 ・調べ資料の活用 ・見つけ読み	国語(ア)(イ)(オ) 「言葉の研究レポート」 課題を解決するための方法と記録の仕方を考える。 教材文を参考に、記録の仕方を工夫する。 自分の課題を解決するために調べる。 ・資料を整え、読み取る。 全員のレポートを製本して、「言葉百科事典」を作る。 ・カードへのまとめ方、レポートの書き方を調べる。	社会 「庄内平野の土地と気候と米づくり」 米作り農家の工夫について自分の調べたことを調べ、互いの意見を交流する。	言葉に関する図書 「ふしぎびつくり語源博物館」全5巻 江川清/監 ほんぶ出版 「まちがいだらけの言葉つかい」全7巻 西本鶏介/監 ポプラ社
6月	調べ読みの指導 ・漢字辞典、国語辞典の使い方	国語(ア)(オ) 「漢字の成り立ち」 漢字の成り立ちの四つの型をもとに、既習の漢字を調べまとめる。	社会 「庄内平野の土地と気候と米づくり」 米作り農家の工夫について自分の調べたことを調べ、互いの意見を交流する。	漢字に関する図書 「漢字なんでも大研究」全10巻 西本鶏介/監 ポプラ社
	考え読みの指導 ・想像読み ・まとまり読み ・感想文の書き方 集団読書の指導 ・話し合い	国語(イ)(ウ)(エ) 「プラム・クリークの土手で」 登場人物の心情や行動、場面の情景を想像して読む。 登場人物の心情や行動について、叙述をもとにして読む。 登場人物について、自分の思いを話し合う。 自分の選んだ方法で感想をまとめる。	社会 「庄内平野の土地と気候と米づくり」 米作り農家の工夫について自分の調べたことを調べ、互いの意見を交流する。	ローラ＝インガルス＝ワイルダーの著書 「大草原の小さな家」 「大きな森の小さな家」 「プラム・クリークの土手で」 「シルバー・レイクの岸辺で」 「農場の少年」 ローラ＝インガルス＝ワイルダー/作 福音館書店 「ローラの思い出アルバム」 ウィリアム・アンダーソン/編 岩波書店
7月	集団読書の指導 ・話し合い ・考え読みの指導 ・感想文の書き方	国語(ア)(ウ)(エ) 「宇宙をみたまよ」 驚いたことやもっと知りたいことをつかむ。 ・宇宙について知っていることを話し合う。 構成を考えて感想をまとめる。	理科 「自由研究」 「自由研究のテーマについて話し合い、計画を立てる。」	宇宙に関する図書 「宇宙をみたまよ! 宇宙へ行くと、ほんとうがみえてくる」 松田素子/文 偕成社 「宇宙と地球環境を考える本」全6巻 NASDA文庫研究会/監 偕成社 自由研究に関する図書 「3日でできる自由研究 5年生」 チャイルドコスモ/編 ポプラ社
	楽しみ読みの指導 ・図書の選択	国語(ア) 「本と出会う」 自分の読書生活を振り返り、本を選ぶときの視点を紹介し合う。 ・自分の選ぶ本の傾向、読み方など		冒険や挑戦をテーマにした本 「二年間の休暇」 ジュール・ベルヌ/作 福音館書店 「ジーク」 斎藤洋/作 偕成社 「ママが風になれたら」 岸川悦子/作 ポプラ社 「緑の森の神話」 折原みと/作ポプラ社 「森のささやき」 葉祥明/作 出版文化社 「地球の子どもたちへ」 シム・シメル/文 小学館 「若草物語」 L・M・オルコット/作 福音館書店
9月	読書集の指導 ・テーマ読み ・シリーズ読み 楽しみ読みの指導 ・図書の選択 ・通読 ・ひとり読み 考え読みの指導 ・感想文の書き方 集団読書の指導 ・発表会	国語(ア)(エ) 「読書発表会を開こう」 「長編の物語を読もう」、「心の触れ合いを味わおう」、「『宇宙船地球号』を考えよう」 「冒険や挑戦の話を読もう」という四つのテーマを確かめ自分の読む本を決める。 「学習の窓」を参考にして、読書感想文を書く。 読んだ本の内容や感想を出し合う。 本の紹介の仕方を工夫する。 夏休みの読書計画表を用意し、生活に生かすことができるようにする。	理科 「生命のつながり」 それぞれの命がどのように受け継がれていくのかをもとに、生命のつながりについて発表する。	小泉周二の著書 「太陽へ」 小泉周二詩集 教育出版センター 「音読のための詩」全6巻 ポプラ社
	楽しみ読みの指導 ・音読	国語(ア) 「あなたへ」 語感や言葉の使い方に関心をもち、詩の表現を工夫して音読する。	道徳 「手のひらのかぎ」 命の尊さがわかり、命を大切にしようとする気持ちをもつ。	生きることのすばらしさを伝える図書 「いきいきノンフィクション」 全30巻 ポプラ社

9月	調べ読みの指導 ・国語辞典、漢字辞典の使い方	国語（言語事項） 「熟語作り」〔四年生の漢字〕 熟語を作ったり、短文の中で使ったりする。 ・反対の意味の熟語を作る。 ・三字以上の熟語を作る。		熟語に関する図書 「クイズでおぼえる国語」 「クイズ漢字熟語」 草野公平/作 あかね書房 「まんが四字熟語なんでも事典」 金子守/著 金の星社 「おもしろ熟語話」全5巻 小暮正夫/文 岩崎書店 「まちがいだらけの言葉使い 5漢字・熟語」 西本鶏介/監 ポプラ社
10月	考え読みの指導 ・まとめ読み ・想像読み	国語（イ）（ウ） 「わらくつの中の神様」 大事にしたい言葉をよりどころにして、文章の構成、登場人物の人物や情景を叙述に即して読む。		杉みき子の著書 「長い長いかくれんぼ」 杉みき子自薦童話集 新潟日報事業者 「小さな雪の町の物語」 杉みき子/作 童心社 心の通い合いをテーマにした本 「小犬の裁判はじめます」 今関信子/作 童心社
	調べ読みの指導 ・図書や資料の利活用	国語（ア） 「方言と共通語」 様々な方言を調べ、その意味を理解し、方言の良さを味わう。		方言に関する図書 「日本の方言大研究」全7巻CD付き ポプラ社 「方言はまほうのことば！」 彦坂佳吉/作 アリス館 郷土の研究「方言をしらべよう」全10巻 ベネッセコーポレーション
11月	調べ読みの指導 ・図書や資料の利活用	国語（言語事項） 「読む人のことを考えて」 難しい言葉をわかりやすく書き直す必要性と工夫を知る。		
	考え読みの指導 ・想像読み ・まとめ読み ・集団読書の指導 ・話し合い	国語（ア）（イ）（エ）（オ） 「一秒が一年をこわす」 挿絵や写真、ビデオなどを用いて地球に何が起きているか考える。 筆者の考え方を読み取り、自分が考えたことを発表し合う。 段落ごとに要点をまとめる。 要点をとらえて、自分の考えを書く。 筆者の言っていることと自分の身のまわりの生活との関係を考え、自分が考えたことを発表し合う。	理科 「流れる水のはたらき」 洪水を防ぐ工夫について資料などを使って調べる。 道徳 「失われてゆく緑」 自然環境の問題を身近なこととして捉え自然を大切にしている態度を養う。	環境問題に関する図書 「水と生命と地球」 半谷高久、小椋和子/作 小峰書店 「神々の住む深い森の中で」 丘修三/作 フレーベル館 「海を豊かにするのは森」 本田暁/作 リブリオ出版 「母なる地球のために」 シム・シメル/文 小学館 「地球の大きさを守ろう」 ジョン・ペインズ/作 備成社
	集団読書の指導 ・話し合い	国語（エ） 「ホテルのすむ水辺」 筆者の意図を探り、自分の生活や身のまわりのことについて考えたことを話し合う。	道徳 「緑よよみがえれ」 自然のすばらしさを知り、自然を愛護しようとする心情を育てる。	ホテルに関する図書 「森の新聞 ホテルの里」 大場信義/著 フレーベル館
読書集会の指導 ・テーマ読書 ・集団読書の指導 ・話し合い ・発表会 調べ読みの指導 ・図書や資料の利活用 ・視聴覚機器の利用	国語（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ） 「子ども環境会議」を開こう 「より確かな情報を」 身のまわりの環境について、選んだテーマによって追究活動を行う。 ・図書やインターネットを使って情報を収集する。 ・資料を読み比べて、必要な資料を選ぶ。 ・地域に出て、身のまわりの人にインタビューする。 ・地域を歩いて、写真やビデオで資料を作る。 表現方法を選び、プレゼンテーションの資料を作成する。 調べたことの中から、必要な事柄や資料を選び整理する。 ・コンピュータを使って ・ビデオの撮影 ・新聞 ・パンフレット ・OHPなど 教材を読んでより確かな「情報収集・情報加工・情報発信」をする効果的な方法について考え、経験を話し合う。	社会 「わたしたちの生活と情報」 生活の中で、情報を得る方法を発表する。 図画工作 「エコロジー生物登場」 身のまわりには様々な材料があることに気づき、材料の違いを生かした作品作りを考える。		
12月	調べ読みの指導 ・国語辞典の使い方	国語（言語事項） 「国語辞典を使って」 多義語や複合語について知識をもち、国語辞典を使って調べる。		国語辞典
	調べ読みの指導 ・国語辞典の使い方 ・集団読書の指導 ・話し合い	国語（言語事項） 「漢語と和語」 言葉の分け方には漢語と和語があり、それぞれを表す意味の違いがあることを知る。 教材の例から国語辞典を使って意味調べをする。 漢語・和語での感じ方が違うことを相手にわかるように伝え方を工夫する。		漢語と和語に関する図書 「和語漢語」文化庁/編 大蔵省印刷局 「国語に強くなる日本語練習 5年生」 横山駿也/著 ポプラ社
1月・2月	集団読書の指導 ・発表会	国語 「言葉を集め、物語を作る」 物語の発表会を開き、作品のよさを味わう。		
	調べ読みの指導 ・国語辞典の使い方	国語 「漢字の読み方と使い方」 多義語や複合語について知識をもち、国語辞典を使って調べる。		国語辞典
2月	読書集会の指導 ・表現	国語 「ニュースを発信しよう」 ニュースを伝える 伝え方を工夫して発信しよう 新聞記事の特徴を理解する。 ニュースについて知る。 ・新聞・テレビ・ラジオ 放送原稿の特徴を理解する。 ニュースを伝える工夫や特徴についてまとめる。		ニュースに関連する図書 「テレビ番組をつくる」 NHK・朝のニュース番組 飯島博/作 ポプラ社 「めざせ！あこがれの仕事」 2新聞記者・キャスター・ディレクター 渡辺三枝子/監 ポプラ社
3月	考え読みの指導 ・まとめ読み ・想像読み ・集団読書の指導 ・発表会 読書集会の指導 ・表現 ・テーマ読み ・シリーズ読み	国語（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ） 「大造じいさんとガン」 「月夜のみみずく」 叙述に基づいて、情景や登場人物の心情をとらえ、表現を味わいながら読む。 自分で学習したい教材を選び、学習活動を選ぶ。 ・音読発表・感想文・主人公への手紙 ・続き話・主人公の日記・紙芝居 ・同じ作者の別の話を読む・同じような話を読む など		椋鳩十の著書 「月の輪グマ」 椋鳩十/作 ポプラ社 「大空に生きる」 椋鳩十/作 ポプラ社 ジェイン＝ヨ・レンの著書 「月夜のみみずく」 ジェイン＝ヨ・レン/作 工藤直子/訳 備成社
	他学年とのつながり	（ア）3、4年での、「幅広く」という読書の量や質を高める内容を受けて、より主体的な立場で書物や図書資料を選び取っていくことを主眼に置かれている。 （イ）3、4年で内容の「中心」を押さえる学習を受けて、内容を的確に押さえながら要旨をとらえることがねらいである。中学校1年の「イ」文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約することへ発展する。 （ウ）従来2～5年まで継続して指導してきた登場人物の心情の読み取りを、5、6年において重点化したものである。5、6年では登場する人物像について、人物の心情を表現や叙述と関係づけて、自分の読みを確かなものとする。		

[付表1](6)第6学年 読書活動年間計画

月	指導方法	教科・道徳・特別活動	参考図書	
4月	集団読書の指導 ・話し合い ・考え読みの指導 ・想像読み ・まとめ読み	国語(ウ)(工) 「森へ」 二枚の写真からわかったことや感想を話し合う。 静かで雄大なアラスカの自然を想像しながら、気に入った場面の情景について発表する。 ・視点...聞こえてくる音、声、見えてくるもの、肌で感じられること、写真や自分の経験などをもとに自然とのふれあいについては話し合う。 ・視点...自然に対する驚きや感想、筆者の体験の深さや命との触れ合い、筆者の感動や心の動き 話し合いの感想を発表する。 ・視点...考えが深まったこと、新たに気づいたこと、自分の考えと違う考え	理科 「わたしたちをとりまく環境と生活」 資料をもとに、生物と環境とのかわりについての話し合う。	星野道夫の著書 「クマよ」 星野道夫/作 福音館書店 「アラスカたんけん記」 星野道夫/作 福音館書店 「森へ」 星野道夫/作 福音館書店 「ナヌークの贈りもの」 星野道夫/著 小学館 「アラスカ光と風」 星野道夫/著 福音館書店
	考え読みの指導 ・まとめ読み	国語(イ) 「「聞く」ということ」 内容を的確に把握するために、書かれている事柄を整理しながら読む。		
	楽しみ読みの指導 ・図書の選択 ・ひとり読み ・通読 ・読書の記録 ・読書集の指導 ・表現	国語(ア) 「こんなこと、したいな」 人物辞典を作る。 自分で選択した本を読んでおく。	道徳 「みんな同じ人間なんだ」 ガンジーの粘り強く取り組む姿勢から勇気と努力の大切さを理解し、その思いに共感することができる。	伝記 「伝記 世界を変えた人々」全20巻 偕成社 「愛と勇気をあたえた人びと」全8巻 リチャード・テームズ/著 国土社 「作曲家の物語シリーズ」全15巻 リブリオ出版
5月	考え読みの指導 ・見つけ読み ・読書集の指導 ・表現	国語(オ) 「短歌・俳句を味わおう」 短歌や俳句の形式や表現の仕方を意識して読む。 自分の好きな短歌・俳句を選び歌集や句集を作る。		短歌や俳句に関する図書 「はじめてであう 俳句と短歌の本」 三谷勲彦/編 あすなろ書房 「まんがで学習 俳句・短歌・川柳」全6巻 小林清之助 他/編 あかね書房
	考え読みの指導 ・まとめ読み ・読書集の指導 ・表現	国語(工)(書くこと) 「砂漠に挑む」 筆者の訴えに対する自分の考えをまとめておく。 ・キーワード...人口増加、食料不足、地球規模の問題 みんなに訴えたいテーマを決め、新聞を作る。	道徳 「一ふみ十年」 自然のすばらしさについて話し合う。 「自然と人間とのつながり」 自然と人間とのつながりに目を向け、いろいろなかかわりの中で生かされていることに気づく。	農業で活躍した人に関する図書 「砂漠に緑の園を」 ~地球の緑をまもりつづける向後元彦~ 日野多香子/作 PHP研究所 「ブータンの朝日に夢をのせて」 小暮正夫 くもん出版
6月	集団読書の指導 ・話し合い ・読書集の指導 ・表現	国語 「ガイドブックを作ろう」 いろいろなガイドブックを集め、効果的な表現について話し合う。 ガイドブックを活用する方法を考える。置く場所など	理科 「生き物と養分」 人が飼育している動物の食べ物について調べる、まとめる。	ガイドブック
	調べ読みの指導 ・漢字辞典の使い方	国語(言語事項) 「同じ訓を持つ漢字」 身のまわりの漢字で、同じ訓で意味の違う漢字調べをする。		漢字辞典
7月	考え読みの指導 ・想像読み ・まとめ読み ・楽しみ読みの指導 ・ブックトーク ・通読 ・ひとり読み ・図書の選択 ・読書の記録 ・読書集の指導 ・表現 ・テーマ読み ・シリーズ読み ・集団読書の指導 ・発表会	国語(ア)(ウ)(工) 「やまなし」 「イーハトーブの夢」 作家と作品に出会おう 「作家と作品」展示コーナーを作ろう 情景を想像しながら読み取る。 宮沢賢治のいろいろな作品を読み、賢治の生き方や考え方をとらえる。 「椋鳩十」「金子みすゞ」 「手塚治虫」 「エーリッヒ=ケストナー」 「宮沢賢治」の中から読みたい作家を決め、その作家の作品を読む。 『作家と作品』展示コーナーを作る。		宮沢賢治の著書 「宮沢賢治絵巻話集」全15巻 くもん出版 「注文の多い料理店」三起商行 「銀河鉄道の夜」偕成社 椋鳩十の著書 「人間はすばらしい」椋鳩十/作 偕成社 「椋鳩十動物話集」全15巻 小峰書店 金子みすゞの著書 「明るいほうへ」 「わたしと小鳥とすずと」 「このみちをゆこうよ」 金子みすゞ/作 ULA出版局 手塚治虫の著書 「マンガの宇宙へ旅立つ」 小野耕世/作 フロンズ新書 「手塚治虫-少年マンガの世界-」 石子順 童心社 エーリッヒ=ケストナーの著書 「動物会議」ケストナー/作 岩波書店 「小さな男の子の旅」 ケストナー/作 小峰書店
	楽しみ読みの指導 ・音読 ・考え読みの指導 ・まとめ読み	国語(ア)(イ)(オ) 「あいたくて」 作者の生きる喜びや希望を音読で表す。 作者の表現の工夫について読み取る。		工藤直子の詩集 「あ・い・た・く・て」 工藤直子/作 大日本図書 女性詩人の詩集 「あなたが好き」 立原えりか/作 大日本図書 「星のおしごと」 新川和江/作 大日本図書
9月	調べ読みの指導 ・漢字辞典の使い方	国語(言語事項) 「漢字の読み方」 [五年生の漢字] 同じ読み方をする漢字や音読み・訓読みについての理解を深め、活用できるようにする。		漢字辞典
	考え読みの指導 ・まとめ読み	国語(イ)(工)(オ) 「二つの意見から」 「推測する」ということ 自分の考えを広げたり深めたりするために事象(例)と意見との関係を押さえて読む。 「推測する」を読み、要旨をつかむ。 自分の経験に照らし合わせて読む。		

10月	調べ読みの指導 ・見つけ読み ・集団読書の指導 ・話し合い 読書集の指導 ・テーマ読み ・シリーズ読み ・楽しみ読みの指導 ・ブックトーク ・通読 ・ひとり読み ・図書の選択 ・読書の記録	国語(ア)(イ)(エ)(オ) 「海の命」 優れた表現や叙述を見つながら前文を読む。 登場人物の心情や場面の様子を自分の決めた課題をもとに、学習方法を考えて読み取り、交流する。 ・登場人物の生き方や考え方を読み取る。 「海の命」とは何かについて自分の考えをまとめ交流する。 同じ作者の他の作品や他の命にかかわる作品を読んで「命」について考えを深める。 「命」について互いの考えを交流する。		立松和平の著書 「山のいのち」「海のいのち」 立松和平/作 ポプラ社 「街のいのち」「田んぼのいのち」 立松和平/文 くもん出版 命を考える図書 「夏の庭-The friends-」 湯本香樹実/作 徳間書店 「ぼくのいのち」 細谷亮太/作 岩崎書店	
11月	調べ読みの指導 ・見つけ読み ・国語辞典、外来語辞典の使い方 考え読みの指導 ・まとめ読み ・楽しみ読書の指導 ・話し合い 楽しみ読みの指導 ・音読 考え読みの指導 ・まとめ読み 調べ読みの指導 ・図書や資料の利活用	国語(イ)(エ)(オ) 「外来語と日本語」 外来語の使われ方に目を向けるため、外来語集めをする。 集めた外来語の意味や由来を国語辞典や外来語辞典を使って調べる。 課題に沿って教材文を読み、書かれている内容を的確に読み取る。 事象と感想意見との関係を押さえながら、内容を的確にまとめる。 まとめたことを互いに交流し、外来語と文化についての考えを深める。 国語(ア)(イ)(エ)(オ) 「現代を生きる五音・七音」 「言葉と文化」展示館へ、ようこそ」 俳句や短歌を音読し、言葉のリズムや響きを感じ取る。 「要約」の大切さやその方法について知り、二つの教材文のうちどちらかを選んで要約する。 自分の課題を解決するために、必要な図書の種類を考えたり、図書の利用の仕方を考えたりしながら図書資料を活用する。		日本語に関する図書 「にほんご」 安野光雅 他/作 福音館書店 外来語に関する図書 「まちがいだらけの言葉づかい」 6 外来語」 西本鶏介/監 ポプラ社 国語辞典、外来語辞典	
12月	調べ読みの指導 ・漢字辞典の使い方 読書集の指導 ・表現 調べ読みの指導 ・図書や資料の利活用 考え読みの指導 ・まとめ読み	国語(言語事項) 「漢字辞典を使って」 漢字辞典を使って、意味調べをする。 目的に応じて、漢字辞典を活用する。 国語 「送り仮名」 送り仮名の決まりについてまとめて新聞に表す。 目的や意図に応じて、図書資料で調べたり友達と相談したりしながら、読み取った内容をまとめる。		漢字辞典 漢字辞典	
1月	調べ読みの指導 ・漢字辞典の使い方	国語(言語事項) 「熟語の成り立ち」 漢字二字の熟語の構成について調べ、使い方に習熟する。 漢字三字、四字以上の熟語の構成についても調べる。		熟語に関する図書 「クイズでおぼえる国語」 クイズ漢字熟語」 草野公平/作 あかね書房 「おもしろ熟語語」全5巻 小暮正夫/文 岩崎書店 「まちがいだらけの言葉使い」 漢字・熟語」 西本鶏介/監 ポプラ社	
2月	調べ読みの指導 ・見つけ読み ・図書や資料の利活用 楽しみ読みの指導 ・図書の選択 調べ読みの指導 ・国語辞典の使い方	国語(ア)(イ)(エ)(オ) 「平和のとりにてを築く」 「自分の考えを発信しよう」 筆者が伝えたいことがわかる言葉や、自分の心が揺り動かされたところを見つけてながら本文を読む。 感想を交流し、筆者が伝えなかったことは何か考える。 自分が伝えたいテーマを絞る。 障害のある人とともに生きるためにできること。 ・原爆の恐ろしさや平和の大切さ ・情報リテラシーについて ・絶滅しそうな動物を守る ・一つひとつの命の大切さ など 自分の意見を伝えるために必要な情報を集める。 収集した材料から、必要のある材料を選び、整理する。 国語(言語事項) 「覚えておきたい言葉」 四字熟語に親しみ、意味を理解して使えるようにする。	理科 「生き物のくらしと自然環境」 生き物と水のかかわりについて、自分の調べたい方法で調べ、発表する。		平和に関するの図書 「広島にチンチン電車の鐘が鳴る」 きむらけん/作 汐文社 「白旗の少女」 比嘉富子/作 講談社、青い鳥文庫 「サニーのおねがい」 地雷ではなく花をください」 柳瀬房子/作 自由国民社 「トットちゃんとアフガニスタンの子どもたち」 田沼武能/写真 岩崎書店
3月	考え読みの指導 ・まとめ読み 考え読みの指導 ・まとめ読み 考え読みの指導 ・まとめ読み	国語(ア)(イ)(エ)(オ) 「きいちゃん」 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読む。 国語(ア)(イ)(エ)(オ) 「生きる」 叙述に即して筆者の主張や表現の工夫について読み取る。 国語(ア)(イ)(エ)(オ) 「言葉の橋」 叙述に即して筆者の主張や表現の工夫について読み取る。	道徳 「祖母のつえ」 生命がかげがえのないものであることを知り、生命を大切に力強く生きようとする態度を養う。		バリアフリーに関する図書 「ぼくのお姉さん」 丘修三/作 偕成社 「あんちゃんが行く」 丘修三/作 岩崎書店 「ママが風になれたら」 岸川悦子/著 ポプラ社 詩集 「詩は宇宙 6年」 水内喜久雄/編 ポプラ社 「どきん 谷川俊太郎少年詩集」 谷川俊太郎/著 理論社 卒業にあたって 「二十一世紀に生きる君たちへ」 司馬遼太郎/作 世界文化社 「君たちはどう生きるか」 吉野源三郎/作 ポプラ社
他学年とのつながり		(ア) 3、4年での、「幅広く」という読書の量や質を高める内容を受けて、より主体的な立場で書物や図書資料を選び取っていくことを主眼に置かれている。 (イ) 3、4年で内容の「中心」を押さえる学習を受けて、内容を的確に押さえながら要旨をとらえることがねらいである。 中学校1年の「イ」文章の展開に即して内容をとりえ、目的や必要に応じて要約すること」へ発展する。 (ウ) 従来2～5年まで継続して指導してきた登場人物の心情の読み取りを、5、6年において重点化したものである。 5、6年では登場する人物像について、人物の心情を表現や叙述と関係づけて、自分の読みを確かなものとする。			

〔付表2〕 読書の指導方法と内容一覧表

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
a. 楽しみ読みの指導	読み聞かせ ブックトーク 通読 ひとり読み 図書選択 ・自分の読みたい本を選ぶ	読み聞かせ ブックトーク 通読 ひとり読み 図書選択 ・自分の読みたい本を選ぶ ・話し、読書、科学読み物など	読み聞かせ ブックトーク 通読 ひとり読み 図書選択 ・自分の読みたい本を選ぶ ・詩、図鑑、写真集 ・目的にあった本を選ぶ	読み聞かせ ブックトーク 通読 ひとり読み 図書選択 ・自分の読みたい本を選ぶ ・物語、詩、自然を觀察した読み物など ・掲示物に関心をもつ	読み聞かせ ブックトーク 通読 ひとり読み 図書選択 ・好きな作家、興味のあるテーマ、分野の本を選ぶ ・本を選ぶ視点を話し合う ・自分の選書傾向を知る ・本の紹介記事を参考にして選書する ・読書案内や図書リストを参考に ・図書館員に聞く ・作者紹介欄で同じ作者のほかの本を探す ・インターネットで本の情報を得る	読み聞かせ ブックトーク 通読 ひとり読み 図書選択 ・好きな作家、興味のあるテーマ、分野の本を選ぶ ・本を選ぶ視点を話し合う ・自分の選書傾向を知る ・本の紹介記事を参考にして選書する ・読書案内や図書リストを参考に ・図書館員に聞く ・作者紹介欄で同じ作者のほかの本を探す ・インターネットで本の情報を得る
	音読 ・工夫（大きさ、発音） ・楽しく声に出す ・濁音、促音、長音、拗音のある言葉 ・助詞の使い方	音読 ・工夫（大きさ、発音、速さ、微音読） ・擬態語、擬声語など ・暗唱 ・問いつけ読み ・文の読み分け ・問いつけ読み	音読 ・相手や目的に応じた適切な音量や速さ ・内容や場面の様子が現れるように読む ・問の取り方に気をつける ・グループ読み ・ひとり読み ・動作化 ・互いに感想を伝え合う	音読 ・相手や目的に応じた適切な音量や速さ ・内容や場面の様子が現れるように読む ・問の取り方に気をつける ・グループ読み ・ひとり読み ・動作化 ・互いに感想を伝え合う	音読 ・言葉のリズムや響きを感じ取る	音読 ・言葉のリズムや響きを感じ取る
	学校図書館のしくみと利用 ・本の借り方、返し方	学校図書館のしくみと利用 ・本の種類と並べ方 ・図書館の本は、いろいろな条件に分けられていることを知る。	学校図書館のしくみと利用 ・地域の図書館の利用 ・コンピュータでの検索 ・分類、配架のしくみ	学校図書館のしくみと利用 ・地域の図書館の利用 ・コンピュータでの検索 ・分類、配架のしくみ ・図書館の工夫に気づく	学校図書館のしくみと利用	学校図書館のしくみと利用
		読書の記録 ・書名や題名、作者名の記録簡単な感想	読書の記録 ・読んだ日、題名、作者名、言感想 ・わかったこと、感じたことを記録する ・読書ノート・カード	読書の記録 ・読んだ日、題名、作者名、言感想 ・わかったこと、感じたことを記録する ・読書ノート・カード	読書の記録 ・気に入った言葉の記録をする	読書の記録 ・気に入った言葉の記録をする
d. 調べ読みの指導	体験 ・見学、観察など 見つけ読み ・調べたいことを見つけるために読む	体験 ・見学、観察など 見つけ読み ・特徴を理す言葉に気をつけて読む ・調べたいことを見つけるために読む	体験 ・見学、観察など 見つけ読み ・段落の中心となる文や大事な言葉を見つけるために読む ・目的に応じ、大切なところの細部に注意して読む。	体験 ・見学、観察など 見つけ読み ・段落の中心となる文や大事な言葉を見つけるために読む ・調べたいことを見つけるために読む ・目的に応じ、大切なところの細部に注意して読む。	体験 ・見学、観察など 見つけ読み ・課題解決の仕方を意識して読む ・優れた表現や叙述を見つけてながら読む ・自分の決めた課題をもとに学習方法を考えながら読む ・登場人物の生き方や考え方を考えながら読む ・筆者が伝えたいことがわかる言葉を見つけてながら読む	体験 ・見学、観察など 見つけ読み ・形式や表現の仕方を意識して読む ・優れた表現や叙述を見つけてながら読む ・自分の決めた課題をもとに学習方法を考えながら読む ・登場人物の生き方や考え方を考えながら読む ・筆者が伝えたいことがわかる言葉を見つけてながら読む
	図書や資料の利活用 ・図鑑の利用	図書や資料の利活用 ・図鑑の利用 ・写真やパンフレットの利用	図書や資料の利活用 ・資料の探し方、メモの作り方、順序を考えたまとめ方 ・目次、索引の活用 ・図書の分類 ・ガイドブックの利用 ・いろいろな調べ方（電話、手紙、本、パンフレット）	図書や資料の利活用 ・ポスターの活用 ・図書の分類 ・グラフなどの利用 ・引用部分のまとめ方 ・資料の探し方、メモの作り方、順序を考えたまとめ方 ・百科事典の利用	図書や資料の利活用 ・課題解決のための方法と記録の仕方 ・資料の読み取り、選択、読み比べ ・カードへのまとめ方 ・レポートの書き方 ・難しい言葉をわかりやすく書く工夫	図書や資料の利活用 ・課題解決のための方法と記録の仕方 ・資料の読み取り、選択、読み比べ ・カードへのまとめ方 ・レポートの書き方 ・難しい言葉をわかりやすく書く工夫
		視聴覚機器の利用 ・VTRの利用	視聴覚機器の利用 ・OHP	視聴覚機器の利用 ・OHP	視聴覚機器の利用 ・インターネット・OHP ・ビデオ、デジカメ	視聴覚機器の利用 ・インターネット・OHP ・ビデオ、デジカメ
			国語辞典の使い方 ・言葉の配列（五十音順、濁音、半濁音、拗音、促音などの配列） ・見出し語の形 ・音、訓読みの特徴	国語辞典の使い方 ・熟語の調べ方 ・「熟語索引」「部首別引き」の引き方を理解する。	漢字辞典の使い方 ・あし、ふく、かんむり、あし、ふく、たれ、かまゑなどの種類分け ・漢字の組み立て	漢字辞典の使い方 ・漢字の成り立ち
c. 考え読みの指導	想像読み ・文や絵、写真から想像をふくらませる まどまり読み ・あらすじをとらえる	想像読み ・文や絵、写真から想像をふくらませる ・場面と場面とを想像によつてつなぎ、読む ・筆者の考え まどまり読み ・叙述に即して内容の大体を読む ・順序に気をつけて内容の大体を読む	想像読み ・文や絵、写真から想像をふくらませる ・場面と場面とを想像によつてつなぎ、読む ・筆者の考え まどまり読み ・改行段落の意味、段落ごととの関係をとらえる ・段落の要点や要旨をとらえる ・叙述に即した読み取り ・説明文の読み方がわかる ・段落ごとに小見出しをつける ・指示語、接続語	想像読み ・文や絵、写真から想像をふくらませる ・場面と場面とを想像によつてつなぎ、読む ・筆者の考え まどまり読み ・改行段落の意味、段落ごととの関係をとらえる ・段落の要点や要旨をとらえる ・叙述に即した読み取り ・説明文の読み方がわかる ・書きたい中心を明確にした構成を工夫する	想像読み ・文や絵、写真から想像をふくらませる ・場面と場面とを想像によつてつなぎ、読む ・筆者の考え まどまり読み ・事実と意見の関係を理解して、自分の考えを明確にして読む ・筆者の考えをとらえる ・事例と事象の書かれている段落を意識する ・要旨や要点をまとめる ・登場人物の心情や行動、情景について叙述をもとに読む	想像読み ・文や絵、写真から想像をふくらませる ・場面と場面とを想像によつてつなぎ、読む ・筆者の考え まどまり読み ・筆者の感動や心の動き、表現の工夫などを読む ・事柄を整理しながら読む ・筆者の考えから自分の考えをまとめる ・事象と意見との関係を読む ・自分の経験に照らし合わせて読む ・書かれている内容を的確のよさを味わう ・要約の方法を知り、要約する
		感想文の書き方 ・簡単な組み立てメモを作り、書きたいことや書く順序をはっきりさせて書く はじめ、強く思ったこと中、自分の体験と比較あわり、主人公と自分	感想文の書き方 ・文脈における言葉の意味、語感などの幅の理解や読み取りをする ・思ったこと、考えたこと、これからの生活に生かしたいこと ・段落を考えた構成をする	感想文の書き方 ・文脈における言葉の意味、語感などの幅の理解や読み取りをする ・はしめ、なか、おわりをそれぞれ一段落と考える ・書きたい中心を明確にした構成を工夫する	感想文の書き方 ・自分の選んだ方法で、構想を考えて感想をまとめる ・感じたこと、考えたことをメモする ・心に残ったところから考えたことをメモする。 ・自分自身のことと比べて思ったことを書く	感想文の書き方 ・自分の選んだ方法で、構想を考えて感想をまとめる ・感じたこと、考えたことをメモする ・心に残ったところから考えたことをメモする。 ・自分自身のことと比べて思ったことを書く
		話し合い ・心に残ったところ、好きなところ 発表会 ・好きな本や登場人物の紹介 ・絵本、パンフレット、クイズ、新聞、ポスターなど、自分の作品を紹介する ・紙人形劇や読み聞かせによる音読発表	話し合い ・感想や意見 発表会 ・好きな本や登場人物の紹介 ・絵本、パンフレット、クイズ、新聞、ポスターなど、自分の作品を紹介する ・紙人形劇や読み聞かせによる音読発表	話し合い ・叙述や絵、写真などに基づいた意見交流 ・読書経験 発表会 ・パンフレットや紹介文、本の帯などについて発表する ・場面をつなぐ、場面の様子が表れるようにする ・工夫して音読発表会をする ・ひとりの違いに気づく	話し合い ・叙述や絵、写真などに基づいた意見交流 ・読書経験 発表会 ・ポスターや紹介文などについて発表する	話し合い ・叙述や絵、写真などに基づいた意見交流 ・読書経験 発表会 ・物語の発表会を行い作品のよさを味わう
e. 読書集会の指導	表現 ・内容の動作化、劇化 ・紙芝居 テーマ読み ・同じタイトルやテーマの本を読む シリーズ読み ・同じ作者やシリーズの本を読む	表現 ・心に残った場面を絵や文章で表現する テーマ読み ・同じタイトルやテーマの本を読む シリーズ読み ・同じ作者やシリーズの本を読む	表現 ・大事な事柄を選択して、本の帯を作る 音読テープ、劇、絵、手紙、新聞、クイズ、動作化、物語、音読会、紙芝居、ペープサート、クイズ、登場人物の紹介、博士パンフレット、模造紙絵 テーマ読み ・同じタイトルやテーマの本を読む シリーズ読み ・同じ作者やシリーズの本を読む	表現 ・動作化 ・ポスター、新聞、ニュース番組づくり、音読、紙芝居、ペープサート、手紙、日記 ・同じ作者の作品紹介 テーマ読み ・同じタイトルやテーマの本を読む シリーズ読み ・同じ作者やシリーズの本を読む	表現 ・伝え方を工夫する ・新聞記事 ・放送原稿 ・ニュースの伝え方 ・主人公への手紙、続き話、主人公の日記、紙芝居 テーマ読み ・同じタイトルやテーマの本を読む シリーズ読み ・同じ作者やシリーズの本を読む	表現 ・人物辞典 ・歌集や句集 ・新聞 ・ガイドブック テーマ読み ・同じタイトルやテーマの本を読む シリーズ読み ・同じ作者やシリーズの本を読む